

## (1) 維管束植物概説

維管束植物は前版に掲載されている764種（ここでは種、亜種、変種、品種、雑種の分類群数とする。以下同じ）に、発行後新たに生育が確認された種と、最近絶滅の可能性が増していると考えられる148種を加えた912種について調査を行い、826種を選定した。評価については、環境省の定義を踏まえながら埼玉県独自の基準によって点数化し、定量的で客観的な評価を行った。その結果が表1である。

表1 維管束植物掲載種数

	シダ植物	種子植物				合計
		裸子植物	被子植物			
			基部被子植物	単子葉類	真正双子葉類	
県 RDB2024 合計種数 (A)	113	7	11	256	439	826
絶滅 (EX)	5		2	17	24	48
野生絶滅 (EW)					2	2
絶滅危惧 I A 類 (CR)	23	3	4	39	98	167
絶滅危惧 I B 類 (EN)	40	1		67	105	213
絶滅危惧 II 類 (VU)	23	2	1	74	110	210
準絶滅危惧 (NT)	20	1	2	42	78	143
情報不足 (DD)	2		2	17	22	43
2011 版合計種数 (参考)	113	7	—	229	415	764
在来自生種数 (B)	268	26	26	594	1,375	2,289
割合 (A/B × 100)	42.2%	26.9%	42.3%	43.1%	31.9%	36.1%

今回、前版に比べて62種の増加となったが、前版に掲載されている764種のうち今回未掲載となった種が56種で、新たに掲載された種は118種となった。

前版から本書で未掲載となった56種の理由は次のア～コによる。

### ア 安定的な生育が確認され絶滅の危険性がないもの32種 (表2)

表2 安定的な生育が確認され絶滅の危険性がない種

アケボノスミレ、アズマシヤクナゲ、アズマスケ、イヌスギナ、イワヒバ、ウスゲチヨウジタデ、オオヒメワラビ、カタヒバ、キクモ、キツネノカミソリ、キンレイカ、コイヌガラシ、コケミズ、コミヤマカタバミ、ゴヨウマツ、ササバモ、シラネワラビ、ジンジソウ、ダイモンジソウ、タカネママコナ、タマガワホトトギス、テバコモミジガサ、トウゴクシソバタツナミ、ネコノメソウ、ハンゲショウ、ホテイシダ、マツカサススキ、マルバダケブキ、ミズワラビ、ミゾコウジュ、ヤナギモ、ワダソウ
--

この中には環境省のカテゴリーでVUのタカネママコナ、NTのウスゲチヨウジタデ、コイヌガラシ、ミゾコウジュが含まれている。またミズワラビはヒメミズワラビとして評価した。これらは埼玉県内では安定的に生育が確認されており、今のところ絶滅の危険性がないと評価された。

- イ 雑種であることから除外したもの3種・・・オオヤマツツジ、コハナヤスリ、ミツミネモミ
- ウ 母種の一型と考えられ除外したもの1種・・・アカカンバ
- エ 本来の自生でない（栽培逸出）と考えられ除外したもの2種・・・オオハンゲ、ヤマアイ
- オ 過去の標本や報告の再検討で誤認が判明し除外したもの6種・・・イワオトギリ、カイジンドウ、タカネウシノケグサ、ヒロハテンナンショウ、ホナガタツナミソウ、ヤマガラシ
- カ 標本はあるが分類群の実態が不明瞭なため除外したもの1種・・・ミヤコオトギリ
- キ 誤認や新たな分類見解に基づき他種として評価したもの5種・・・ウラジロハナヒリノキ、シライヤナギ、タカネヒゴタイ、ヤナギラン、レイジンソウ

- ク 近年区別されないか、区別は不明瞭と考えられることから母種に含め評価したもの3種・・・ヒメウキガヤ、ヒロハヌマゼリ、ミヤマシャジン
- ケ 近年品種として扱われるため母種と統合して評価したもの2種・・・ナガボノアカワレモコウ、ナガボノシロワレモコウ
- コ 近年細分されているため、分割して評価したもの1種・・・スズメノトウガラシ

一方、今回新たに掲載された118種の中には、前版発行以降に県内での生育が確認された種（本調査以外論文等で発表されたものを含む）が17種含まれている（表3）。

表3 2011年以降に県内での生育が確認された種

スギカズラ、ミドリカナワラビ、ランヨウアオイ、サガミトリゲモ、クゲヌマラン、モイワラン、アオキラン、マツラン、クロヤツシロラン、アオフタバラン、ムカゴサイシン、チャシバスケ、クジュウツリスゲ、ヒロハノカラサイコ、コカイタネツケバナ、キジョラン、コキクモ

また、今回の調査では生育が確認できなかったものの、過去の県内産標本を点検し、標本が確認された種が4種（セイタカスズムシソウ、センダイタイゲキ、ミズスギナ、ドクゼリ）含まれている。

#### ○絶滅あるいは野生絶滅とされた50種について

今回の調査では、前版で絶滅とされていたヨウラクラン（EN）とヤナギスブタ（CR）の2種の生育が確認されたためそれぞれカテゴリーの変更となった。また、野生絶滅とされていたムジナモ（CR）も保護増殖が順調に進み、野生状態での生育が確認されたためカテゴリーの変更がなされた。しかし、アツモリソウ（EX）は移植地での生育がここ数年確認されておらず、埼玉県内では絶滅したものと判断された。また、タヌキマメ（EW）はいずれの自生地も生育が確認されず、移植地のみとなったため新たに野生絶滅となった。結果として絶滅種48種、野生絶滅2種の50種となった（表4）。

表4 絶滅あるいは野生絶滅とされた種（\*印は野生絶滅種）

ヤチスギラン、オオアカウキクサ、ヤツガタケシノブ、アオガネシダ、イナデンダ、ジュンサイ、ヒツジグサ、ヒンジモ、マルバオモダカ、スブタ、ヒメアマナ、サルメンエビネ、アツモリソウ、カキラン、テガタチドリ、スズムシソウ、サカネラン、オオバナオオヤマサギソウ、イイヌマムカゴ、ヤマトキソウ、スズラン、クロイヌノヒゲ、コシガヤホシクサ、ヤチカワズスゲ、キクザキイチゲ、タチモ、モメンヅル、\*タヌキマメ（EW）、マツバニンジン、コガンピ、ハナハタザオ、ナガバノウナギツカミ、ムラサキセンブリ、イヌセンブリ、\*ムラサキ（EW）、ルリソウ、マルバノサワトウガラシ、スギナモ、ツルカコソウ、ミズネコノオ、ミズトラノオ、ノタヌキモ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、コタヌキモ、ムラサキミミカキグサ、クサノオウバノギク、アズマギク、ミズギク、ミシマサイコ

○絶滅危惧I類（CR）167種についての地帯区分別分布状況は下記のとおり。のべ確認数は209種と前版の133種（のべ確認数141種）に比べ増加傾向にある。特に亜高山帯では27種から46種に、丘陵帯では13種から31種と大きく増加している。

#### ①亜高山帯（標高1600m以上の山地）46種〈前版27種〉

ヒモカズラ、ヒメハナワラビ、テバコワラビ、エゾデンダ、ヒメバラモミ、ハイマツ、ミスズラン、アオチドリ、ニョホウチドリ、フガクスズムシソウ、ホザキイチヨウラン、オオヤマサギソウ、ミヤマラッキョウ、ヒメマイヅルソウ、イトイ、ザラツキシラスゲ、エゾムギ、タカネタチイチゴツナギ、イトイチゴツナギ、ホソバトリカブト、チチブシロカネソウ、アカギキンボウゲ、ザリコミ、アカバナシモツケソウ、タカネバラ、サナギイチゴ、ウメバチソウ、エゾアオイスマレ、カイフウロ、ヘラハタザオ、ヤツガタケナズナ、ムカゴトラノオ、センジュガンピ、ガンコウラン、ジンヨウイチヤクソウ、クロウスゴ、カワラマツバ、トモエシオガマ、トダイハハコ、イワインチン、タカネコウリンカ、ミヤマウド、オオカサモチ、ヤマナシウマノミツバ、イボタヒョウタンボク、ニッコウヒョウタンボク

#### ②山地帯（標高800m～1600mの山地）50種〈前版32種〉

ヒモカズラ、イワウラジロ、ウサギシダ、タチヒメワラビ、ミヤマメシダ、ヒメサジラン、シロテンマ、キレハオオクボシダ、ミヤマビャクシン、チョウセンゴミシ、オオヤマレンゲ、ミヤマスカシユリ、キンセイラン、ハコネラン、ザラツキシラスゲ、ツルケマン、ホソバトリカブト、チチブシロカネソウ、ミスミソウ、モミジカラマツ、ベニバナヤマシャクヤク、コマガタケスグリ、ザリコミ、ヒナノキンチャク、ヨコグラノキ、チョウセンキンミズヒキ、ウメバチソウ、コオトギリ、ハクサンフウロ、エゾハタザオ、キバナハタザオ、センジュガンピ、ピランジ、イワアカザ、コイワザクラ、チチブリンドウ、クサタチバナ、サワリソウ、タチカメバソウ、ツルカメバソウ、ハシドイ、サツキヒナノウスツボ、ヤマジソ、ムシトリスミレ、オオガクビソウ、アカイシコウゾリナ、アサマヒゴタイ、タカオヒゴタイ、ウラジロウコギ、ニッコウヒョウタンボク

③低山帯西部（標高 200m～800m、東は上武山地の稜線まで）26種〈前版 20 種〉

オオフジシダ、ミョウギシダ、ムギラン、キンセイラン、クマガイソウ、アキザキヤツシロラン、ムカデラン、ベニバナヤマシャクヤク、ヒナノキンチャク、オオダイコンソウ、ドクウツギ、エゾノタチツボスミレ、ピランジ、ミドリアカザ、イワアカザ、チチブイワザクラ、チチブリンドウ、フナバラソウ、ハシドイ、サツキヒナノウスツボ、キセワタ、ヤマノコギリソウ、オオガクビソウ、アサマヒゴタイ、ニッコウヒョウタンボク、ハヤザキヒョウタンボク

④低山帯東部（標高 200m～800m、東は外秩父山地のほぼ稜線）15種〈前版 12 種〉

ハイホラゴケ、タチヒメワラビ、オニカナワラビ、ホソバカナワラビ、イワヘゴ、ナガバノイタチシダ、チャボイノデ、オオキヨズミシダ、アオネカズラ、ムギラン、アキザキヤツシロラン、ムカゴサイシン、サツキヒナノウスツボ、ヤマジソ、ツルギキョウ

⑤丘陵帯北部（標高 50m～200m、都幾川以北で主に上武山地の東）6種〈前版 2 種〉

デンジソウ、ナガバノイタチシダ、アズマツメクサ、ミズユキノシタ、カワラハハコ、オオガクビソウ、

⑥丘陵帯南部（標高 50m～200m、都幾川以南で主に外秩父山地の東）25種〈前版 11 種〉

オニカナワラビ、ホソバカナワラビ、イワヘゴ、エンシュウベニシダ、ナガバノイタチシダ、サイゴクイノデ、オオキヨズミシダ、タマノカンアオイ、ヒメザゼンソウ、アキザキヤツシロラン、コケイラン、クモラン、イトイヌノヒゲ、ニッポニヌノヒゲ、ベニバナヤマシャクヤク、アズマツメクサ、ミズユキノシタ、サワトウガラシ、ヒメハッカ、サワギキョウ、キキョウ、オオニガナ、サワオグルマ、ムカゴニンジン、オミナエシ

⑦荒川西台地（標高 50m 未満の荒川以西の台地および周辺低地）12種〈前版 8 種〉

デンジソウ、エンシュウベニシダ、タマノカンアオイ、ミズチドリ、トダスゲ、コアゼテンツキ、アズマツメクサ、ヒメミヤマスミレ、ミズキンバイ、イワアカザ、サワトラノオ、サワギキョウ

⑧大宮台地（標高 50m 未満の大宮台地および周辺低地）14種〈前版 13 種〉

デンジソウ、ヤナギスプタ、サガミラン、クマガイソウ、トダスゲ、ヌカスゲ、ヒキノカサ、アズマツメクサ、ミズキカシグサ、ミズキンバイ、サワトラノオ、サワトウガラシ、ゴマノハグサ、タヌキモ

⑨加須・中川低地（標高 50m 未満）15種〈前版 16 種〉

デンジソウ、オニバス、アキザキヤツシロラン、トキソウ、カキツバタ、コシンジュガヤ、アズマツメクサ、タチスミレ、ヒメビシ、ムジナモ、イトハコベ、イワアカザ、クサレダマ、スズメハコベ、カワラハハコ

○主な減少要因からみる環境の変化

主な減少要因については県全体では自然遷移、シカの食害、森林伐採、園芸採取、管理放棄などがあげられた。

地帯区別では亜高山・山地帯はシカの食害、石灰岩の採掘、低山・丘陵帯は森林伐採、管理放棄、台地・低地帯は農薬汚染、河川改修などである。地帯区分ごとにその特徴を考えると以下のようなになる。

亜高山・山地帯では、近年全国的な問題となっているシカの個体数増加がある。県内でもその被害は低山帯や丘陵帯へと拡大傾向にある。シカの農作物への被害は毎年語られるが、野生植物への影響は語られることが少ない。被害は単なる食害にとどまらず、林床の植物がなくなることによる地面の乾燥化・裸地化により土壌の保水量が減少したことによる斜面の崩落が各所で起こっている。シカの生息数を正確に知ることはできないが、埼玉県環境白書（埼玉県 2022）の平成 26 年度と令和 3 年度のシカの捕獲実数はおよそ 2.6 倍となっている。単純に生息数が 2.6 倍になっているとは考えられないが、増加傾向と生息地の拡大が続いていることは否定できない。

県全体の絶滅危惧植物の増減傾向は、この地域でのシカの被害による危険度の増加と、比例しているように思われる。もう一つの減少要因である石灰岩の採掘は採掘個所が減少傾向にあり、その影響は少なくなっている。しかし、近年石灰岩壁を利用したロッククライミングが盛んになり、その一部は希少野生植物の生育地と重なるため、新たな減少要因となっている。

低山・丘陵帯では森林伐採が考えられる。この地域では、近年自然エネルギーの活用を目的に、太陽光発電パネル設置場所確保のための大規模森林伐採が行われている。また、高速道路の整備が進み付近には大規模な流通関係の倉庫群が立ち並んでいる。これらの多くが、コナラ林の伐採による土地の造成を伴っている。さらに、これら多くの台地上のコナラ林は、コナラ林本来の利用がなくなって以来、管理放棄されていることが多く、林床はアズマネザサが繁茂し、照度低下により林床の希少植物が危機的な状態にある。現在は「緑のトラスト保全地」など一部の地域では、保護団体により管理されて優良な環境が維持されている。

台地・低地帯は池沼や河川、水田など水とのかかわりが重要な地域である。これらの環境に生育する水草や湿生植物の多くは、絶滅または絶滅危惧とされている。わずかに残る水田は農薬の使用による水質悪化などで、多くの水田植物が見られなくなっている。今回、埼玉県内では絶滅したと思われていたヤナギスブタやミズキカシグサなどが、地元的环境保全団体により再発見されたことは素晴らしいことといえる。もう一つの減少要因である河川改修や河川敷開発は、国指定特別天然記念物の田島ヶ原サクラソウ自生地を例外として特別な保護がなされていない。多くの河川敷は重要な絶滅危惧種の生育場所である。しかし、依然として調節池や堤防、公園化などの工事（計画を含む）が進められており、希少植物の生育場所は狭められている。久喜市八甫では開発によりデンジソウの生育地が消失してしまった。また、渡良瀬川河川敷でも工事のため河川敷に生育していた多くの希少植物の生育地が奪われてしまっているなどの現状がある。

#### 【維管束植物掲載種の解説引用文献一覧】

- 愛川敬武 (1999) 雁坂峠奥秩父隧道付近の植物リスト, 埼玉生物, 39: 37-38.  
愛川敬武 (2001) 川越のキンギンボクとマルバヌスビトハギ, さいたま植物通信, 11: 1-2.  
愛川敬武 (2003a), 埼玉県のモウセンゴケ, さいたま植物通信, 17: 1.  
愛川敬武 (2003b) 1998年版埼玉県植物誌 補遺 —シダ植物と種子植物—, 埼玉県立自然史博物館研究報告, (20-21): 23-33.  
愛川敬武 (2004) 新分布 比企郡鳩山町奥田センノクラ沼, さいたま植物通信, 23: 3-4.  
愛川敬武 (2005a) 新分布 入間市, さいたま植物通信, 24: 3.  
愛川敬武 (2005b) 新分布 川越市 砂新田・下老袋・大中居・大仙波・笠幡, さいたま植物通信, 26: 3-4.  
愛川敬武 (2005c) 新分布 さいたま市桜区秋ヶ瀬, さいたま植物通信, 27: 4.  
愛川敬武 (2007) 新分布 川越市, さいたま植物通信, 32: 3.  
愛川敬武・市川嘉一・山下 裕・斉藤弥吉・朝尾幸子 (2004) 夏の現地研修会 中津川生物研究会現地研修会第2日目大山沢と大山沢西沢植物リスト, 埼玉生物, 44: 35-36.  
愛川敬武・大垣晃一・山下 裕・菊池 聖・高橋重男 (1989) 両神山の植物, 埼玉生物, 29: 22-24.  
愛川敬武・高橋重男・磯田洋二・牧野彰吾・田中 実・金子修史・山下 裕・杉田 勝・木村和喜夫・三上忠仁 (1993) 十文字峠周辺の植物, 埼玉生物, 33: 34-35.  
愛川敬武・高橋重男・森屋弘一・田中 実・金子修史・山下 裕・杉田 勝・木村和喜夫・三上忠仁 (1993) 豆焼沢周辺の植物, 埼玉生物, 33: 39-40.  
愛川敬武・田中溢子 (2006) タヌキマメのこと, さいたま植物通信, 31: 1-2.  
新井輝一 (1954), 埼玉県の植物, 68p.  
荒川村村史編さん委員会編 (1983) 荒川村史 (植物), 荒川村史, 285-308, 荒川村.  
荒川太郎右衛門地区自然再生協議会・生態系モニタリング専門委員会 (2018) 荒川太郎右衛門地区自然再生事業生態系モニタリング報告書【平成29年度版】, 34p., 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 生態系モニタリング専門委員会.



- NPO 法人 荒川の自然を守る会 (2011), 上尾とその周辺の植物, NPO 法人 荒川の自然を守る会.
- 荒野久男・安田啓祐 (1984) 富士見市史 (植物と植物相), 富士見市史 資料編 1 自然, 77-253, 富士見市長.
- 朝霞市教育委員会市史編さん室編 (1989) 朝霞市史 (植物の世界), 朝霞市史 通史編, 47-71, 朝霞市.
- アジア航測 編 (1994) 川口市の植物目録, かわぐちの自然—草花と樹木—, 114p., 川口市都市計画部公園緑地課.
- 江森貫一 (1971) 西武蔵自然公園地区内の植物相の概要, 西武蔵自然公園学術調査報告, 58-77, 日本自然保護協会.
- 江森貫一・加藤亮明 (1980) 深作沼の植物・植物相, 大宮市文化財調査報告 第 14 集 深作沼動植物調査報告, 31-47, 大宮市教育委員会.
- 藤波欽司・菅間宏子・木村和喜夫・矢鳥民夫 (2021) (旧) 大正製薬上尾総合運動場の植物, さいたま植物通信, 51: 1-11.
- 福嶋正男 (2003) 川越市笠幡のヒメミヤマスミレ, さいたま植物通信, 19: 8-9.
- 古瀬 義 (1959) 近頃出された植物誌 (目録) についての私の愚かな見方 (1), 野草, 25 (7): 3-5.
- 飯能市史編集委員会編 (1977), 飯能市史 資料編 II 飯能の自然—植物, 飯能市.
- 原 勝司 (1970) 十文字峠周辺の生物調査, 埼玉生物, 10: 45-46.
- 長谷川奈美 (2015) 入間市谷田の泉周辺における約 5 年間の植物相の変化, 入間市博物館紀要, 11: 73-86.
- 橋本 庸 (1954) 埼玉県加須市東部の浮島の植物相, 採集と飼育, 16 (10): 305-307.
- 日高町史編集委員会・日高町教育委員会編 (1991) 日高町史 (植物とくらし), 日高町史 自然史編, 198-337, 埼玉県入間郡日高町.
- 桧山庫三 (1958) 武蔵野植物誌 (9), 野草, 24 (9): 9-11.
- 桧山庫三 (1962) ボタニカル ノート (130), 野草, 28 (269): 77-80.
- 桧山庫三 (1964) ボタニカル ノート (139), 野草, 30 (278): 20-22.
- 桧山庫三 (1965), 武蔵野の植物, 井上書店.
- 堀江秀光ほか (1983) 立正大学熊谷校地付近産植物目録, 立正大学北埼玉地域研究センター年報, 6: 42-54.
- 堀江秀光ほか (1976) 熊谷南部産植物目録, 立正大学教養部紀要, 10: 72-93.
- 市場 至・鐵 慎太郎 (2022) 埼玉県入間地域におけるマヤランおよびサガミランの分布状況と生態, 埼玉県立自然の博物館研究報告, (16): 25-28.
- 五十嵐勇治・岩田豊太郎 (2005) 東京大学秩父演習林の植物相, 演習林, 44: 73-119.
- 五十嵐勇治・吉田弓子 (2013) 秩父演習林維管束目録, 演習林 (東大), 54: 107-155.
- 五十嵐勇治・吉田弓子・角田正行・河野 満・高杉 茂・土橋秀行・茂木庸佑 (2016) 東京大学演習林「影森苗畑・黒石実験地」の維管束植物目録, 演習林 (東大), 58: 175-205.
- 伊奈町史編集室 (1993), 伊奈の植物 I, 北足立郡伊奈町.
- 横田稲吉 (1992), 奥武蔵の植物, 170p., 自費出版.
- 入間市市史編さん室編 (1984), 入間市史 植物編, 入間市.
- 石田和夫 (1960) 埼玉県越生町のシダ植物, 採集と飼育, 22 (7): 210-212.
- 石渡孝行 (2003) 坂戸市多和目地内城山のシダ類, さいたま植物通信, 16: 6.
- 石渡孝行・佐藤 清・植田雅浩・須田大樹 (2020) 埼玉県日高市のシダ植物目録, 埼玉県立自然の博物館研究報告, 14: 37-42.
- 磯田洋二 (1990) 特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の植物相について, 田島ヶ原サクラソウ自生地 一天然記念物指定 70 周年記念論文集一, 5-42, 浦和市教育委員会.
- 磯田洋二 (1994) 黒岩尾根と雁坂峠の植物, 埼玉生物, 34: 32-33.
- 磯田洋二 (1995) 荒川上流部溪谷地帯の植物, 埼玉生物, 35-17.

- 磯田洋二 (1996) 夏季現地研修会における植物調査の結果, 埼玉生物, 36: 27-28.
- 磯田洋二 (2006) さいたま市域に分布する野生植物, さいたま市博物館研究紀要, 5: 1-14, さいたま市立博物館.
- 伊藤 洋 (1953) 秩父多摩国立公園高等植物目録 (1), 秩父自然科博物館研究報告, (4): 19-50.
- 伊藤 洋 (1958) 秩父多摩国立公園高等植物目録 (2), 秩父自然科博物館研究報告, (8): 81-115.
- 伊藤 洋・初山泰一・志村辰夫 (1950) 奥秩父高等植物目録 (予報), 秩父自然科学博物館研究報告, (2): 1-23.
- 岩浪 創 (2021) 埼玉県新産のアオフタバラン *Neottia makinoana*, 埼玉県立自然の博物館研究報告, 15: 13-16.
- 岩田三男次編 (1972), 東松山市植物誌, 東松山市教育委員会.
- 岩田豊太郎 (1982), 秩父市の高等植物 (第一報), 自費出版.
- 岩田豊太郎 (1987), 秩父山系高等植物採品目録, 133p, 自費出版.
- 岩田豊太郎 (2000) 梓白岩にヒメハナワラビ、ミヤマシャジン産す, さいたま植物通信, 7: 2.
- 岩田豊太郎 (2001) 飯能県民休養地構想予定地域の植物相, 天覧山・多峯主山自然環境調査報告書, 5: 30, 天覧山・多峯主山の自然を守る会.
- 岩田豊太郎 (2002) 三国山および赤岩峠付近の希少植物, さいたま植物通信, 15: 9.
- 岩田豊太郎 (2004) 秩父地方落ち穂拾い (7), さいたま植物通信, 20: 5-8.
- 岩田豊太郎 (2005) 秩父山地緑の回廊の植物, 奥秩父プロジェクト 奥秩父山地の森林生態系保護活動調査報告, 123-158, 秩父の環境を考える会.
- 岩田豊太郎 (2006) 新分布 秩父市大滝和名倉沢, さいたま植物通信, 30: 4.
- 岩田豊太郎 (2007) 新分布 越生町, さいたま植物通信, 35: 4-5.
- 岩田豊太郎 (2008) 秩父地方の落ち穂拾い (13), さいたま植物通信, 39: 2-3.
- 岩田豊太郎 (2020) 埼玉県秩父市大滝石灰沢の確認植物目録, 野外調査研究, 4: 105-112.
- 岩田豊太郎 (2021) 埼玉県秩父郡横瀬町武甲山表参道付近の石灰岩地の植物, 野外調査研究, 5: 100-112.
- 岩田豊太郎 (2023) 埼玉県秩父市大滝 大ガマタ沢の植物, 野外調査研究, (7): 101-113.
- 岩田豊太郎・林由季子 (2020) 埼玉県の植物リスト資料編 (1) 2015～2018年に秩父山域等で記録された植物リスト, さいたま植物通信, 50: 1-51.
- 岩田豊太郎・林由季子 (2021) 埼玉県の植物リスト資料編 (1) 補遺, さいたま植物通信, 51: 14-16.
- 岩田豊太郎・平 誠・高橋忠昭 (2000) 甲武信岳を中心とした奥秩父 (埼玉県側) の高等植物, 甲武信岳を中心とした秩父多摩国立公園の森林生態系保護活動 活動記録集 第2年次, 37-73.
- 岩槻市 (2005), 自然をのこそう生き生き調査報告書, 177p., 岩槻市.
- 華表 賢 (1966) 黒山三滝シダ植物採集会記録, 生物研究会短報, 2: 9, 埼玉県高等学校生物研究会.
- 神川町・神川町教育委員会編 (1989) 神川町史 (植物), 神川町史, 146-227, 神川町・神川町教育委員会.
- 加藤亮明 (2002) 鷲宮町のアキザキヤツシロランの現況, さいたま植物通信, 13: 5.
- かわごえ環境ネット「川越の自然」編集委員会 (2021), 新訂版 川越の自然, 179p, かわごえ環境ネット.
- 川口市 (2021), 植物相の状況、川口市戸塚環境センター施設整備事業に係る環境影響評価書, 9-9-6～9-9-38, 川口市.
- 川本町編 (1989) 川本町史 (植物), 川本町史 通史編, 1292-1363, 川本町.
- 加須市環境安全部 環境政策課 編 (2016), 生物多様性かぞ戦略, 88p., 加須市.
- 加須市教育委員会 (1996) 植生調査報告, 埼玉県指定「加須の浮野とその植物」調査報告書,

- 16-73, 加須市教育委員会.
- 企画部市史編さん室編 (1978), 与野植物誌, 埼玉県与野市.
- 菊地政雄 (1963) 北上山系の植物相とその植物地理学的考察 (Ⅲ). 岩手大学教育学部研究年報, 27 (3), 1-28.
- 菊池久雄 (2003) アカウキクサとオオアカウキクサについて, さいたま植物通信, 16: 7.
- 木村和喜夫 (2020) さいたま市の維管束植物目録 (簡略版), さいたま市史 自然編 ~植物~, 268-280, さいたま市.
- 木村和喜夫・原 由泰・三上忠仁・山下 裕 (2004) 秋季現地調査会植物調査報告 天覧山の植物リスト, 埼玉生物, 44: 38-39.
- 木村和喜夫・森廣信子 (2014) 飯能市植物目録, 飯能の植物 —飯能市植物調査報告書—, 113-158, 飯能市教育委員会.
- 北川辺町自然観察会 (1985) 北川辺の植物目録, 北川辺の自然 植物編, 120-125, 北川辺町史編さん委員会.
- 木山 加奈子, 埼玉県新産のクゲヌマラン *Cephalanthera longifolia* について, 埼玉県立自然の博物館研究報告 (10), 埼玉県立自然の博物館, 2016, pp.25-30
- 木暮理太郎 (1916) 奥秩父の山旅日記, 山岳, 11 (1): 38-82.
- 北本市郷土植物研究会編 (1976), 北本の植物, 北本市教育委員会.
- 久喜市 (2017), (仮称) 久喜都市計画事業 清久工業団地周辺土地地区画整理事業 事後調査書, 久喜市.
- 牧野彰吾 (1980) 浦山川流域・動植物総合調査会報告〈植物の部〉, 埼玉生物, 20: 90-97.
- 牧野彰吾 (2019) 川口市東内野斜面林, さいたま植物通信, (48) 48-50.
- 牧野彰吾 (2021) さいたま市緑区南部領辻「さいたま緑のトラスト保全 1号地見沼田圃周辺斜面林」調査結果, さいたま市緑区南部領辻 (通称) 見沼ベルダ地区 (マルコ・福々の森・トラスト 1号地) と上野田斜面林植物調査結果, 22-33, NPO 法人エコ. エコ.
- 牧野彰吾・愛川敬武・市川嘉一 (2004) 夏の現地調査会 中津川生物研究会現地研修会 1日目山吹沢県有林植物リスト, 埼玉生物, 44: 34-35.
- 牧野彰吾・原 由泰・山下 裕 (2019) 秩父市中津川三国峠周辺フロラ, さいたま植物通信, (48): 27-29, NPO 法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団.
- 牧野彰吾・市川嘉一・山下 裕・三上忠仁 (2004) 夏の現地調査会 中津川生物研究会現地研修会 3日目 学習の森植物リスト, 埼玉生物, 44: 37-38.
- 牧野彰吾・尾形一法・木村和喜夫・田中 實・三上忠仁・矢島民夫・山下 裕 (2018) 上尾市におけるサワトラノオ自生地とその周辺の花フロラについて, さいたま植物通信, (46): 1-4, NPO 法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団.
- 牧野彰吾・尾形一法・田中 実・山下 裕・木村和喜夫・木口博史・平 誠・原 由泰・石川好夫・矢島民夫・三上忠仁 (2008) 平成 19 年度秋季現地調査会植物調査報告, 埼玉生物, 48: 16-17.
- 牧野彰吾・尾形一法・矢島民夫・山下 裕・木村和喜夫・田中 実・平 誠・三上忠仁 (2005) 平成 16 年度夏期現地調査会植物調査報告, 埼玉生物, 45: 18.
- 牧野彰吾・尾形一法・矢島民夫・山下 裕・木村和喜夫・田中 実・平 誠・三上忠仁 (2005) 平成 16 年度夏期現地調査会植物調査報告, 埼玉生物, 45: 18.
- 牧野彰吾・浦 八重子・田島俊子 (2019) 秩父市黒谷和銅採掘露天掘り跡地フロラ, さいたま植物通信, (48): 33-37, NPO 法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団.
- 牧野彰吾・矢島民夫・山下 裕・田中 実・平 誠・原 由泰・三上忠仁 (2006) 平成 17 年度夏季現地調査会植物調査報告, 埼玉生物, 46: 18.
- 牧野彰吾・山下裕 (2003) 大滝村中津川山吹沢天丸トンネル周辺の植物, 埼玉生物, 43: 24-25.
- 牧野彰吾・山下 裕 (2019) 飯能市上名栗蟬指 (林道より上部) フロラ, さいたま植物通信, (48): 14-16, NPO 法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団.
- Midorikawa, S., Shutoh, K., Shiga, T. (2020) An Easy Method of Identifying Herbarium Specimens



of *Najas minor* and *N. oguraensis* (Hydrocharitaceae). Acta Phytotaxonomica et Geobotanica: 71, 55-63.

- 三上忠仁 (2015) 埼玉県内で初めて発見されたミスズラン (*Andorocorys japonensis* F. Maek.), さいたま植物通信, (41): 8.
- 三上忠仁 (2022) 埼玉県加須市北篠崎にある浮野の水生植物リスト, 埼玉県立自然の博物館研究報告, (16): 61-64.
- 三上忠仁・愛川敬武・田中 実・金子修史・矢島民夫・尾形一法・原 由泰・平 誠・木村和喜夫・山下 裕 (2000) 秩父山地 (雁坂峠~甲武信岳) の植物, 埼玉生物, 40: 45.
- 三上忠仁・石川香保里 (2020) 埼玉県の植物リスト資料編 (2) 2014~2016年に公開講座で記録された植物リスト, さいたま植物通信, (50): 52-58, NPO 法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団.
- 三上忠仁・山下 裕・木村和喜夫・平 誠・原 由泰・大塚一紀 (2013) 春季・秋季現地調査会植物調査報告~ 比企郡滑川町谷津の里の植物リスト~, 埼玉生物, 53: 14-15.
- 三村昌史・高杉 茂・五十嵐勇治・岩浪 創・岩田豊太郎・北田義明・小澤正幸・鈴木伸一・大野啓一 (2023) 埼玉県において再発見されたヨウラクラン *Oberonia japonica* (Maxim.) Makino (ラン科) の生育環境と保全的位置づけの評価. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 17: 45-63.
- 皆野町誌編集委員会編 (1984), 皆野町誌 自然編Ⅱ植物, 皆野町.
- 守屋忠之 (1970), 武甲山植物誌, 自費出版.
- 守屋忠之 (1974), 三峰山彙の植物, 大滝村教育委員会.
- 守屋忠之 (1983) 秩父 [埼玉] 植物学習の旅, 花の手帳, 1983年陽春号: 38-47, 樹石社.
- 守屋忠之 (1987) 武甲山の植物, 秩父武甲山総合調査報告書 自然編, 135-172, 武甲山総合調査会.
- 守屋忠之・井上 茂 (1978), 写真集 武甲山の植物, 武甲山植物群保護対策推進協議会.
- 守屋忠之・小山鉄夫 (1957) 武甲山植物誌資料 (6), 北陸の植物, 6 (2): 44-46.
- 守屋忠之・小山鉄夫 (1958) 武甲山植物誌資料 (六), 北陸の植物, 7 (3): 89-92.
- 本橋綾香 (2021) 調査報告『天覧山・多峯主山の植物』刊行に関する調査について, 飯能市立博物館研究紀要, 2: 35-41.
- 邑田 仁 (1978) テンナンショウ属の一新種. 植物研究雑誌: 53,84-86.
- 武蔵植物友の会編 (1973) 入間市の植物総目録, 入間市の植物, 入間市教育委員会.
- 長須房次郎 (2007) 鷲宮デンジソウの半世紀, さいたま植物通信, 32: 1-2.
- 長瀬町教育委員会 編 (1997) 長瀬町の植物リスト表, 長瀬町史 長瀬の自然, 158-163, 長瀬町.
- 中澤利雄・小川伸幸編 (1982), 都幾川村の植物, 都幾川村の植物刊行会.
- 新座市教育委員会市史編さん室編 (1984) 新座市史 (植物), 新座市史 第一巻, 227-255, 埼玉県新座市.
- 落合良一 (2000) 第17章 寄居町の植物目録, 寄居地方の植物, 228-249, 埼玉新聞社.
- 落合良一・高橋重男 (2001) 比企郡小川町のコクラン, さいたま植物通信, 10: 8.
- 尾形一法・山下 裕・田中 実・平 誠・三上忠仁 (2005) 秋期現地調査会植物調査報告, 埼玉生物, 45: 23.
- 小川エナジー合同会社 (2021) 植物調査結果, さいたま小川町メガソーラー環境影響評価準備書【資料集】, 104-118, 小川エナジー合同会社.
- 桶川市 (1987) 桶川市史 (植物), 桶川市史 第八巻 自然・地誌編, 159-394, 桶川市長.
- 奥山春季 (1947) 植物採集覚書 (其二), 植物研究雑誌, 21 (3, 4): 65-67.
- 奥山春季 (1974), 採集検索日本植物ハンドブック, 783p, 八坂書房.
- 奥山春季 (1984), 日本野外植物図譜 3,271.
- 大井町史編さん委員会編 (1986) 大井町史 (植物), 大井町史 自然編, 139-179, 大井町.
- 大野正男 (1961) 大高山のオクタマシダ, 飯能文化財時報, (20), 飯能市.
- 太田和夫 (2000) 幸手市の植物目録, 幸手市史 自然環境編Ⅱ, 123-142.
- 大塚孝一 (2002) 日本産ザゼンソウ属の分布一特にナベクラザゼンソウについて. 長野県自然保



- 護研究所紀要, 5: 1-8.
- 大塚一紀・三上忠仁・木村和喜夫・山下 裕・平 誠・原 由泰 (2014) 春季現地調査会植物調査報告, 埼玉生物, 54: 12-13.
- オリックス資源循環株式会社 (2022) 資料 第7章植物, 彩の国資源循環工場サーマルリサイクル施設更新工事 環境影響評価準備書, オリックス資源循環株式会社.
- 嵐山町博物誌植物部会 (2012) 嵐山町の植物リスト [一括], 嵐山町 web 博物誌【植物編】, 15p., 嵐山町.
- 埼玉県編 (1987) 荒川本流の陸上植物相, 荒川 自然 荒川総合調査報告書 1,573-644, 埼玉県.
- 埼玉県編 (1993) 中川水系流域の植物と動物 (流域の植生), 中川水系 総論・自然 中川水系総合調査報告書 1,373-534, 埼玉県.
- 埼玉県 (2010), 彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業に係る環境影響評価書, 589-618, 埼玉県.
- 埼玉県環境部環境審査課 (1992), 秩父地域自然環境現況調査報告書, 資料編 1-24, 埼玉県.
- 埼玉県教育委員会 編 (1962) 埼玉県植物誌, 339p. 埼玉県教育委員会.
- 埼玉県教育委員会 (1962) 採集地案内, 埼玉県植物誌 続編, 26-32.
- 埼玉県教育委員会 (1976) 宝蔵寺沼ムジナモ自生地緊急調査報告, 埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第1集 宝蔵寺沼ムジナモ自生地 野田のサギおよびその繁殖地, 3-64, 埼玉県教育委員会.
- 埼玉県教育委員会 (1978) 田島ヶ原植物目録, 埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第2集 天然記念物緊急調査報告 田島ヶ原サクラソウ自生地, 16-35, 埼玉県教育委員会.
- (財) 埼玉県野鳥の会 (1991), 上尾市植物動物調査報告書, 238p. 上尾市.
- さいたま市みどり推進課 (2010), さいたま市見沼田圃自然環境調査業務報告書, さいたま市みどり推進課.
- 崎尾 均・久保満佐子・川西基博・比嘉基紀 (2013) 秩父山地におけるニホンジカの採食が林床植生に与える影響, 日緑工誌, 39 (2): 226-231.
- 清水長正・鈴木由告 (1985) 秩父山地破風山における岩塊斜面上に成立する低木群落, 東北地理, 37: 133-134.
- 清水孝資 (2005), 秩父でみられる山野の花, 清水企画.
- 清水保典 (2008) 越谷市の旧有滝アーボレータムの草と木, さいたま植物通信, 38: 8-9.
- 清水保典・愛川敬武 (2009) 旧アリタキアーボレータムのアキザキヤツシロラン, さいたま植物通信, 40: 3.
- 植物誌活用部会 (2001) 「1998年版 埼玉県植物誌」出版後の新知見 (1), 埼玉生物, 41: 22-23.
- 外山雅寛・大滝末男 (1994) 日本におけるヒンジモの分布～特に分布の動態・現状と天然記念物への緊急指定化をめざして～. 水草研究会報, 54: 23-31.
- 草加市史編さん委員会編 (1988) 草加の植物, 草加市史 自然・考古編, 401-482, 草加市.
- 須田大樹 (2018) 関東地方におけるナラガシワの分布とその生育立地, 埼玉県立自然の博物館研究報告, 12: 17-24.
- 須田大樹・木山加奈子 (2017) 埼玉県の暖温帯域の石灰岩地で見出されたビワ-アラカシ群落について, 埼玉県立自然の博物館研究報告, 11: 35-46.
- 須田大樹・木山加奈子・岩田豊太郎 (2019) 埼玉県内の石灰岩地で確認されている維管束植物, 埼玉県立自然の博物館自然遺産調査Ⅰ 石灰岩地基礎調査報告書, 60-67, 埼玉県立自然の博物館.
- 杉田 勝・黒澤和也 (1993) 十文字峠から甲武信岳までの植物, 埼玉生物, 33: 38.
- 田留健介・新井裕二 (2014) 埼玉県新産アオキランに関する報告, 埼玉県立自然の博物館研究報告, 8: 69-70.
- 高橋重男 (1989) 狭山丘陵の植物, 埼玉生物, 29: 28-293.
- 高橋重男 (1991) 県内各地のフローラ 付埼玉県植物誌に追加する植物と分布, せんだんの群像 一熊谷高校生活 35年の成果一, 123-148, 自費出版.

高橋重男・磯田洋二・平誠・植田雅浩 (1993) 十文字峠・赤沢岳付近の植物, 埼玉生物, 33 : 37-38.

高橋重男・三上忠仁・田中 実・金子修史・平 誠・山下 裕・木村和喜夫 (1994) 奥秩父・入川溪谷周辺の植物, 埼玉生物, 34 : 40.

高橋重男・山下 裕 (1989) 加治丘陵の植物, 埼玉生物, 29 : 30-31.

平 誠 (2004) 武甲山におけるユウシュンランとシロテンマの記録, 埼玉生物, 44 : 21-22.

平 誠・矢島民夫・田中 実・山下 裕 (2007) 武甲山におけるミスミソウ (*Hepatica nobilis* var. *japonica* Nakai) の再発見, 埼玉生物, 47 : 8.

平 誠・矢島民夫・田中 実・山下 裕・三上忠仁 (2005) 城峰山 (春季現地調査会) の植物, 埼玉生物, 45 : 13-14.

高橋一虎 (1960) 黒山三滝採集記, 野草, 26 (7) : 6-9.

高橋君子・加藤亮明 (2003) 新分布 さいたま市寿能町大宮第二公園, さいたま植物通信, (19) : 5.

Takamiya, M., Watanabe, M., Ono, K. (1997) Biosystematic studies on the genus *Isoetes* (Isoetaceae) in Japan. IV. morphology and anatomy of sporophytes, phytogeography and taxonomy. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*: 48, 89-122.

武井 尚 (1959) 長野県フローラ研究資料 (28), 野草, 25 (12) : 9-11.

天然記念物保護増殖委員会 (1997) 高等植物リスト, ミミカキグサとモウセンゴケ自生地, 123-132, 寄居町教育委員会.

寺尾好夫 (1999) 神泉村の植物, 神泉村誌 自然編 目録, 1-34, 神泉村.

寺崎留吉 (1977), 寺崎日本植物図譜, 平凡社.

鐵 慎太郎・岩田豊太郎・木山加奈子・須田大樹 (2021a) 埼玉県新産のクジュウツリスゲ (カヤツリグサ科) の分布と生育環境, 埼玉県立自然の博物館研究報告, 15 : 1-8.

鐵 慎太郎・須田大樹・木山加奈子・岩田豊太郎 (2021b) チャシバスゲ (カヤツリグサ科) を埼玉県から記録, 埼玉県立自然の博物館研究報告, 15 : 9-12.

戸田市立教育研究所編 (1982), 増修 戸田市の植物, 戸田市教育委員会.

東京薬科大学植物研究部 (1977), 狭山丘陵の植物, 東京薬科大学植物研究部.

内田 博 (2020) 資料 調査地別出現種リスト, 東松山市の生き物, 264-288, 東松山市教育委員会.

植田雅浩 (1990) 二子山・両神山のシダ植物, 埼玉生物, 30 : 32-33.

植田雅浩・落合良一・四分一平内・高橋重男・高橋忠昭・平 誠 (1992) 三国尾根の植物, 埼玉生物, 32 : 39-40.

Uemura S., Ohkawara K., Kudo G., Wada N. & Higashi S. (1993) Heat production and cross-pollination of the Asian skunk cabbage *Symplocarpus renifolius* (Araceae). *American Journal of Botany* 80: 635-640.

ト沢美久 (1967) 仙女が池採集記, 生物研究会短報, 0.1375, 埼玉県高等学校生物研究会.

ト沢美久 (1975) 49年の植物調査について, 埼玉生物, 15 : 1.

ト沢美久 (1995) 北本市の植物, 北本の動植物誌, 349-390, 北本市教育委員会.

ト沢美久 (1999) 秩父山系の植物, 自費出版.

ト澤美久・愛川敬武・牧野彰吾・山下 裕・長島留美子 (2001) 夏季現地調査会報告, 埼玉生物, 41 : 30.

ト沢美久・堀江秀光・串田宏人 (1990) 加治丘陵の植物・植物相, 加治丘陵自然環境調査報告書, 60-88 (159), 入間市加治丘陵自然環境調査研究会.

ト澤美久・笠原喜久雄 (1997) 荒川第一調節池、及びその周辺の植物目録, 荒川第一調節池動植物調査報告書, 14-29, 荒川第一調節池生物等調査会.

ト沢美久・高橋重男・市川和夫 (1966) 埼玉県植物誌に追加する植物と新分布, 埼玉生物, 6 : 29-30.

山下 裕 (1987) 二子山の植物, 埼玉生物, 27 : 36-37.

- 山下 裕 (2003) 小川町の種子植物・シダ植物目録, 小川町の歴史 別編 小川町の自然 植物編, 204-215, 小川町.
- 山下 裕・長谷川裕子・本橋綾香 (2020) 埼玉県の植物リスト資料編 (3) 2017年~2020年に記録した天覧山・多峯主山及びその周辺の植物リスト, さいたま植物通信, (50): 59-62.
- 山下 裕・牧野彰吾 (2018) 埼玉県西部におけるフロラ記録集 5 飯能市吾野, さいたま植物通信, (46): 20-21.
- 山下 裕・長島留美子・三上忠仁・木村和喜夫・田中 実 (2006) 平成17年度春季現地調査会植物調査報告, 埼玉生物, 46: 15-16.
- 矢島民夫 (2006) 新分布 両神村 尾の内沢, さいたま植物通信, 28: 2.
- 矢島民夫 (2021) 埼玉県内のコガネギシギシとニセコガネギシギシについて, さいたま植物通信, 53: 12-13.
- 矢島民夫 (2022) 埼玉県におけるミズキカシグサの生育記録, さいたま植物通信, 53: 7-8.
- 矢島民夫・三上忠仁 (2007) 新分布 さいたま市, さいたま植物通信, 35: 6.
- 矢島民夫・平 誠・森廣信子 (2017) 十文字小屋周辺の植物リスト, さいたま植物通信, (43): 1-3.
- 矢島民夫・平 誠・森廣信子・三上忠仁 (2022) 十文字峠のカイフウロはハクサンフウロだった, さいたま植物通信, 53: 1-2.
- Yamaji, H., Nakamura, T., Yokoyama, J., Kondo, K., Morota, T., Takeda, S., Sasaki, H., Maki, M. (2007) A taxonomic study of *Asarum* sect. *Asiasarum* (Aristolochiaceae) in Japan. *Japanese Journal of Botany*, 82: 79-105.
- 山村良輔 (1988) 甲武信岳周辺の植物, 埼玉生物, 28: 30-31.
- 寄居町教育委員会 (1997) 自生地の環境 (陸生植物), 県指定天然記念物 ミミカキグサとモウセンゴケ自生地保護増殖事業報告書, 36-59, 寄居町教育委員会.
- 寄居町教育委員会町史編さん室編 (1986) 寄居町史 (植物), 寄居町史 通史編, 1392-1442, 寄居町教育委員会.
- 吉見町 (2018) 5.2.6. 植物, (仮称) 東松山都市計画事業西吉見南部土地区画整理事業 事後調査書, 吉見町.

1001 ヒカゲノカズラ科

(和名) スギラン

(学名) *Phlegmariurus cryptomerinus* (Maxim.) Satou

埼玉カテゴリー 2024 EN 2005 CR 2011 EN 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

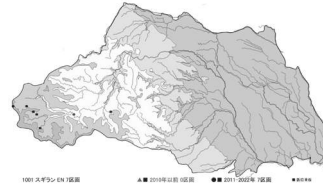
【評価所見】山地および亜高山で7地点50個体未満の報告があるが、樹上の高い所に生育するため、発見が難しく個体数は少ない。生育には大径木が必要なことから、森林伐採や自然撈乱、自然遷移が危険要因となる。

【県内生育状況】沢・谷に近い落葉広葉樹の大木か、中腹の岩に着生している。

【特記事項】標本:SMNH-Pt6035 (2016)、TNS1145512 (1989) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
◎	◎	○						



1002 ヒカゲノカズラ科

(和名) ヒメスギラン

(学名) *Hyperzia miyoshiana* (Makino) Ching

埼玉カテゴリー 2024 VU 2005 なし 2011 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

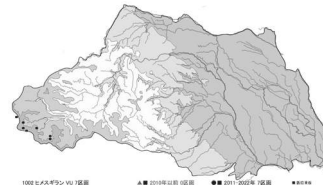
【評価所見】7地点で500個体未満の報告があった。生育地ごとの個体数が少ないうえに、栄養繁殖によって個体群が維持されることがなく、長期間安定して存続していると推定される場所があまりない。危険要因は自然遷移が大きく、またシカ被害も懸念される。

【県内生育状況】湿ったコケの生えた岩に生育し、数回分枝する直立茎を持つ。谷の側壁、尾根でも樹林内の北向き露岩などに少数の個体が生育する。

【特記事項】標本:SMNH-Pt1006(1984)、SMNH-Pt1007(1981)、岩田標本83637 (2009) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
◎	○							



1003 ヒカゲノカズラ科

(和名) ヤチスギラン

(学名) *Lycopodiella inundata* (L.) Holub

埼玉カテゴリー 2024 EX 2005 EX 2011 EX 1998 EX

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】埼玉県内は山地の湿地環境が非常に乏しく、現在生育している可能性のある場所はない。古い記録として、1951年の標本が残されているが、その後の確実な記録がなく、絶滅した可能性が高い。

【県内生育状況】寒冷地や高地の湿原に生育していた。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本:SMNH-Pt17 (大滝雲取山1951)。文献:荒川村村史編さん委員会1983(荒川村)、伊藤1958(秩父多摩国立公園)、新井1954(県内山地) 他特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1004 ヒカゲノカズラ科

(和名) スギカズラ

(学名) *Lycopodium annotinum* L.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2005 なし 2011 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

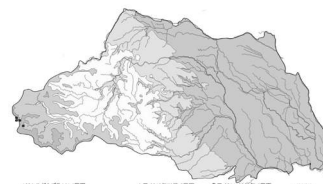
【評価所見】1集団4地点500個体の報告があった。群生しているため個体数は直立茎数で、遺伝的な個体数ではない。自然遷移(樹木の成長によって林床が暗くなること)が大きな危険要因となる。

【県内生育状況】針葉樹林内の明るい林床に、一面にマット状に広がる。多数の直立茎を有する。

【特記事項】今回発見された場所は、おそらく台風などで倒木があり、光条件が好転したため、急速に広がったと考えられる。周囲の針葉樹の生長で林床が暗くなれば衰退するだろう。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								





1005 ヒカゲノカズラ科

〔和名〕アスヒカズラ

〔学名〕*Lycopodium complanatum* L.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

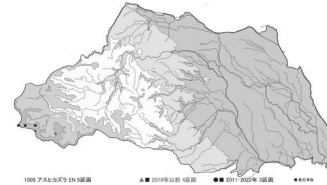
【評価所見】確認された生育地は2集団7地点3,000個体であり、報告された個体数は直立茎の数であるため、遺伝的な個体の数は少ない。自然遷移が大きな危険要因となり、シカ食害も懸念される。

【県内生育状況】日当たりのよい所に生育し、匍匐茎を伸ばして広がるが、1つの株から出る直立茎は少ない。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本:SMNH-Pt15 (1953)、岩田標本54776 (1998)。少なくとも2か所は国立公園の特別保護地区にある。埼玉県内には露岩を除けば日当たりのよい場所が少なく、生育適地が限られている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1006 ヒカゲノカズラ科

〔和名〕マンネンスギ

〔学名〕*Lycopodium obscurum* L.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

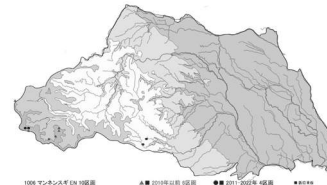
【評価所見】前回7地点1,000個体未満、今回4地点100個体未満の報告があった。埼玉県内の分布は非常に限られている。少なくとも1つの生育地がなくなり、最近3年間の報告はない。消滅の要因は不明だが、樹木の生長による光条件の悪化、またはシカの採食の影響が考えられる。

【県内生育状況】日当たりのよい所に生育し、匍匐茎を伸ばして少数の分枝する直立茎を出す。

【特記事項】標本:SMNH-Pt6160 (1986)、SMNH-Pt13 (1970) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○			○					



1007 イワヒバ科

〔和名〕タチクラマゴケ

〔学名〕*Selaginella nipponica* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 VU  
2005 DD 1998 DD

全国カテゴリ 2020 なし

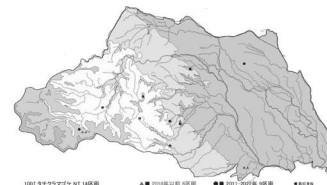
【評価所見】前回4地点200個体未満、今回9地点1,000個体以上と報告された。生育地は少ないが、個体数が非常に多い。生育地は人の生活圏に近いので、道路工事等により破壊される可能性がある。また管理放棄、園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】岩上を主茎が匍匐してマット状に広がり、側枝が立ち上がる。マットの大きさはさまざまである。

【特記事項】個体数はクローンの部分を数えているものがあるので、実際の個体数は報告数より少ない可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○		◎	○		○



1008 イワヒバ科

〔和名〕ヒモカズラ

〔学名〕*Selaginella shakotanensis* (Franch. ex Takeda) Miyabe et Kudô

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回3地点500個体未満、今回確認されたのは2集団3地点であった。個体数は50個体未満と想定される。1地点の生育地は縮小している。自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】秩父山地ではチャートの岩上に生育し、茎が匍匐して伸びるが、あまり長くならず、1つのクローンが大きく広がることはない。少なくとも一部の根が岩の割れ目に入っているようだ。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本:SMNH-Pt1013 (1985)、TNS1145310 (1993)。文献:岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか2000 (大滝村)、岩田1987 (秩父山系) 他。国立公園内にある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

ある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1009 イワヒバ科

〔和名〕 ヤマクラマゴケ

〔学名〕 *Selaginella tamamontana* Seriz.

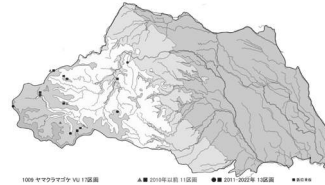
埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】前回4地点1,000個体未満、今回13地点10,000個体以上と報告された。生育地は開発規制がないところが多いが、近い将来開発される可能性が非常に低い生育地も含まれる。自然遷移、石灰岩採掘、森林伐採などが危険要因となる。  
【県内生育状況】石灰岩の露岩上に生育している。石灰岩であれば、かなり小規模な露岩でも見られることがある。  
【特記事項】国内分布は関東地方の石灰岩地・紀伊半島・高知県で限定的。秩父地域で石灰岩の採取の対象になっていないところでは、大小の石灰岩の露頭が多くあり、現在も生育が見られる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1010 ミズニラ科

〔和名〕 ミズニラ

〔学名〕 *Isoetes japonica* A.Braun

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 EN 1998 VU

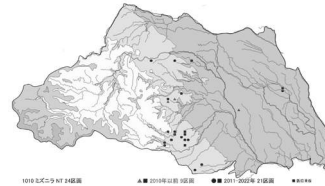
全国カテゴリー 2020 NT

【評価所見】前回改訂時は報告7地点で約2,000個体であったが、今回は21地点で約2,300個体が確認された。調査精度の向上による産地数の増加によって絶滅の懸念は大幅に低下した一方で、一部の生育地では除草剤や遷移による減少が確認され、依然として種の存続への圧迫状況は解消されてはいない。生育地は掻き起こし等の管理がされているが、将来的な管理の停滞・停止の懸念がある。危険要因として、主に農業汚染、管理放棄、自然遷移、湿地開発、土地造成が懸念される。  
【県内生育状況】生育地は沢水や湧水で涵養された谷戸や台地縁の休耕田で、冬季も湿潤な土壌が保たれる場所に限定される。生育地の一部では管理再開により休眠孢子から再生した。  
【特記事項】ミズニラモドキは小孢子に針状突起があることで区別されるが(Takamiya et al. 1997)、ミズニラの報告で小孢子を

検鏡した例が少ないため、今後の精査が必要である。一部の生育地では所有者や保全団体によって保全管理がされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○	◎	○	○	



1011 ハナヤスリ科

〔和名〕 ヒメハナワラビ

〔学名〕 *Botrychium lunaria* (L.) Sw.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 DD

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】前回2地点1,000個体未満、今回2地点300個体未満である。個体数が少なく、小型の植物なので食害は少ないが、シカやカモシカによる踏みつけによって生育地が破壊される危険がある。生育地が限られ、かつ個体数が少ないことが大きな危険要因である。  
【県内生育状況】日当たりのよい岩上、礫地、あまり密生しない草地に、疎らに生育している。埼玉県では石灰岩地に生育する。岩上の個体は非常に小型だが、それでも孢子囊をつけている。

【特記事項】標本：SMNH-Pt5607 (2000)。文献：岩田・林2020 (秩父市中津川)、須田ほか2019 (県内石灰岩地)、岩田2005 (秩父山地) 他。国立公園内にある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1012 ハナヤスリ科

〔和名〕 アカハナワラビ

〔学名〕 *Botrychium nipponicum* Makino

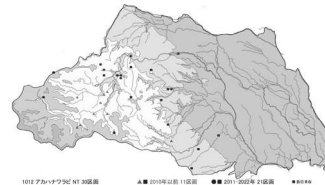
埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】山地から低地の落葉樹林から複数報告されているが、今回個体数は300ほどである。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また踏みつけ、管理放棄も懸念される。  
【県内生育状況】落葉樹林の林床や棚田の畔、土手の草地などにみられる。冬緑性のため、林床では落葉樹の葉が落ちて林床が明るくなる晩秋から春に地上に現れる。  
【特記事項】新規に報告された場所が多いのは、増えたのではなく、冬緑型の生活をするため、過去には見落とされていた場合が多いためである。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○	○	○	○		



**1013 ハナヤスリ科**

(和名) **ナツノハナワラビ**  
(学名) *Botrychium virginianum* (L.) Sw.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の個体数は200未満である。多数の地点から報告があったが、1か所の個体数が少ない場所が多く、1個体しかみられないこともある。森林伐採、シカ食害、土地造成、草地開発が大きな危険要因となっている。また道路工事も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 比較的明るい森林の林床に生育している。

【特記事項】 本種の個体群は同じ場所で長期間安定して維持されにくい。繁殖個体のない集団もあるが、多くは集団中に繁殖個体を含む。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎	○	○	○			

**1014 ハナヤスリ科**

(和名) **トネハナヤスリ**  
(学名) *Ophioglossum namegatae* M.Nishida et Kurita

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 今回10,000個体未満の報告があった。地点数は少ないが、地点あたりの個体数は非常に多い。河川敷の開発と利用、河川改修によって、生育環境が大きなダメージを受ける植物の一つと考えられる。

【県内生育状況】 河川敷に春から初夏にだけ出現し、生育地点には非常に多くの個体が生育している。

【特記事項】 国内では利根川流域及び大阪淀川流域に隔離分布。標本：SMNH-Pt5608 (2001)、SMNH-Pt5621 (2006)。短期間にクローン生長で拡大して、次の生育地に移る生活をすると考えられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

**1015 ハナヤスリ科**

(和名) **コヒロハハナヤスリ**  
(学名) *Ophioglossum petiolatum* Hook.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 VU  
2005 VU 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回の個体数は4,000前後、今回は7,000前後と見積もられた。東部の低地を中心に、広範囲に生育がみられる。各生育地の個体数はしばしば非常に多い。人里近い場所や裸地的な場所に生育することから、他の植物の成長、人による開発、工事など、既存の集団が破壊される危険要因が多い。

【県内生育状況】 人里近い場所や裸地的な場所に生育する。根茎が短く、栄養繁殖はほとんどしないが、生育地では群生している。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○	◎	○	○	○

**1016 ハナヤスリ科**

(和名) **ヒロハハナヤスリ**  
(学名) *Ophioglossum vulgatum* L.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は400個体前後、今回も400個体前後であった。丘陵地から低地にかけて生育地が点在する。生育地は大型の植物がない場所や、草刈り管理されていて大型の草本が抑えられている場所である。自然遷移、管理放棄が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 生育地は大型の植物がない場所や、草刈り管理されていて大型の草本が抑えられている場所である。

【特記事項】 田島ヶ原サクラソウ自生地のように、夏には大型の草本が密生する場所でも、春に大形草本がなく、前年の植物遺体が焼かれて裸地になる所には多い。現在の生育地の多くが人の管理下にある場所である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○		◎	○	◎	○



1017 マツバラ科

(和名) マツバラ

(学名) *Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 NT

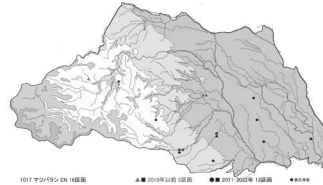
【評価所見】 前回50個体ほど、今回は100を超える。東部の低地、丘陵で新しく小さな個体群が見つかる一方で、消滅する個体群もある。個体数が少なく、生育地が土地利用の変化または開発の影響を受けやすい。道路工事、森林伐採、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 樹上または岩隙に生育する。根も葉もない茎だけの植物で、二叉分枝を繰り返して大きくなる。最も初期の維管束植物の形を残している植物で、形態の進化の面からも注目されてきた。

【特記事項】 国内分布は関東以南。標本：SMNH-Pt5919 (2005)。古くから栽培されてきて、現在も園芸採取の危険が残ることから、減少・消滅の危険は常にあると考える。なお、低地のものは逸出の可能性はある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○		◎	○	○	○



1018 ゼンマイ科

(和名) ヤシャゼンマイ

(学名) *Osmunda lancea* Thunb.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

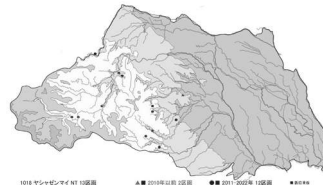
【評価所見】 前回の個体数は60前後、今回は100を超える報告があった。生育地は低山を中心に9集団11地点と多いが、1地点当たりの個体数は10数個体と少ない。自然遷移、河川改修が大きな危険要因となっている。また河川敷開発も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 河川の中でも河床の傾斜の緩い部分において、増水で水をかぶる岩に根をおろして生育している。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		◎	○	○	○			



1019 ゼンマイ科

(和名) ヤマドリゼンマイ

(学名) *Osmundastrum cinnamomeum* (L.) C.Presl var. *fokiense* (Copel.) Tagawa

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

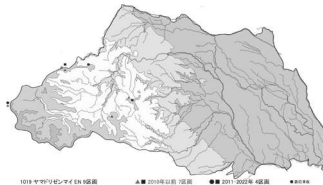
【評価所見】 前回の個体数は1,500前後、今回は400前後であった。生育地は4集団4地点の報告があるが、個体数の減少がみられる。自然遷移で湿地がわずかず縮小することや周辺の樹木の生長で暗くなることなどが危険要因となっている。加えて、近年はシカ食害の影響が非常に大きくなっている。

【県内生育状況】 湿原に群生する植物。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							



1020 コケシノブ科

(和名) アオホラゴケ

(学名) *Crepidomanes latealatum* (Bosch) Copel.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

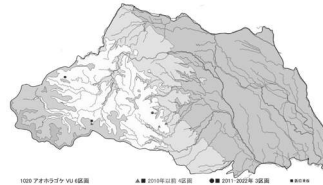
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000個体未満で前回は300個体前後である。秩父地域と越生で確認された。狭い地域での生育である。自然遷移は特に懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の湿り気のある岩上や、まれに樹上にも着生する常緑性の小型のシダである。

【特記事項】 チチブホラゴケに似ているが、包膜の形が二分状といわれる形をしている。また葉に偽脈がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○					





1021 コケシノブ科

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

〔和名〕チチブホラゴケ  
〔学名〕*Crepidomanes schmidianum* (Zenker ex Taschner) K.Iwats. var. *schmidianum*

【評価所見】 今回の確認個体数は400個体未満で前回は2,000個体未満である。集団数、自然遷移は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 湿った岩場や樹幹などに着生する常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は本州（福島・関東北部・西部・中部・中部・紀伊半島）四国、九州で限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕秩父市大滝入川で、1949年8月20日伊藤洋博士が発見、新種として記載された。アオホラゴケは葉面に偽脈があるが、本種にはない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1022 コケシノブ科

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

〔和名〕キヨスミコケシノブ  
〔学名〕*Hymenophyllum oligosorum* Makino

【評価所見】 今回の確認個体数は300未満で前回は報告がなかった。小さな個体で、生育地も限定されており、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 スギなどの大木に着生している場合が多い。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕コウヤコケシノブに似ているが、葉のふちには鋸歯がない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1023 コケシノブ科

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

〔和名〕ハイホラゴケ  
〔学名〕*Vandenboschia kalamocarpa* (Hayata) Ebihara

【評価所見】 今回の確認個体数は20個体未満で前回は200個体未満である。生育地の報告が減少している。個体数も少なく、森林の伐採や乾燥化、管理放棄による日照不足などが危険要因である。

【県内生育状況】 沢沿いの湿った岩を覆って生える。コケシノブ属と紛らわしいが、この仲間は根茎が太いので識別が可能である。

【特記事項】 標本:SMNH-Pt6065 (2009)、SMNH-Pt5936 (2006)。文献:石渡ほか2020 (日高市)、岩田2007 (越生町)、岩田2000 (両神村)、神川町・神川町教育委員会1989 (神川町) 他

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					

1024 ウラジロ科

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

〔和名〕コシダ  
〔学名〕*Dicranopteris linearis* (Burm.f.) Underw.

【評価所見】 今回の確認個体数は1,300個体未満で前回は2,200個体未満である。場所によっては絶滅した生育地がある。本種はおもに都市計画区域に生育しており、森林伐採、道路工事、園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 常緑性のシダである。群生をする。葉の中軸は二又に分岐し、分岐点に休止芽がある。切通しの崖などに自生している。

【特記事項】 県指定天然記念物〔大高取山のコシダ群落〕(越生町上野地内)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎		○			

1025 ウラジロ科

(和名) ウラジロ

(学名) *Diplazium glaucum* (Houtt.) Nakai

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリー 2020 なし

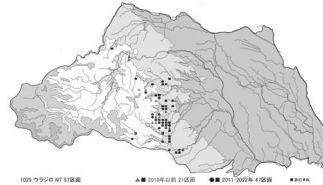
【評価所見】 今回の確認個体は17,000個体前後で前回とほぼ同数である。新たな生育地が見つかったが全体として個体数は増えていない。本種はおもに都市計画区域に生育している。森林伐採、自然遷移、道路工事、園芸採取などが危険要因である。

【県内生育状況】 コシダと同様な場所に生育している。

【特記事項】 野生動植物保護地区野生動植物 [ときがわ町道元平県自然環境保全地域] 県指定天然記念物 [道元平ウラジロ群落] (ときがわ町黒地内)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○	○	◎			



1026 デンジソウ科

(和名) デンジソウ

(学名) *Marsilea quadrifolia* L.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 今回の確認個体は10,000個体未満で前回とほぼ同様である。新たに3地点で確認されたが、1地点では開発により生育地の消失の危機が危惧されている。本種はおもに都市計画区域に生育しており、地域固有性もある。湿地開発、埋め立て、管理放棄、自然遷移、踏み付けなどが危険要因である。

【県内生育状況】 水田や沼地の泥の中に根茎を這わせている夏緑性のシダである。孢子嚢果は葉柄の付け根から少し離れたところにつく。

【特記事項】 標本: SMNH-Pt6183(1996)、SMNH-Pt5103(1954)。文献: 長須2007(鷲宮町)、卜沢1995(北本市)、埼玉県

1993(鷲宮町)、磯田1990(浦和市)他。県内希少野生動植物種 [埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例]。近似種のナンゴクデンジソウは孢子嚢果が葉柄の付け根からでる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	○	○

1027 サンショウモ科

(和名) オオアカウキクサ

(学名) *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】 今回は1地点の報告であったが種の同定が不十分であり不確定のため継続的に調査する必要がある。情報不足のため危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 池や用水路に出現している。

【特記事項】 標本: SMNH-Pt6082(行田2004)、SMNH-Pt6084(熊谷2001)、SMNH-Pt6083(深谷1999)など。文献: 石渡ほか2020(日高市)、岩槻市2005(岩槻市)、菊池2003(深谷市)他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1028 サンショウモ科

(和名) アカウキクサ

(学名) *Azolla pinnata* R.Br. subsp. *asiatica* R.M.K.Saunders et K.Fowler

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 EN

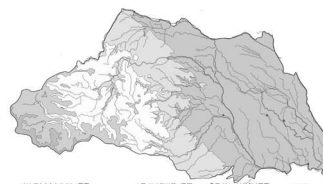
【評価所見】 前回はさいたま市、越谷市、川越市で報告があったが、今回は報告がない。本県に生育しているかは再検討が必要である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

【特記事項】 国内分布は関東以西。文献: 嵐山町博物誌植物部会2012(嵐山町)、愛川2007(川越市)、岩槻市2005(岩槻市)他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



**1029 サンショウモ科**

**埼玉カテゴリ** 2024 NT 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

**全国カテゴリ** 2020 VU

〔和名〕 **サンショウモ**  
〔学名〕 *Salvinia natans* (L.) All.

【評価所見】 今回の確認個体数は30,000個体前後で前回は40,000個体未満である。減少傾向はあるが、今は農業を使用しない水田もあり今後増加も期待される。水質汚濁、農薬汚染、河川改修、管理放棄の他、自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 水田や池沼の水面に浮かぶ一年草または常緑性の小型のシダで、根はない。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○			○	◎

**1030 キジノオシダ科**

**埼玉カテゴリ** 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

**全国カテゴリ** 2020 なし

〔和名〕 **オオキジノオ**  
〔学名〕 *Plagiogyria euphlebia* (Kunze) Mett.

【評価所見】 今回の確認個体数は1,300未満で、前回の1,200未満からやや増加した。森林伐採による土壌の乾燥、自然遷移による競合種の繁茂が主な危険要因である。主に関東地方以西の暖地に分布する種であるため、県内での分布範囲および生育個体数は限られる。

【県内生育状況】 スギ、ヒノキ植林地内の沢沿いの斜面等でまれにみられる。

【特記事項】 国内分布は本州（関東—新潟）以西。同属のキジノオシダは栄養葉の下部側羽片が無柄だが、本種は短くてもはっきりした柄をつける。キジノオシダと混生する場所では、両種の雑種であるフタツキジノオが生育することがあるため、同定には注意が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○	○			

**1031 キジノオシダ科**

**埼玉カテゴリ** 2024 VU 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

**全国カテゴリ** 2020 なし

〔和名〕 **キジノオシダ**  
〔学名〕 *Plagiogyria japonica* Nakai var. *japonica*

【評価所見】 今回の確認個体数は500未満で、前回の700前後から減少した。森林伐採による土壌の乾燥、自然遷移が主な危険要因である。主に関東地方以西の暖地に分布する種で、県内での分布範囲および生育個体数は限られる。

【県内生育状況】 スギ、ヒノキ植林地内の沢沿いの斜面等でまれにみられる。

【特記事項】 同属のオオキジノオは、栄養葉の下部側羽片に柄をつけるが、本種は無柄である。また両種の雑種であるフタツキジノオが生育することがあるため、同定には注意が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			

**1032 ホングウシダ科**

**埼玉カテゴリ** 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

**全国カテゴリ** 2020 なし

〔和名〕 **ホラシノブ**  
〔学名〕 *Odontosoria chinensis* (L.) J.Sm.

【評価所見】 今回の確認個体数は800個体前後で前回の1,000個体前後からやや減少した。本種はおもに都市計画区域に生育しており、道路工事、土地造成や園芸採取などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地性の山野の明るい路傍や切通、崖に群生している。最下羽片はやや短くなる。

【特記事項】 類似種にハマホラシノブがある。これは海岸性のシダで、葉が厚く革質で、下部の羽片はあまり短くならないので区別ができる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○	◎	○		

1033 コバノイシカグマ科

〔和名〕コバノイシカグマ

〔学名〕*Sitobolium zeylanicum* (Sw.) L.A.Triana et Sundue

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

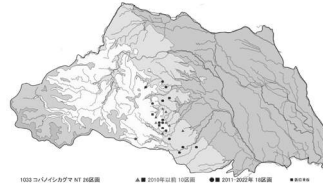
【評価所見】 今回の確認個体数は700前後で、前回の900前後からやや減少したが、全体の確認地点数は大きな変化がなく、いずれの地点も比較的安定した個体群が成立していた。森林伐採による乾燥化、自然遷移による競合種の繁茂、産地極限、道路工事などが主な危険要因である。本種はシカの不嗜好性植物であると考えられており、採食圧による脅威は少ない。

【県内生育状況】 ヒノキ植林地内のやや乾燥した林床等に生育する。根茎が長く匍匐するため、群生することが多い。

【特記事項】 葉軸や羽軸の毛がまばらで葉の二形性がより顕著なものを、ウスゲコバノイシカグマと呼び、品種もしくは独立種として区別する見解がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			◎	○	○			



1034 コバノイシカグマ科

〔和名〕フジシダ

〔学名〕*Monachosorum maximowiczii* (Baker) Hayata

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 LP 1998 LP

全国カテゴリー 2020 なし

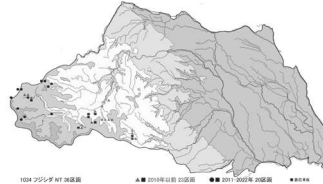
【評価所見】 今回の確認個体数2,500個体未満で前回は4,000個体未満である。やや生育する場所が縮小した。産地が限定されている。自然遷移、森林伐採、産地極限が危険要因である。

【県内生育状況】 湿った場所や崩壊地などで、栄養生殖により大群落をつくる。乾燥標本は黒色変化する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎	○	○					



1035 コバノイシカグマ科

〔和名〕オオフジシダ (キシウシダ)

〔学名〕*Monachosorum nipponicum* Makino

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では確認個体数1,000未満。1地点で報告があった。前回確認された場所と同じ場所で確認されている。生育地点が限られているので、産地が極めて限定されており、危険要因となっている。

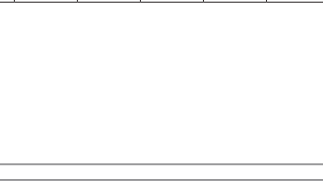
【県内生育状況】 渓谷沿いのやや薄暗い岩上や林下に群生している。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：TNS6297 (2002)。文献：岩田・林2020 (川浦渓谷)。県内にはフジシダとオオフジシダの雑種であるアイフジシダも知られる (海老原, 2016)。アイフジシダは両者の中間的な形態を有し、オオフジシダに比べ葉身の幅は狭く、3回羽状とならず2回羽状で

あり、最下羽片は長くならず、胞子が不稔で胞子嚢は弾けない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○						



1036 イノモトソウ科

〔和名〕ヒメウラジロ

〔学名〕*Cheilanthes argentea* (S.G.Gmel.) Kunze

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 VU

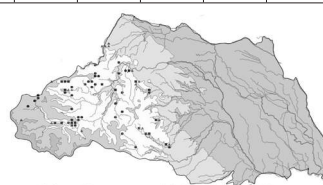
【評価所見】 今回の確認個体数は5,200個体未満で前回は4,200個体未満である。生育地も微増している。道路工事、自然遷移、園芸採取が大きな危険要因である。

【県内生育状況】 葉柄は長く褐色で光沢があり、折れやすい。葉身は五角形で、裏面は粉白色。常緑性のシダであるが、寒い地方では夏緑性になる。生育地は日当たりの良い道沿いや人家の石垣などに多い。石灰岩地を好むが、他の岩上にも生える。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	◎	○	○	○			





## 1037 イノモトソウ科

(和名) イワウラジロ

(学名) *Cheilanthes krameri* Franch. et Sav.埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 EN

【評価所見】 今回の確認個体数は600個体前後で前回とほぼ同数である。綿密な調査が進み、新たに生育している産地が報告されている。石灰岩採掘、自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 ミヤマウラジロに似ているが、やや小型である。葉身は羽状三角形で、包膜は孢子嚢群ごとに切れ、長く続かないのが特徴である。

【特記事項】 国内分布は埼玉・群馬・東京の石灰岩地で限定的。標本: SMNH-Pt5508 (1993)、SMNH-Pt5509 (1993)。文献: 岩田・林2020 (小鹿野町二子山・白石山)、須田ほか2019 (県内石灰岩地)、植田1990 (小鹿野町二子山) 他。国内希少野生動植物種 [種の保存法]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○						

## 1038 イノモトソウ科

(和名) ミヤマウラジロ

(学名) *Cheilanthes brandtii* Franch. et Sav.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

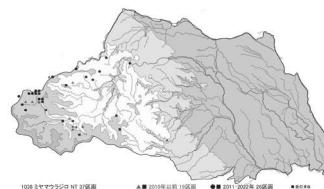
【評価所見】 今回の確認個体数は800個体前後で前回は1400個体前後である。道路工事、自然遷移、石灰岩採掘、またシカ被害や形が美しいので園芸採取も危険要因である。

【県内生育状況】 根茎は短く斜上または直立し、葉を叢生する。裏面は粉白色を帯びる場合が多い。石灰岩の岩上に垂れ下がっている場合が多いが、日当たりの良い山地の岩上や石垣にも生育している夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東・中部地方に限定的。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○		○				



## 1039 イノモトソウ科

(和名) ヤツガタケシノブ

(学名) *Cryptogramma stelleri* (S.G.Gmel.) Prantl埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 EX 1998 EX

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 前回と今回の調査で報告がない。絶滅と判断する。

【県内生育状況】 高山の日陰の湿った岩の上に生育している小型の夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は本州中部 (埼玉・長野・山梨) の高山に限定的。標本: SMNH-Pt114 (大滝1955)、TNS124089 (荒川1955)。文献: 伊藤1958 (秩父多摩国立公園)。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

## 1040 イノモトソウ科

(和名) シシラン

(学名) *Haplopteris flexuosa* (Fée) E.H.Crane埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

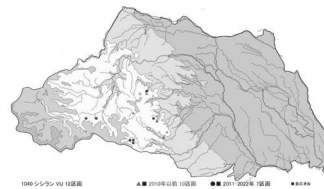
【評価所見】 今回の確認個体数は700個体前後で前回は3,000個体未満である。やや生育地が減少し、個体数も減少した。開発圧力、自然遷移など森林伐採による沢の乾燥化が危険要因である。

【県内生育状況】 暖地性の、やや湿り気のある岸壁に垂れ下がって生育する常緑性のシダである。大きな岩場を探すと見つかる場合がある。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	◎					



1041 イノモトソウ科

〔和名〕アマクサシダ  
〔学名〕*Pteris dispar* Kunze

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

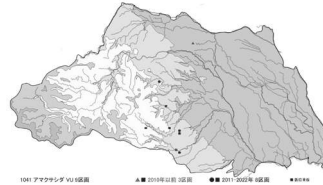
【評価所見】 今回の確認個体数は160個体未満で前回は100個体未満である。新たな生育地の発見もみられ、前回よりやや増えているが、個体数はあまり多くない。森林伐採、自然遷移が大きな危険要因である。

【県内生育状況】 暖地のやや乾燥した斜面に生育している常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○		◎			



1042 イノモトソウ科

〔和名〕マツサカシダ (マツザカシダ)  
〔学名〕*Pteris nipponica* W.C.Shieh

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

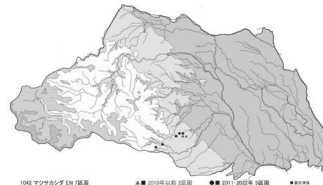
【評価所見】 今回の確認個体数は11で、前回の1個体から増加した。主に関東地方以西の暖地に生育する植物で、県内での分布範囲および生育個体数は限られる。森林伐採に伴う乾燥化、自然遷移による競合種の繁茂、土地造成、園芸採取圧等が主な危険要因である。

【県内生育状況】 やや乾燥したスギ植林地内等にまれにみられる。

【特記事項】 国内分布は本州（千葉以西）。標本：SMNH-Pt5355 (2004)。文献：須田ほか2017 (越生町黒山)。オオバノイノモトソウに似るが、本種は葉が革質でより厚く、側羽片の数が1から3対と少ない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○		○			



1043 イノモトソウ科

〔和名〕オオバノアマクサシダ  
〔学名〕*Pteris terminalis* Wall. ex J.Agardh var. *fauriei* (H.Christ) Ebihara et Nakato

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回は県内1地点で確認だったが、今回は4地点から報告があり確認個体数40個体未満であった。森林伐採、自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 オオバノハチジョウシダの変種で、母種によく似ているが、羽片先端の頂小羽片が側小羽片と比べて著しく長いことが区別点である。暖地の林内に生育している。

【特記事項】 関東地方南部から九州に分布し、埼玉県は関東地方の北限に近い。標本：SMNH-Pt5766 (2009)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○					



1044 イノモトソウ科

〔和名〕 オオバノハチジョウシダ

〔学名〕 *Pteris terminalis* Wall, ex J.Agarth var. *terminalis*

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

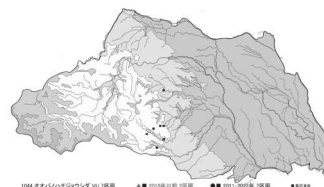
【評価所見】 今回の確認個体数は400未満で、前回の150未満から増加した。100個体以上が群生する地点もある。森林伐採、道路工事、自然遷移が主な危険要因である。シカの嗜好性植物と考えられ、採食圧による脅威は小さいといえる。  
【県内生育状況】 スギ植林地内の沢沿いの斜面等に、ややまれに生育する。

【特記事項】 従来はオオバノハチジョウシダの側羽片は上側・下側とも全裂し、葉の全形が大型であるのに対し、変種のオオバノアマクサシダでは側羽片の先端部が尾状になり、側羽片の上側には小羽片をつけないか、不規則に少数つけ、葉の全形がやや小型のものとしていたが（岩槻, 1992）、無融合生殖種をオオバノアマクサシダとし、有性生殖種をオオバノハチジョウシダ本種とする見解が提示された（海老原, 2016）。ここでは海老原（2016）に従い、変種のオオバノア

マクサシダは、頂小羽片が側小羽片よりも長く伸びるのに対して、オオバノハチジョウシダの頂小羽片は側小羽片と同長かより小さいものとした。幼株では区別が難しい。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○	○			



1045 ナヨシダ科

〔和名〕 ウスヒメワラビ

〔学名〕 *Acystopteris japonica* (Lueres.) Nakai

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

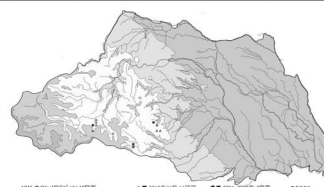
【評価所見】 今回の確認個体数は10,000個体未満である。前回は60,000個体と見積もった。前回より生育地は半減し、個体数も激減している。森林伐採、自然遷移が危険要因である。またシカ食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 やや陰湿な林下に生える夏緑性のシダである。群生することが多い。葉身は三角状卵形で、葉柄は紫褐色で光沢があり、白い鱗片との対比が美しい。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○					



1046 ナヨシダ科

〔和名〕 ナヨシダ

〔学名〕 *Cystopteris fragilis* (L.) Bernh.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

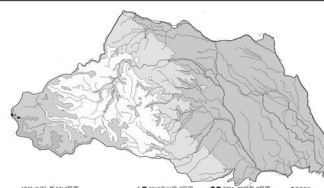
【評価所見】 今回の確認個体数は300個体未満で、前回と同様の個体数である。生育地が限られていて、個体数、集団数も少ない。自然遷移、シカ食害などが危険要因である。

【県内生育状況】 夏緑性のシダで、奥秩父では石灰岩地に生育している。

【特記事項】 国内分布は中部以北。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園] 標本: SMNH-Pt299 (1955)、TNS1140998 (1998) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1047 ナヨシダ科

〔和名〕 ウサギシダ

〔学名〕 *Gymnocarpium dryopteris* (L.) Newman

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は20個体未満で前回は100個体未満である。個体数、集団数が著しく減少している。主に自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 葉は最下羽片が著しく大きく、三出複葉に見える。全体無毛。涼しい地方の林下にまれにみられる夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本: TNS1134919 (1987)、TNS444451 (1983)。文献: 岩田2005 (秩父山地)、卜沢

1999 (秩父山系)、岩田1987 (秩父山系) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

1048 ナヨシダ科

(和名) **イワウサギシダ**

(学名) *Gymnocarpium robertianum* (Hoffm.) Newm.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

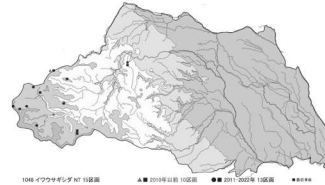
【評価所見】 今回の確認個体数は2,000個体未満で、前回3,000個体前後より減少している。自然遷移、石灰岩採掘に加え、きれいな形のため園芸採取も危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地や蛇紋岩地にみられる夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は中部以北。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕多くの点でウサギシダに似ている。相違点は、葉柄や中軸に腺毛があることや葉身はやや細くてあまり三出複葉にはならないことである。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎		○					



1049 ナヨシダ科

(和名) **エビラシダ**

(学名) *Gymnocarpium oyamense* (Baker) Ching

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

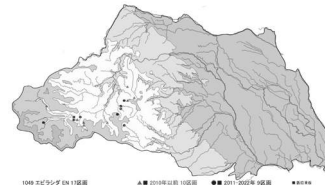
【評価所見】 今回の確認個体数は600個体未満であった。前回は1,200個体前後であったので半減している。森林伐採、自然遷移、シカの食害、園芸採取などが危険要因である。

【県内生育状況】 湿り気のある岩礫地にみられる夏緑性のシダである。葉身は葉柄に傾いてつく。最下羽片は最大で中〜深裂する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕標本：SMNH-Pt5706 (2008)、SMNH-Pt6020 (2003) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	◎	○					



1050 チャセンシダ科

(和名) **ヒメイワトラノオ**

(学名) *Asplenium capillipes* Makino

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

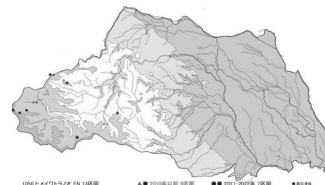
【評価所見】 今回の確認個体数は200個体前後で前回は500個体未満であった。前回よりやや生育地が減少した。自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地に垂れ下がる小型のシダで生育地点も限定されている。

【特記事項】 国内分布は北海道南部・本州（関東・中部・岡山）・四国・九州の石灰岩地に限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕。標本：SMNH-Pt5518 (2009)、SMNH-Pt5519 (2009) など。類似種のイワトラノオとは、中軸上に無性芽をつけるので識別できる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
◎	○							



1051 チャセンシダ科

(和名) **オクタマシダ**

(学名) *Asplenium pseudowilfordii* Tagawa

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 EX

全国カテゴリー 2020 VU

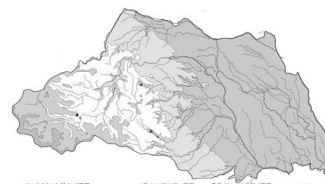
【評価所見】 今回の確認個体数は100個体未満で前回は200個体未満である。いずれも前回から生育が確認されている3地点である。生育地が限定されており、個体数も少ない。森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 沢沿いの大きな岩などに生育している種である。トキワシダに似ているが2回羽状複葉で、中軸上に無性芽をつけることはない。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕本種は、東京都奥多摩で採集された標本に基づいて記載・発表された種で、県内では大野正男氏により1957年発見され、1961年12月20日（昭和36年）飯能文化財時報第20号に報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○		○		○			





## 1052 チャセンシダ科

〔和名〕クモノスシダ

〔学名〕*Asplenium ruprechtii* Sa,Kurata埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

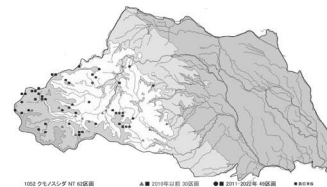
【評価所見】 今回の確認個体数は2,500個体未満で前回は3,500個体未満である。前回より生育地点は増えている。個体数も比較的多く報告されている。石灰岩採掘、森林伐採、道路工事、土地造成および自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩上に生育することが多いが、それ以外の岩上や石垣などにも生育する。葉身上部は糸状に長く伸び、先端に無性芽を付けて栄養生殖をする。

【特記事項】 特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕本種とコバノヒノキシダとの雑種をイセザキトラノオ、本種とイトワトラノオとの雑種をクモイワトラノオという。県内でも採集されている。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○	○				



## 1053 チャセンシダ科

〔和名〕イチョウシダ

〔学名〕*Asplenium ruta-muraria* L.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 NT

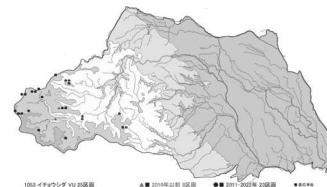
【評価所見】 今回の確認個体数600個体未満で前回は400個体前後であった。生育地は多いが各生育地の個体数は少ない。石灰岩採掘、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 主に石灰岩の隙間に生育する小型の常緑性のシダである。

【特記事項】 分布が限定的であり、石灰岩地に限られる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



## 1054 チャセンシダ科

〔和名〕トキワトラノオ

〔学名〕*Asplenium pekinense* Hance埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

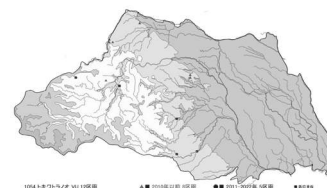
【評価所見】 今回の確認個体数は700個体未満で前回は1,600未満である。本種は都市計画区域に生育しており、土地造成、道路工事などが危険要因である。

【県内生育状況】 人家の石垣などにまれにみられる。

【特記事項】 国内分布は関東以西。コバノヒノキシダとは、葉柄基部の鱗片で区別し、本種は鱗片下部に褐色の毛が密生する。コバノヒノキシダとの雑種がみられるので、種としての本種の同定は難しい。コバノヒノキシダとの雑種であるアイトキワトラノオが採集されている。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○			○			



## 1055 チャセンシダ科

〔和名〕アオチャセンシダ

〔学名〕*Asplenium viride* Huds.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

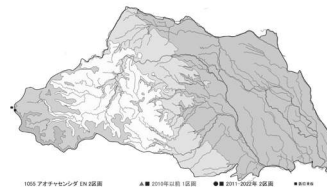
【評価所見】 今回の確認個体数は300未満で前回も同じ個体数である。生育地が限定されている。小さい個体なので、シカの食害対象にはなりにくいが、自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育している。

【特記事項】 国内分布は高山の石灰岩地に隔離分布。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕。チャセンシダに似ているが、葉柄と中軸は緑色で翼がないので区別が可能である。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1056 チャセンシダ科  
 (和名) **アオガネシダ**  
 (学名) *Asplenium wilfordii* Mett. ex Kuhn

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
 2005 DD 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回、今回と生育報告はない。近年確認されていないため絶滅とする。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 岩上や樹幹に着生している。

【特記事項】 埼玉県及び伊豆半島以西に分布し、埼玉県は北限。標本：SMNH-Pt1078（飯能1979）、TNS1043462（飯能1984）、TNS402416（1980）。文献：なし。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1057 ヒメシダ科  
 (和名) **コハシゴシダ**  
 (学名) *Thelypteris angustifrons* (Miq.) Ching

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
 2005 CR 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は250個体未満で前回と同じ個体数である。生育地が拡大しているが、各生育地では個体数が少ない。地域固有性が高い。森林伐採、道路工事、踏み付けや自然遷移なども危険要因である。

【県内生育状況】 道路に面した斜面や石垣など、やや乾燥した所に生育している。

【特記事項】 国内分布は関東以西、福島県南部、佐渡。ハシゴシダに似ているが、下部羽片の最上側の裂片が独立し、裂片の先がやや丸いのが同定の基準になる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○		◎			

1058 ヒメシダ科  
 (和名) **タチヒメワラビ**  
 (学名) *Phegopteris bukoensis* (Tagawa) Tagawa

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
 2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は10未満で2地点で報告があった。前は1地点のみである。産地が限定されている。シカの食害が危険要因である。

【県内生育状況】 やや湿り気のある明るい林内に生じる夏緑性のシダで、県内ではミズナラなどの疎林や草原に生育している。

【特記事項】 標本：SMNH-Pt516（1971）、TNS1027121（1996）。文献：守屋1987（武甲山）、岩田1987（秩父山系）、守屋1983（武甲山）他。タイプ標本の産地は武甲山である。特別地域指定植物「秩父多摩甲斐国立公園」

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○		○					

1059 ヒメシダ科  
 (和名) **ニッコウシダ**  
 (学名) *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching var. *nipponica*

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
 2005 DD 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回、今回と報告がない。旧植物誌に記載があるが証拠標本がないので詳細は不明である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 山地の明るい湿地や林下に群生する夏緑性のシダである。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

## 1060 ヒメシダ科

〔和名〕メニッコウシダ

〔学名〕*Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching var. *borealis* (H.Hara) H.Hara埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は1地点で報告があったが、今回は報告がないので、引き続き調査する必要がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 ニッコウシダの変種で、葉身はニッコウシダよりも少し広い。ハリガネワラビとニッコウシダの中間的な感じである。やや乾いた場所にも生育している。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1061 ヒメシダ科

〔和名〕オオバショリマ

〔学名〕*Thelypteris quelpaertensis* (H.Christ) Ching埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回、今回と報告がない。生育は不明である。引き続き調査する必要がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 沢沿いなどの湿ったところに生育している。

【特記事項】 標本:SMNH-Pt984 (1961)、TNS1027178 (1992)、岩田標本10971 (1992)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1062 イワデンダ科

〔和名〕イヌイワデンダ

〔学名〕*Woodsia intermedia* Tagawa埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 前回も今回も報告がない。生育地が不明のところもあり、今後の調査が待たれる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 樹林内の岩場などに生育する常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は山形・関東・中国地方・愛媛・九州北部に限定的でまれ。標本:SMNH-Pt5453 (秩父2008)、TNS449278 (長瀬1980)、文献:古瀬1959 (東松山市)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1063 イワデンダ科

〔和名〕トガクシデンダ

〔学名〕*Woodsia glabella* R.Br. ex Richards.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 VU  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

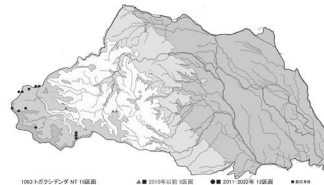
【評価所見】 今回の確認個体数は1,400個体未満で前回は1,600個体未満である。石灰岩地にみられるシダで、生育地が複数報告されている。石灰岩採掘、産地極限、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩にみられる夏緑性の小さなシダである。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1064 イワデンダ科

(和名) コガネシダ

(学名) *Woodsia macrochlaena* Mett. ex Kuhn

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

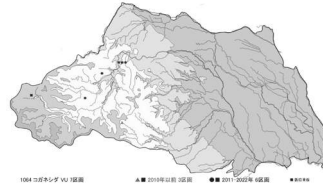
【評価所見】 今回の確認個体数は250個体未満で前回と同様の個体数である。近似種との見分け方が進めば、新たな生育地が見つかる可能性はある。自然遷移などが危険要因となる。

【県内生育状況】 岩上や石垣などに生育する夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は本州・四国・九州の山地に限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕近似種のコガネシダとは、羽片がほとんど左右対称で、基部に耳片がないことで区別可能である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	◎	○	○				



1065 シシガシラ科

(和名) コモチシダ

(学名) *Woodwardia orientalis* Sw.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

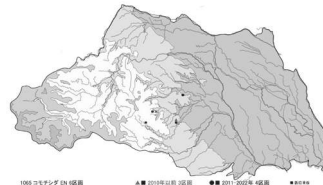
【評価所見】 今回の確認個体数は30未満で前は50個体前後であった。前は3地点からの報告、今回は4地点からの報告となった。土地造成や道路工事などが危険要因である。

【県内生育状況】 やや乾いた斜面や土手などに、大きな葉を下垂させて生える常緑性のシダである。葉の表面に無性芽を多くつける。

【特記事項】 標本:SMNH-Pt5959 (2001)、SMNH-Pt5958 (2003) など。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○		○			



1066 メシダ科

(和名) テバコワラビ

(学名) *Athyrium atkinsonii* Bedd.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 今回の確認個体数は320個体未満で前は1,600個体未満である。現在確認されている生育地は1地点で、胞子を付けない小さな個体のみである。シカの食害、自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 湿地の周りに生育している。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt5399 (2007)、SMNH-Pt5569 (1992)。文献:岩田・林2020 (雁峠・笠取山・唐松尾山)、岩田2005 (秩父山地)、岩田1987 (秩父山系) 他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								



1067 メシダ科

(和名) サトメシダ

(学名) *Athyrium deltoideofrons* Makino

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回は1地点で報告があった。集団数が1である。比較的大型のシダなのでシカの食害などが危険要因である。

【県内生育状況】 明るい湿地に生育する夏緑性のシダである。

【特記事項】 標本:SMNH-Pt5859 (2008)、岩田標本54786 (1999) など多数。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								





## 1068 メシダ科

〔和名〕ミヤコイヌワラビ

〔学名〕*Athyrium imbricatum* H.Christ埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 EX 1998 EX

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は100個体未満で前回は確認がなかった。2地点で確認があったが近接しているため1地点としている。個体数、集団数、自然遷移などが大きな危険要因である。

【県内生育状況】 川沿いなど、多湿な林下に生育する夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



## 1069 メシダ科

〔和名〕ミヤマメシダ

〔学名〕*Athyrium melanolepis* (Franch. et Sav.) H.Christ埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で前回は40個体未満である。今まで確認されている生育地は亜高山帯である。シカの食害が危険要因である。

【県内生育状況】 沢沿いにみられるシダである。

【特記事項】 標本: SMNH-Pt1284 (1984)、SMNH-Pt172 (1955)。文献: 岩田・林2020 (奥秩父林道)、岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか2000 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

## 1070 メシダ科

〔和名〕イワイヌワラビ

〔学名〕*Athyrium nikkoense* Makino埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は400個体未満で前回は1,900個体未満である。生育地が少なく限定されていて集団数も少ない。自然遷移が大きな危険要因である。

【県内生育状況】 深山の湿った岩上に、葉を垂れ下げていることが多い夏緑性のシダである。

【特記事項】 標本: SMNH-Pt6008 (2006)、SMNH-Pt6007 (2005) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。近縁種であるフクロシダに似ているが、包膜の形で識別可能である。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



## 1071 メシダ科

〔和名〕カラフトミヤマシダ

〔学名〕*Athyrium spinulosum* (Maxim.) Milde埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は500個体未満で前回は200個体前後であった。集団数は少なく、シカの食害で胞子をつけている個体は少ない。生育地では減少傾向が続いている。自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 針葉樹林下に生える夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本: SMNH-Pt6299 (1986)、SMNH-Pt216 (1954) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



## 1072 メシダ科

(和名) ヘラシダ

(学名) *Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

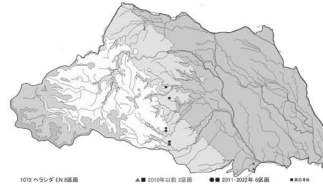
【評価所見】 今回の確認個体数は160個体未満で前回は100個体未満である。いずれも八高線沿線の丘陵地帯であり、集団数は増加した。前回は和光市のみの報告である。森林伐採、産地極限、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地性のシダで、やや陰湿な岩上や土壁などに細い葉を下垂させて群生する。

【特記事項】 国内分布は本州（関東中南部以西）、標本：TNS332652 (1958)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○	◎			



## 1073 メシダ科

(和名) ミドリワラビ

(学名) *Deparia viridifrons* (Makino) M.Kato埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

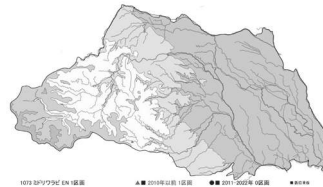
【評価所見】 前回は1地点で報告があったが、今回は報告がない。県西部に生育している。オオヒメワラビとよく似ているため、報告の再検討が必要である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 林下に生育する夏緑性のシダである。

【特記事項】 標本：SMNH-Pt6017(2005)、SMNH-Pt4637(1990)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。近似種のオオヒメワラビに似ているが、もう少し切れ込みが深い。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1074 メシダ科

(和名) ミヤマノコギリシダ

(学名) *Diplazium mettenianum* (Miq.) C.Chr.埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

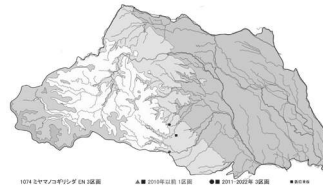
【評価所見】 今回の確認個体数は10個体未満で前回は情報不足の種である。新たに複数の場所で生育が確認された。自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の林下に生育するシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-Pt5403(2005)。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



## 1075 メシダ科

(和名) オニヒカゲワラビ

(学名) *Diplazium nipponicum* Tagawa埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

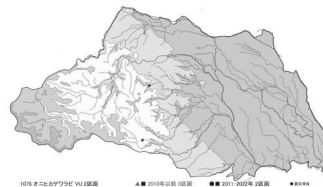
【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満である。2地点から報告があった。追加で検討された種である。県西部で確認された大型のシダで、群落をつくらず数本単位で生育している。集団数、開発圧力、森林伐採などが危険要因である。

【県内生育状況】 やや湿ったところに生育している常緑性もしくは夏緑性のシダである。

【特記事項】 標本：岩田標本74185(2005)、岩田標本86122(2010)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○				



## 1076 メシダ科

(和名) ノコギリシダ

(学名) *Diplazium wichurae* (Mett.) Diels var. *wichurae*埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は3,500個体未満で前回と同じ個体数である。生育地が限られているが、そこでは群生していて個体数は1,000個体を超えている。森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の沢沿いの湿り気のある岩上または地上に多い常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt5336(2003)、SMNH-Pt616(1977)。近似種のミヤマノコギリシダは耳状突起があまり顕著ではない。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					



## 1077 キンモウワラビ科

(和名) キンモウワラビ

(学名) *Hypodematum crenatum* (Forssk.) Kuhn subsp. *fauriei* (Kodama) K.Iwats.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 VU

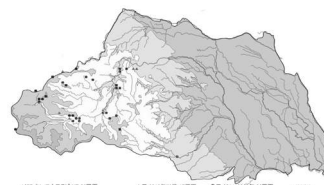
【評価所見】 今回の確認個体数は4,500個体前後で前回は5,600個体前後であった。ここ数年の希少野生植物調査で新たな生育地が確認された。石灰岩採掘、道路工事、園芸採取、シカ食害、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩等の岩石地にみられる夏緑性のシダで、石垣などにもみられる。

【特記事項】 国内分布は本州（関東・山梨・長野）、高知、九州の石灰岩地に多く限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎	○	○	○			



## 1078 オシダ科

(和名) オニカナワラビ

(学名) *Arachniodes chinensis* (Rosenst.) Ching埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は100個体未満で前回は160個体未満である。報告場所が微増したが個体数が少なく開発圧力が強い場所に生育している。土地造成、森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 やや乾いた林中の崖下や林床などに生育する。

【特記事項】 分布は関東以西。標本:SMNH-Pt6044(2011)、SMNH-Pt6058(2009)。文献:石渡ほか2020(日高市)、岩田・林2020(毛呂山町)、岩田2001(飯能市)、落合2000(寄居町)他。近似種のアカタシダとは、本種は羽片の数が多く、葉の上に向かって徐々に短くなること、はっきりとした頂羽片を持たないことで識別可能である。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎		◎			

## 1079 オシダ科

(和名) ホソバカナワラビ

(学名) *Arachniodes exilis* (Hance) Ching埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は330個体未満で前回は1,500個体未満である。集団数が少なく開発圧力が強い場所に生育している。土地造成、森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 やや乾いた林中の崖下や林床などに生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt6044(2011)、SMNH-Pt6058(2009)。文献:石渡ほか2020(日高市)、岩田・林2020(毛呂山町)、岩田2001(飯能市)、落合2000(寄居町)他。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					

1080 オシダ科

(和名) シノブカグマ

(学名) *Arachniodes mutica* (Franch. et Sav.) Ohwi

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

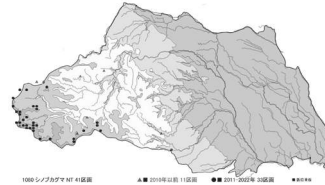
【評価所見】 今回の確認個体数は5,000個体未満で前回は4,000個体未満である。秩父では以前は普通にみられたが、シカの食害で少なくなっている。目撃される個体は、胞子を付けていない小さな個体が多い。シカ食害、森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 以前は針葉樹林帯の下草としてシラネウラボとにも普通にみられる種であった。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○				○			



1081 オシダ科

(和名) ミドリカナワラビ

(学名) *Arachniodes nipponica* (Rosenst.) Ohwi

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

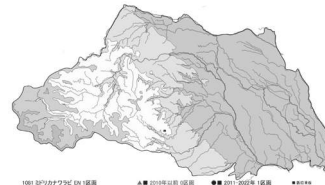
【評価所見】 今回の確認個体数は30未満である。1地点で報告があった。最近の調査により生育地が新しく発見された種である。新規発見のため危険要因の判断は情報不足である。

【県内生育状況】 やや湿った林下に生育する常緑性のシダ。

【特記事項】 本州・四国・九州に分布し、埼玉県は北限。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					



1082 オシダ科

(和名) オオカナワラビ (カナワラビ)

(学名) *Arachniodes amabilis* (Blume) Tindale var. *fimbriata* K.Iwats.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

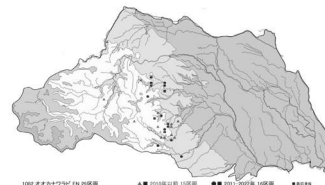
【評価所見】 今回の確認個体数は600未満で、前回の1,500未満から減少した。森林伐採による乾燥化、土地造成、道路工事、踏みつけなどが主な危険要因であり、今後も注意して経過を追う必要がある。主に関東地方以西の暖地に生育する種で、本県が生産地の極限に近いことも、危険要因の1つと考えられる。

【県内生育状況】 スギ植林内の湿潤な林床や沢沿いにやままれにみられる。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本: SMNH-Pt5806 (2008)、SMNH-Pt5655 (2001) など。同属のハカタシダ、オニカナワラビ等と混生することがあるが、本種は頂羽片が独立し、最下羽片に下向き第一小羽片は曲がらずまっすぐで、ソーラスが辺縁寄りにつく等の特徴があるため、識別可能である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○	○			



1083 オシダ科

(和名) メヤブソテツ

(学名) *Cyrtomium caryotideum* (Wall, ex Hook, et Grev.) C.Presl

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

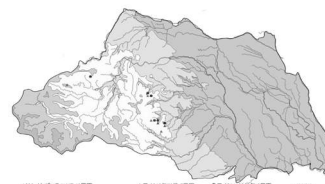
【評価所見】 今回の確認個体数は500個体未満で前回は1,200個体未満であった。前回とほぼ同じ地点での報告である。土地造成、道路工事、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩や結晶片岩地域に生育している種である。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	◎		○			





## 1084 オシダ科

(和名) キヨスミヒメワラビ

(学名) *Dryopsis maximowicziana* (Miq.) C.Chr.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

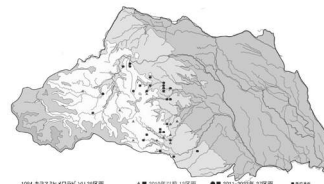
【評価所見】 確認個体数は前回、今回ともに300前後で、大きな変化は見られなかった。自然遷移による乾燥化、道路工事、踏みつけ、土地造成、森林伐採が主な危険要因である。主に関東地方以西の暖地に生育する種で、県内での分布範囲および生育個体数は限られる。シカの不嗜好性植物であるため、採食圧による脅威は小さい。

【県内生育状況】 スギ植林内の湿潤な林床や沢沿いに、ややまれにみられる。

【特記事項】 国内分布は関東以西。葉柄に白色半透明の鱗片を密生する大型の種であり、他種との識別は容易である。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	◎	○	○			



## 1085 オシダ科

(和名) サイゴクベニシダ

(学名) *Dryopteris championii* (Benth.) C.Chr. ex Ching埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 NT 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

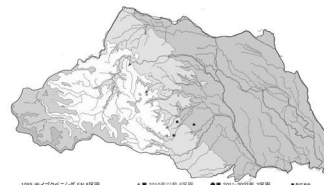
【評価所見】 今回の確認個体数は6個体で、前回の30個体から大幅に減少した。各地点での生育個体数も少なく、今後の動態に注意する必要がある。今回確認された個体群はいずれも比較的環境が安定しており、直近での消失の心配は無い。確認報告が少なく情報が不足しているため、危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 ヒノキ植林地やコナラ林等のやや乾燥した林床や岩壁上に、まれにみられる。

【特記事項】 標本:SMNH-Pt6060 (2009)、SMNH-Pt5816 (2008)。概形が似るエンシュウベニシダは、本種とマルバベニシダとの中間的な形質を示す。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○		



## 1086 オシダ科

(和名) イワヘゴ

(学名) *Dryopteris atrata* (Wall. ex Kunze) Ching埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 NT  
2005 NT 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で前回は70個体未満である。個体数、集団数の減少、道路工事、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 沢沿い、河川の石垣、谷間の杉林に生育している。暖地性のシダで、県内では少ない。

【特記事項】 標本:SMNH-Pt6042(2011)、SMNH-Pt6043(2011)。文献:石渡ほか2020(日高市)、木村・森廣2014(名栗)、落合・高橋2001(小川町)他。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			



## 1087 オシダ科

(和名) ナチクジャク

(学名) *Dryopteris decipiens* (Hook.) Kuntze埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は350個体未満で前回も同様の個体数である。近接場所の報告もあり、生育地は狭い範囲で限定されている。森林伐採や自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の低山の斜面や岩上に、ややまれに見られる。

【特記事項】 埼玉県は分布北限。標本:SMNH-Pt6030(2016)、SMNH-Pt5672(2000)など。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			



1088 オシダ科

(和名) **オオクジャクシダ**

(学名) *Dryopteris dickinsii* (Franch. et Sav.) C.Chr.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 なし  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

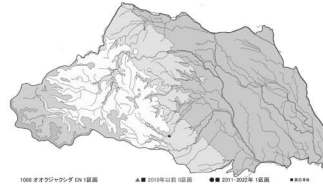
【評価所見】近年、県西部の丘陵帯や山地帯で確認されており、今回の調査では1地点から報告があった。今回確認されたこの個体群は比較的安定しており、直近での消失の心配は無い。今後は重点的な調査を実施し、分布状況を明らかにする必要がある。現状では確認報告が少なく情報が不足しているため、危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 沢沿いの湿潤な林床にまれにみられる。

【特記事項】文献情報としては狭山丘陵の植物(東京薬科大学、1967年)がある。標本：岩田標本61453 (2000)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			



1089 オシダ科

(和名) **マルバベニシダ**

(学名) *Dryopteris fuscipes* C.Chr.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

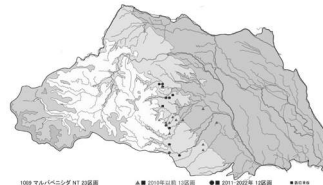
【評価所見】 今回の確認個体数は50個体未満で、前回の60個体未満からやや減少した。森林伐採による乾燥化、自然遷移による競合種の繁茂等が主な危険要因である。主に関東地方以西の暖地に生育する種で、県内での分布範囲および生育個体数は限られる。

【県内生育状況】 ヒノキ植林やコナラ林等のやや乾燥した林床に、ややまれにみられる。

【特記事項】 国内分布は関東以西。外形が似るエンシュウベニシダは、本種とサイゴクベニシダとの中間的な形質を示す。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○	○	◎			



1090 オシダ科

(和名) **サクラカグマ**

(学名) *Dryopteris gymnophylla* (Baker) C.Chr.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

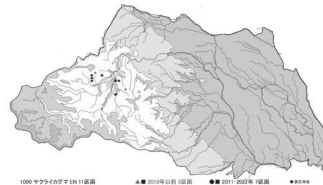
【評価所見】 今回の確認個体数は140個体未満で前回は220個体未満である。生育地が限定され、各生育地の個体数は少なく集団数も少ない。森林伐採、シカの食害、道路工事などが危険要因である。

【県内生育状況】 岩の多い斜面に生育している。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt5548(2009)、SMNH-Pt5975 (2003) など。ミサキカグマに似るが、本種は中軸や羽軸にほとんど鱗片がない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○						



1091 オシダ科

(和名) **ヌカイトチシダ**

(学名) *Dryopteris gymnosora* (Makino) C.Chr.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

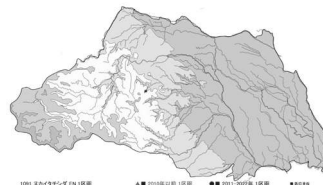
【評価所見】 今回の確認個体数は300個体前後で前回は700個体未満である。生育地が限定されている。産地極限、開発圧力、森林伐採などが危険要因である。

【県内生育状況】 山地の樹林の下や崖に生える常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt5549(2009)、SMNH-Pt2947 (1981) など。似た種にヌカイトチシダモドキがあるが、本種は包膜を持たないので区別が可能である。県内で産するベニシダ属で包膜を持たないのは本種のみである。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○					



## 1092 オシダ科

〔和名〕ギフベニシダ

〔学名〕*Dryopteris kinkiensis* Koidz. ex Tagawa埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 DD  
2005 NT 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

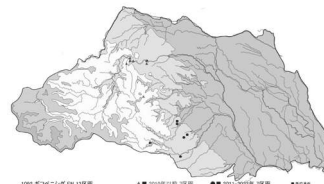
【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で報告された生育地の個体数は非常に少ない。また生育している場所は開発圧力の強いところであり土地造成、森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 山麓の林縁、路傍、石垣などやや人の手の入った環境に多い常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt896 (1980)、SMNH-Pt2875 (1980)、SMNH-Pt5378 (2004)。坂戸市では保護されている。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	◎			



## 1093 オシダ科

〔和名〕エンシュウベニシダ

〔学名〕*Dryopteris medioxima* Koidz.埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は10未満で非常に少ない。2地点から報告があった。産地極限、シカの食害、森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の低山地の林床に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt6059 (2009)、SMNH-Pt5416 (2008)。文献:石渡ほか2020 (日高市)。葉の輪郭はサイゴクベニシダに似るが、胞子嚢の位置はマルバベニシダに似ている。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

## 1094 オシダ科

〔和名〕ナガバノイタチシダ

〔学名〕*Dryopteris sparsa* (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze var. *sparsa*埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50個体未満で、前回の150個体から大幅に減少した。自然遷移による競合種の繁茂等が主な危険要因で、今後の動態に注意する必要がある。主に関東地方以西の暖地に生育する種だが、県内では丘陵帯を中心に点々と自生地があるため、今後の調査での詳細な分布解明が期待される。

【県内生育状況】 スギ植林地内の沢沿いにややまれにみられ、岩壁から垂れ下がって生えることが多い。

【特記事項】 関東地方以南に分布する暖地性の種で、現在知られる分布の北限は、栃木県栃木市の太平山。標本:SMNH-Pt6063 (2009)、SMNH-Pt6072 (2009)。文献:岩浪

2021 (飯能市)、石渡ほか2020 (日高市)、岩田・林2020 (鎌北湖西・駒高尾根) 他。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○				

## 1095 オシダ科

〔和名〕タニヘゴ

〔学名〕*Dryopteris tokyoensis* (Makino) C.Chr.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

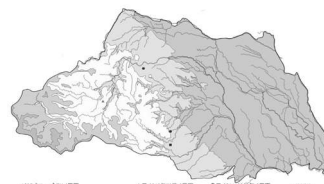
【評価所見】 今回の確認個体数は600個体未満で前回は1,000個体未満である。大型のシダでシカの食害が大きい。また産地極限、開発圧力、湿地開発などが危険要因となる。

【県内生育状況】 夏緑性の大型シダで、明るい湿地や休耕している谷津田などでみられる。群生して大きく、直立した形態はよく目立つ。

【特記事項】 標本:TNS1024329 (2001)、TNS1024333 (1997)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			



1096 オシダ科

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【和名】 **ホソイノデ**  
【学名】 *Polystichum braunii* (Spenn.) Fée

【評価所見】 今回の調査では確認個体数30未満。5地点から報告があった。山地帯や亜高山帯に生育している。シカの食害が危険要因である。

【県内生育状況】 深山の林下に分布する夏緑性のシダ。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：岩田標本72863(2004) 岩田標本84129 (2009) 他多数。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

1097 オシダ科

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【和名】 **チャボイノデ**  
【学名】 *Polystichum igaense* Tagawa

【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で前回は100個体未満である。スギ植林地であるため伐採による乾燥化や踏みつけ、シカの食害、森林伐採などが危険要因である。

【県内生育状況】 スギ・ヒノキの林床に生育している。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-Pt5556(2009)、SMNH-Pt4982 (1983)。文献：落合2000(寄居町)、ト沢ほか1990(入間市)、中澤・小川1982(都幾川町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園] イノデモドキに似ているがやや小さく、鱗片のふちがほつれたように切れ込むことはない。また、葉は立ち上がらず低く開出する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○					

1098 オシダ科

埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 EX 1998 EX

全国カテゴリ 2020 NT

【和名】 **イナデンダ**  
【学名】 *Polystichum capillipes* (Baker) Diels

【評価所見】 本県では50年間確認されていない。博物館に標本は収蔵されている (1972年7月10日武信白岩採集)。前回、今回で確認報告はなし。絶滅と判定する。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 亜高山帯の岩の隙間に生育する常緑性のシダである。

【特記事項】 埼玉県は北限で、秩父山地と南アルプスの石灰岩地に限定分布。標本：SMNH-Pt650 (大滝1971)、TNS108346 (大滝1954)。文献：岩田1987(秩父山系)、伊藤1958(秩父多摩国立公園)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1099 オシダ科

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【和名】 **カタイノデ**  
【学名】 *Polystichum makinoi* (Tagawa) Tagawa

【評価所見】 前回調査では4地点から報告があったが、今回調査での報告数は2地点であった。今回確認された1地点は比較的安定した生育地であり、直近での消失の心配は無い。確認報告が少なく情報が不足しているため、危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 スギ植林地内の沢沿いの斜面にまれにみられる。

【特記事項】 国内分布は関東以西。県内に分布する同属の他種とは、葉柄基部の鱗片が黒色～黒褐色であり、葉面が光沢のある緑色となる点で識別できる。イノデ属は雑種を作りやすく、県内にも本種を片親とするとみられる個体が生育しており、同定には注意を要する。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○						



## 1100 オシダ科

(和名) サイゴクイノデ

(学名) *Polystichum pseudomakinoides* Tagawa埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 VU  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は6個体で、前回の30個体から減少した。ただし今回確認された2地点は比較的環境が安定しており、直近での消失の心配は無い。確認地点数が少なく情報が不足しているため、危険要因は不明である。

【県内生育状況】 スギ・ヒノキ植林地内の沢沿いの斜面等でまれにみられる。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt5898(2008)、SMNH-Pt6037.1(1995)。文献:石渡ほか2020(日高市)、石渡2003(坂戸市)、岩田2001(飯能市)、落合2000(寄居町)他。イノデ属は雑種を作りやすく、県内にも本種を片親とするとみられる個体が生育しており、同定には注意を要する。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			

## 1101 オシダ科

(和名) オオキヨズミシダ

(学名) *Polystichum tsus-simense* (Hook.) J.Sm. var. *mayebarae* (Tagawa) Sa.Kurata埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で前回は40個体未満である。3地点から報告があった。個体数、集団数は少ない。また開発圧力が強くシカの食害も見られる。土地造成や自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 林下や石灰岩地などに生育する。県内の生育地は急峻な石灰岩地である。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-Pt5787(2004)、TNS514782(1981)。文献:石渡ほか2020(日高市)、岩田・林2020(東松山市)、落合2000(寄居町)。比企地方でややまれにみられるシダで、地方誌には記録されているが、昨年小川町で再発見された。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐

国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			

## 1102 オシダ科

(和名) ヒメカナワラビ

(学名) *Polystichum tsus-simense* (Hook.) J.Sm. var. *tsus-simense*埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 NT 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

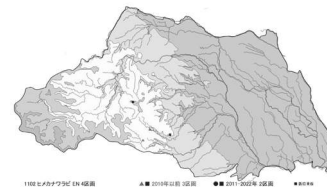
【評価所見】 今回の確認個体数は100未満で前回は320個体未満である。2地点から報告があった。集団数も少なく保護が必要である。森林伐採やシカの食害などが危険要因である。

【県内生育状況】 主にスギの植林地の谷沿い急斜面に生育している。

【特記事項】 国内分布は関東以西。近似種にオオキヨズミシダがあり、変種関係になっている。小羽片に柄があり、鱗片は暗褐色であるのが、ヒメカナワラビで、小羽片は羽軸基部以外は羽軸に流れ、鱗片が明褐色であるのがオオキヨズミシダである。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○					



## 1103 ウラボシ科

(和名) アオネカズラ

(学名) *Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で前回は同様の個体数である。生育地は1地点と限られており、減少傾向が続いている。今のところ岩壁の上部に生育し、園芸採取の危険性はない。生育地の森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の低山地の岩上や樹幹に、青白くて太い根茎を這わせる冬緑性のシダで、夏には葉を落とす。

【特記事項】 国内では本州・四国・九州に分布し、埼玉県は関東の北限に近い。文献:江森1971(奥武蔵~秩父)、華表賢1966(黒山三滝)、高橋1960(天狗滝~黒山)、石田1960(越生町)。県内希少野生動物植物種〔埼玉県希少種野生動物植物の

種の保護に関する条例]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					

**1104 ウラボシ科** 埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

(和名) **ミョウギシダ**  
(学名) *Goniophlebium someyae* (Yatabe) Ebihara 全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】 今回の確認個体数は1,600個体未満で前回は1,000個体未満である。生育地は1地点と限られている。集団数は少なく、道路沿いに生育している。道路工事、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 林内の岩上にやままれに生じる夏緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は本州（関東西部・静岡）、四国に隔離分布。標本：SMNH-Pt6034 (2016)、SMNH-Pt5591 (2009)。文献：皆野町誌編集委員会1984（皆野町）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕近似種にアオネカズラがある。根茎は暗色で、羽片にやや不規則な大きい鋸歯があるので区別は可能である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○						

**1105 ウラボシ科** 埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

(和名) **サジラン**  
(学名) *Loxogramme duclouxii* H.Christ 全国カテゴリー 2020 なし

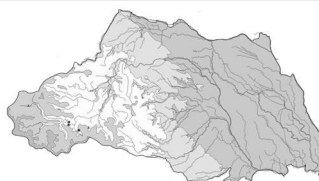
【評価所見】 今回の確認個体数は400個体未満で前回は1,000個体未満であった。奥秩父など生育地が限られている。集団数は前回と同じで個体数は減少傾向にある。産地限定、森林伐採、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 深山の湿り気のある樹上や岩上に着生する常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○						



**1106 ウラボシ科** 埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

(和名) **ヒメサジラン**  
(学名) *Loxogramme grammitoides* (Baker) C.Chr. 全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は10個体未満で前回は30個体未満である。1地点で報告があった。個体数、集団数が少ない。確認報告が少なく、情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 特に湿り気のある溪流沿いの岩場に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-Pt649 (1971)、TNS9508290 (1996)。文献：五十嵐・岩田2005（東大演習林）、岩田1987（秩父山系）、岩田1982（旧秩父市）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕近似種にサジランがあるが、葉身は普通10cmを超えない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

**1107 ウラボシ科** 埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

(和名) **オオクボシダ**  
(学名) *Micropolypodium okuboii* (Yatabe) Hayata 全国カテゴリー 2020 なし

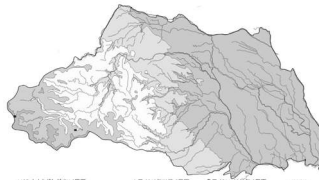
【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で前回は確認されていない。個体数は少ない。蘇苔類の採集と一緒に偶然発見される場合がある。採集記録が少ない。自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の樹幹や岩上にコケと混じって生育している常緑性のシダである。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕近似種のキレハオオクボシダは、羽状に分かれ裂片の上側に切れ込みが2～3個あるが、本種は裂片の葉脈が1本である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							



## 1108 ウラボシ科

(和名) クリハラシ

(学名) *Neolepisorus ensatus* (Thunb.) Ching

埼玉カテゴリ

2024 VU  
2005 EX2011 CR  
1998 EX

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は10,000個体未満で前回は3,300個体未満である。新たに小川町でも群落が確認された。森林伐採、自然遷移、園芸採取、道路工事などが危険要因である。

【県内生育状況】 暖地の湿った岩上や地上に常緑の葉を立ち上げて生育している。

【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○				



## 1109 ウラボシ科

(和名) カラクサシダ

(学名) *Pleurosoriopsis makinoi* (Maxim. ex Makino) Fomin

埼玉カテゴリ

2024 VU  
2005 なし2011 VU  
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

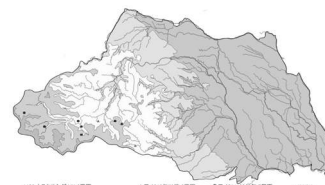
【評価所見】 今回の確認個体数は800個体未満で前回とほぼ同数である。生育地は前回よりやや増加している。森林伐採、道路工事、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 冷涼で湿潤な場所や岩上において、溪流の蘚苔類などと一緒に生育している、冬緑性の小さなシダ植物である。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



## 1110 ウラボシ科

(和名) オシャグジデンド

(学名) *Polypodium fauriei* H.Christ

埼玉カテゴリ

2024 VU  
2005 CR2011 EN  
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

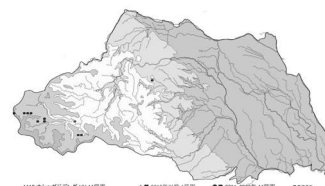
【評価所見】 今回の確認個体数は200個体未満で前回は40個体未満である。生育地は前回より増えている。亜高山・山地の樹木に着生しているが、個体数は少ない。森林伐採、園芸採取、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 深山の樹幹や岩上に着生する冬緑性のシダである。トチノキやブナなどに着生する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園] 乾燥すると中軸がくると丸くなる性質があり、近縁種のエゾデンドと見分けがつく。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○		○				



## 1111 ウラボシ科

(和名) エゾデンド

(学名) *Polypodium sibiricum* Sipliv.

埼玉カテゴリ

2024 CR  
2005 なし2011 なし  
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満である。1地点で報告があった。直接シカの食害はないが、周辺植物の食害による乾燥化や自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 岩上や樹上につく常緑性のシダで、冷涼な場所に生育している。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：1958年 (KPM-NA0005268, 0007037)。文献：原1970 (大滝村)、伊藤1958 (秩父多摩国立公園)。本県では長らく確実な記録を欠いていたが、2022年に藤井良造により再発見された。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1112 ウラボシ科

(和名) **イワオモダカ**

(学名) *Pyrrosia hastata* (Houtt.) Ching

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

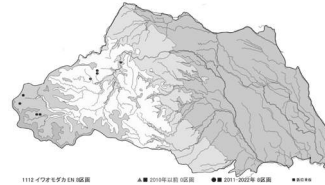
【評価所見】 今回の確認個体数は100個体未満で前回は確認されていない。生育地も少なく保護が必要である。産地極限、園芸採取、自然遷移などが危険要因である。

【県内生育状況】 樹上や岩上、石垣などに着生する常緑性のシダである。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園] 野生動物植物保護地区野生動物植物 [秩父市田中山県自然環境保全地域]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○		○				



1113 ウラボシ科

(和名) **キレハオオクボシダ**

(学名) *Tomophyllum sakaguchianum* (Koidz.) Parris

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】 今回の確認個体数は30個体未満で前回は40個体未満である。1地点で報告があった。個体数、集団数も少ない。新たな生育地が見つからない限り絶滅の危険性が高い。自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 渓谷の岩壁に蘇苔類とともに生育している。

【特記事項】 国内分布は本州 (秩父山地・山梨・長野)、紀伊半島、九州に隔離分布。標本: SMNH-Pt996.09 (1993)、SMNH-Pt5594 (1955)。文献: 岩田・林2020 (大血川)、卜沢1999 (秩父山系)、岩田1987 (秩父山系)。国内希少野生動物植物種 [種の保存法] 県内希少野生動物植物種 [埼玉県希少種野生動物植物の種の保護に関する条例]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

1114 マツ科

(和名) **イラモミ (マツハダ)**

(学名) *Picea alcoquiana* (Veitch ex Lindl.) Carrière

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

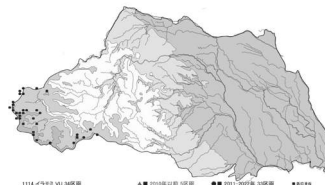
【評価所見】 前回の個体数は100前後、今回は400未満となった。亜高山帯下部から山地帯上部にかけて、少数の集団が散在している。森林の構成種としてはかなり少ない種である。シカによる樹皮剥ぎがみられるが、今のところごく少ない。しかし原因のはっきりしない倒木もある。自然遷移が最も大きな危険要因である。

【県内生育状況】 1から10数本の集団で、林冠木となって生育している場合が多い。

【特記事項】 国内分布は本州 (福島南部から岐阜東部)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
◎	○							



1115 マツ科

(和名) **ヒメバラモミ**

(学名) *Picea maximowiczii* Regel ex Carrière

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 生育地は長野と埼玉両県にまたがっているが、今回の調査で県内3地点で個体数30未満の生育が確認された。個体数はごく少ないながら、球果生産も確認できた。しかし生育地が非常に狭く、個体数が少ないことは大きな危険要因である。

【県内生育状況】 土壌の浅い岩の露出した尾根上に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州中部 (秩父山地、八ヶ岳、南アルプス) に限定的。標本: SMNH-Gy210 (1967)、SMNH-Gy211 (1973)、SMNH-Gy212 (1986)。長野県・埼玉県境における本種の分布については勝木 (2012) で報告されている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								



**1116 マツ科**  
 (和名) **ハリモミ**  
 (学名) *Picea polita* (Siebold et Zucc.) Carrière

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
 2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】亜高山帯下部から山地まで、少数個体の林冠木の集団が点在するが、イラモミより報告地点数がかなり少ない。シカの樹皮剥ぎは目立たない程度である。一方で稚樹が育っている所があまりなく、産地極限は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】温帯性の針葉樹で、少数個体からなる集団が点在する。

【特記事項】国内分布は福島県以南で限定的。標本：SMNH-Gy214 (1975)、SMNH-Gy216 (1983)。生育地のかなりの部分が国立公園である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎							

**1117 マツ科**  
 (和名) **チョウセンゴヨウ**  
 (学名) *Pinus koraiensis* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
 2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回の個体数は300前後、今回は200前後であった。亜高山帯に林冠木となった大木が疎らに散在する。ほとんどが単木であり、露岩の周囲に10本以上まとまっている場合もあるが、このような所はごく少ない。自然遷移、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】単木または少数の集団で散在している。

【特記事項】国内分布は奈良県・中部以北。世代交代に十分な光が必要なため、尾根などの光のあたる所に時々稚樹がみられる。岩塊地には稚樹が多くみられるが、ある程度高くなると繁殖する前に枯死してしまう。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

**1118 マツ科**  
 (和名) **ハイマツ**  
 (学名) *Pinus pumila* (Pall.) Regel

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
 2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】生育地は1集団1地点だけであり、本来生育する標高よりも300m以上低い場所であり氷期の遺存分布と考えられる。個体数は前回140、今回70であった。球果をつけ結実しているが、新しい稚樹は見当たらない。自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】大岩が乱雑に積み重なった岩塊斜面という特殊な環境に生育する。

【特記事項】標本：岩田標本72673 (2004)。文献：岩田・林2020 (破不山(破風山))、岩田2005 (秩父山地)、岩田1987 (秩父山系)、清水・鈴木1985 (大滝村)。埼玉県内には高山帯にあたる場所がないが、高木が育たない岩塊斜面があったことと現在まで生き残ったと考えられる。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

**1119 ヒノキ科**  
 (和名) **ミヤマビャクシン**  
 (学名) *Juniperus chinensis* L. var. *sargentii* A.Henry

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
 2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回の個体数は200前後であった。今回の調査は1集団1地点が確認され個体数は50未満である。生育している岩は安定していて、崩壊、樹木の生長による被圧の可能性は、短期的にはないと考えてよい。森林伐採は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】岩場に生育する低木で、埼玉県では石灰岩に限られている。

【特記事項】標本：仮標本(平1998)。文献：岩田・林2020 (秩父市大滝)、五十嵐・岩田2005 (東大演習林)、岩田2005 (秩父山地) 他。真柏の名で盆栽用の採取圧が古くから非常に高く、百年前(遅くとも明治45年)には既に採り尽くされた場所があったという(木暮、1916年)。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

1120 ヒノキ科

(和名) **ネズミサシ** (ネズ)

(学名) *Juniperus rigida* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリー 2020 なし

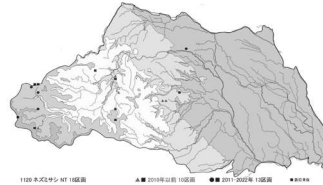
【評価所見】 前回は10地点個体数は200前後、今回は13地点150前後であった。山地から低地まで、生育地は少ないが広い範囲に複数箇所報告があり、少数の集団が山地に散在している。低山、丘陵地では過去に記録があるが、消滅したところが多い。一方で標高の高い所は安定して生育している。自然遷移、森林伐採が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 尾根・岩場を中心に広い標高にわたって小さい集団を作るか、または単木で生育している。

【特記事項】 露岩地があれば、そのまわりに小さい集団がみられることがある。これは稚樹が育つ環境を反映していると考えられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎	○			○			○



1121 ジュンサイ科

(和名) **ジュンサイ**

(学名) *Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 EX 1998 EX

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 本種は過去からすでにEXと評価されており、今回の調査でも報告はなかった。本県では開発や富栄養化・水質汚濁等による生育環境の悪化により、おそらく1970年代には絶滅したものと考えられる。本種のような水草では富栄養化等の生育環境の変化による個体数の急激な減少を招きやすく、潜在的な絶滅リスクが元々高い。

【県内生育状況】 本種はやや貧栄養で酸性の水質、かつ比較的低い水温の池沼に生育する種であり、そのような立地環境に生育していたと考えられる。本県には比企郡を中心に数多くのため池が現存するものの、生育できる環境はすでにほぼ

なくなっているのが現状である。

【特記事項】 証拠標本は残されておらず、文献記録のみである。文献:加須市環境安全部2016(加須市)、太田2000(幸手市)、長瀬町教育委員会1997(長瀬町)、桶川市1987他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1122 スイレン科

(和名) **オニバス**

(学名) *Euryale ferox* Salisb.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 生育個体数は年変動があり、前回改訂時は約1,600個体が確認されたが、今回は約300個体であった。生育地は天然記念物に指定され、生育地周辺の休耕田も含めて保全されているものの、生活史が一年草であるため、その年の気象条件等の生育環境の変化の影響を受けやすい。現存が1地点のみと極めて局限しているため、絶滅リスクが高いことは前回改訂時から変わらない。県内の他の記録地は開発等によって消滅した。

【県内生育状況】 本種は池沼や水路などの比較的浅い止水～緩水域に生育するが、生育地では池の区画だけでなく、周辺の休耕田内にも生育している。生育地はかつて越中沼があった付近に位置し、沼自体は1950年代に干拓されたが、周辺

の水路改修等に伴い1980年代に埋土種子から再生した個体群が維持されている。

【特記事項】 標本: SMNH-As50832 (1996)。文献: 三上・石川2020(加須市)、加須市環境安全部2016(加須市)、荒川の自然を守る会2011(上尾市)、太田2000(幸手市)他。県内の公園等のビオトープで栽培されている例もあり、自生の判断には注意を要する。県内希少野生動物植物種〔埼玉県希少種野生動物植物の種の保護に関する条例〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
								○

1123 スイレン科

(和名) **コウホネ**

(学名) *Nuphar japonica* DC.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

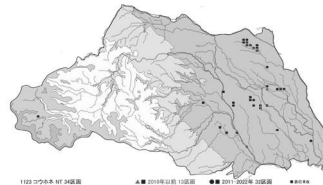
【評価所見】 前回改訂時の報告は14地点、今回は32地点で生育が確認され、生育個体数はともに約36,000個体であった。産地数は調査精度の向上によって増加したものの、一部では過去から減少傾向にあり、同じ水路や河川の別地点が25地点あるため、同一水系の生育環境の悪化で急激に減少する懸念がある。危険要因として、主に河川改修、園芸採取、水質汚濁、自然遷移が挙げられる。また、池沼開発の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】 比較的水深の浅い河川や水路、池沼に生育する。本種は抽水植物であるが、水深が深いと浮葉形となる。また、流水下ではほぼ沈水葉のみとなり、開花個体も少なくなる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○					○	◎	○



1124 スイレン科  
 (和名) ヒツジグサ  
 (学名) *Nymphaea tetragona* Georgi

埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
 2005 DD 1998 DD

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】本種は前回改訂時からEXとされた。1998年版の時点で生育確認はなく、本県では絶滅したものと考えられる。富栄養化・農業汚染・開発等によって、おそらく1970年代にはすでに絶滅していたものと考えられる。  
 【県内生育状況】本種は貧栄養でやや酸性の水質、かつ比較的低い水温の池沼に生育する種であり、そのような立地環境に生育していたと考えられる。本県には比企郡を中心に数多くのため池が現存するものの、生育できる環境はほぼなくなっているのが現状である。  
 【特記事項】文献記録のみで証拠標本は残されていない。本種の花は白色で径5cm程度、花弁は8-15枚であるのに対し、栽培品種のスイレンの花は大きく色は多様で、花弁も数多い。  
 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1125 マツブサ科  
 (和名) チョウセンゴミシ  
 (学名) *Schisandra chinensis* (Turcz.) Baill.

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
 2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回は確認できなかったが、今回確認された二次メッシュは1区画、地点数は1、個体数は100未満だった。同一地点で複数年調査を行ったが、二回目以降の調査では確認できなかった。本種の生育地はシカ食害が激しいため減少していると考えられる。近い将来絶滅する可能性がある。危険要因としてシカ食害が懸念される。  
 【県内生育状況】林床や林縁に生育する。  
 【特記事項】標本：SMNH-As52069 (1997)、SMNH-As8532 (1987)。文献：岩田2005 (秩父山地)、岩田2000 (両神村)、卜沢1999 (秩父山地) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]  
 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

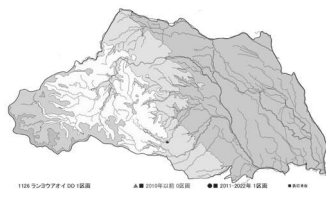
1126 ウマノズクサ科  
 (和名) ランヨウアオイ  
 (学名) *Asarum blumei* Duch.

埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 なし  
 2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】報告はわずか1地点のみ、生育個体数は70個体前後で極めて限定的である。自生であるならば、ランヨウアオイの分布としては新産の北限分布になる。しかしながら、東京都の既知産地からはかなり離れており、本来の自生とみなせるか疑問が残る。本県の産地は極めて局限しており、突発的な生育環境悪化等や園芸採取による潜在的な絶滅リスクは高い。危険要因として、主に森林伐採が挙げられる。  
 【県内生育状況】北向きの谷部において、スギが混じる落葉広葉樹林の湿り気のある林床に生育する。  
 【特記事項】類似種のカンアオイ、タマノカンアオイと異なり、本種の萼片は三角状卵形で萼全体が無毛である。葉基部の両側片がやや耳状に張り出すこと、葉表面に光沢があること、葉裏面は無毛であることでも両者から区別できる。ランヨウアオイは東京都の浅川以北に分布は知られておらず (小泉, 2017)、今回の報告が自生とみなせるかは今後精査する必要がある。自生とすれば埼玉が北限。  
 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



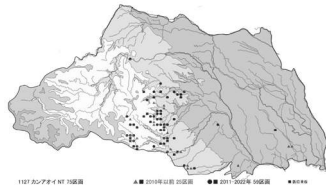
1127 ウマノズクサ科  
 (和名) カンアオイ  
 (学名) *Asarum nipponicum* F.Maek. var. *nipponicum*

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
 2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回改訂時の報告25地点に対し、今回は59地点で確認され、調査精度の向上によって産地が増したが、生育個体数は前回の約4,000個体に対し、今回は約4,200個体で微増程度であった。現在のところ絶滅の懸念はほとんどないものの、施業地の生育地では伐期を迎えつつある場所もあり、今後の減少の懸念がある。また、本種はシカの嗜好性植物で直接の食害は懸念されないが、シカ食害による林床の希薄化や踏みつけ、土壌浸食の進行等によって、生育状況が悪化することも懸念される。危険要因として、主に森林伐採、園芸採取、自然遷移、踏み付けが挙げられる。  
 【県内生育状況】丘陵を中心に山地帯下部の落葉広葉樹林、スギ植林、常緑広葉樹林の林床に生育する。生育立地は尾根沿いから沢沿いまで幅広く、適湿でありながら水はけのよい場所に多い。  
 【特記事項】フォッサマグナ地域 (埼玉・東京・千葉・神奈川) 及び中部地方の太平洋岸に分布。埼玉県は北限、ただし栃木・茨城にも隔離分布の報告がある (小泉, 2017)。法令指定状況: 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]  
 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○	○	○	○	





1128 ウマノスズクサ科

〔和名〕 **ウスバサイシン** (サイシン)

〔学名〕 *Asarum sieboldii* Miq.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

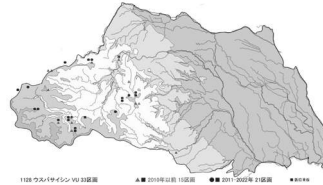
【評価所見】 前回改訂時の報告15地点に対し、今回は20地点で確認されたが、生育個体数は前回の約1,500個体に対し、今回は1,000個体未満であった。調査精度の向上によって新たに確認された産地があるが、前回改訂時より生育状況はやや悪化していると判断される。本種はシカの不嗜好性植物で直接の被害は懸念されないが、シカ被害による林床の希薄化や土壌浸食が進行しており、間接的な影響による生育環境の悪化が懸念される。危険要因として、主に自然遷移、森林伐採、シカ被害、園芸採取が挙げられる。

【県内生育状況】 主に山地帯の落葉広葉樹自然林にみられ、湿り気のある林床に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東・北陸以西。法令指定状況：特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。本種から分離されたトウゴクサイシンは、萼筒内側は中部付近が白色～淡色(本種では内側全体が濃紫色)、萼筒の縦隆起が浅く、萼片が斜上するもので (Yamaji et al. 2007)、本県に分布する可能性があり今後の精査が必要である。フタバアオイの萼片は反り返り、葉の縁に短毛が目立つ。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎	○	○	○				



1129 ウマノスズクサ科

〔和名〕 **タマノカンアオイ**

〔学名〕 *Asarum tamaense* Makino

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 前回改訂時の報告は1地点で約200個体であったが、今回の調査では2地点で生育個体数は約400個体が確認された。産地は増加したものの、1地点では生育個体数が10個体未満と消滅寸前である。生育地はいずれも林床のアズマネザサによる被陰が懸念されるほか、都市孤立林の1地点では盗掘の懸念が大きいことに加え、生育環境が保たれても樹林面積が狭く個体群の拡大に限りがある。危険要因として、主に園芸採取、自然遷移が挙げられる。また、森林伐採、道路工事、踏み付けの懸念も挙げられる。

【県内生育状況】 丘陵や台地の落葉広葉樹林の湿り気のある林床に生育するが、産地はごく限られている。

【特記事項】 フォッサマグナ地域 (関東南西部多摩丘陵周辺) の植物で、埼玉県は北限。標本：TNS859666 (1952)。文献：桧山1965 (武蔵野 (広域)) ※県内に生育していた記録かは不詳。県内希少野生動物種 [埼玉県希少種野生動物種の種の保護に関する条例]。類似種のカンアオイの萼片は三角状であるが、本種の萼片は卵形に近く縁が波打つ。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○	○		

1130 モクレン科

〔和名〕 **オオヤマレンゲ**

〔学名〕 *Magnolia sieboldii* K.Koch subsp. *japonica* K.Ueda

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では前回調査と同様1地点で確認されたのみであり、個体数も前回調査と同様50個体未満であった。花が大きく目立つため園芸採取の危険はあるが、自生地が深山の限られた場所であるため採取圧は比較的低いと考えられる。森林伐採や生育環境の変化等が危険要因として考えられる。

【県内生育状況】

【特記事項】 国内分布は関東・北陸以西。標本：岩田標本69474 (2003)。文献：矢島2006 (両神村)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								



1131 クスノキ科

〔和名〕カゴノキ

〔学名〕*Litsea coreana* H.Lév.

埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

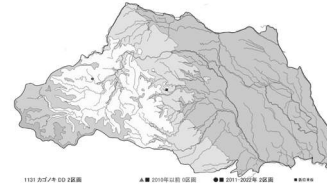
【評価所見】報告は2地点のみで、生育個体数はそれぞれ10個体未満と、産地・個体数ともにごく少ない。アカガシ（EN）やツクバナガシ（VU）より明らかに少ないものの、本県の分布は以前から知られており、暖温帯の常緑広葉樹林が残る地域などにさらに産地があると考えられる。一方、幼樹ではタブノキと混同しやすく、本種について認識が充分なされていないとは言い難いことから今後も継続して確認が必要。

【県内生育状況】丘陵地において常緑広葉樹が多く混生する落葉広葉樹林に生育するが、確認個体はほとんど幼樹である。1地点は成木が確認されたが、開花しておらず、上方の枝が枯死するなど以前に比べ生育状況は悪化している。

【特記事項】国内分布は東南北部以南。標本：仮標本（高野1993）。文献：越生町2008（越生町）、日高町史編集委員会・日高町教育委員会1991（日高町）、松山1964（飯能市）。成木は樹皮が鹿の子模様となる。葉はタブノキに似るが、質が薄く、葉先は長く伸び、裏面が灰白色、冬芽も異なる。県内分布の報告は原口（2008）がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				



1132 サトイモ科

〔和名〕ミクニテンナンショウ

〔学名〕*Arisaema planilaminum* J.Murata

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】今回報告は10地点生育個体数は約200個体程度ある。シカの嗜好性植物であるが、まれに花が食害される上、生育地のシカ食害の進行で林床の希薄化や土壌浸食が生じている。生育環境の悪化を受け雌株が減少すると、種子が残せず個体群が次第に縮小・消滅してしまうことが危惧される。危険要因として、主に産地局限が挙げられる。

【県内生育状況】やや明るい落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。産地は限定的で、本県では石灰岩地に多い。本種は雌雄偽異株で、栄養状態の良い個体が雄株から雌株に性転換する。

【特記事項】国内分布は関東周辺（関東山地・茨城・愛知）。標本：TI（1976, J.Murata4236：二子山）、TI（1934, K.Hisauchi541：武甲山）、TI（1968, M.Togashi：両神山）など。和名は新種記載時の産地が群馬・埼玉・長野の三県であったことに因む（邑田, 1978）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



1133 サトイモ科

〔和名〕マイヅルテンナンショウ

〔学名〕*Arisaema heterophyllum* Blume

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】今回約700個体の生育個体数が確認されたが、報告は5地点と産地が限られている。前回改訂時は報告2地点で約200個体であったが、調査精度の向上により確認地点が増加した。本種の主な生育地である河川氾濫原の湿性草地は、冠水等の自然攪乱や人為管理の頻度低下によって遷移が進行しやすく、短期間でも生育状況が悪化する恐れがある。生育環境の悪化で両性株が減少すると、種子が残せず個体群が次第に縮小・消滅してしまうことも危惧される。危険要因として、主に森林伐採、自然遷移、河川敷開発、帰化競合が挙げられる。また、道路工事の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】渡良瀬川河川敷・渡良瀬遊水地を中心に、丘陵地の疎林にもみられるが、産地はごく限定的である。本種は雌雄偽異株で、栄養状態の良い個体が雄株から両性株に性転換する。

【特記事項】国内分布は本州（岩手から岡山）、九州に点在。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				○



1134 サトイモ科

〔和名〕 ユモトマムシグサ

〔学名〕 *Arisaema nikoense* Nakai subsp. *nikoense*

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

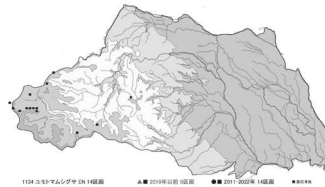
【評価所見】 報告14地点の生育個体数は50個体未満とごくわずかであった。シカの不嗜好性植物であるが、まれに花が食害される上、生育地のシカ食害の進行で林床の希薄化や土壌浸食が生じている。生育環境の悪化を受け雌株が減少すると、種子が残せず個体群が次第に縮小・消滅してしまうことが危惧される。危険要因として、主にシカ食害および産地局限が挙げられる。

【県内生育状況】 山地帯上部～亜高山帯下部の溪畔や尾根沿いにみられ、落葉広葉樹林の湿り気の保たれた林床に生育するが、産地は限定的で、かつ産地ごとの生育個体数はごく少ない。本種は雌雄偽異株で、栄養状態の良い個体が雄株から雌株に性転換する。

【特記事項】 国内分布は東北南部から中部地方。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
◎	◎							



1135 サトイモ科

〔和名〕 ウラシマソウ

〔学名〕 *Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H.Hara) H.Ohashi et J.Murata

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

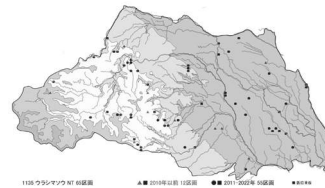
【評価所見】 前回改訂時は11地点で約600個体の報告があったが、今回は調査精度の向上によって報告は55地点と増加し、生育個体数は約1,200個体が確認された。現時点での絶滅の懸念はほとんどないが、新たに確認された産地も含め、一部の生育地では生育環境の悪化や採取によって過去から減少していると考えられる。植林地では、伐採時の損傷のほか、伐採後の光環境の変化や先駆低木等との競合によって減少する恐れがある。存続を脅かす要因として、主に森林伐採、自然遷移、園芸採取、踏み付け、土地造成が挙げられる。

【県内生育状況】 主に丘陵・台地の落葉広葉樹林やスギ植林のやや明るい林道沿い・林縁だけでなく、やや暗い林床にもみられ、湿り気の保たれた立地に生育する。球茎に子球ができるため、しばしば群生する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○	◎	○	○	○	○	○



1136 サトイモ科

〔和名〕 ヒンジモ

〔学名〕 *Lemna trisulca* L.

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 DD 1998 DD

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 1962年版植物誌以降の記録はないことから、前回改訂時にEXと評価された。本県では開発やそれに伴う湧水の減少・枯渇、富栄養化によって、おそらく1970年代にはすでに絶滅していたものと考えられる。

【県内生育状況】 本種は湧水で涵養された池沼や小河川、沢の源流に生育する種であり、そのような立地環境に生育していたと考えられる。本種が生育できる環境は、本県においてはすでにほぼなくなっているのが現状である。

【特記事項】 国内分布は中部以北・愛媛・宮崎の湧水で限定的。文献記録のみで標本は残されていない。文献：松山1965（武蔵野（広域）※県内に生育していた記録かは不詳）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

**1137 サトイモ科**  
 (和名) **ヒメザゼンソウ**  
 (学名) *Symplocarpus nipponicus* Makino

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
 2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回改訂時は3地点で約23,000個体の報告があったが、今回の報告は1地点のみと生育地点数が減少した。現存する生育個体数は約3,000個体と多く、生育状況は良好であるものの、本県における産地は極めて局限しているため、突発的な生育環境の悪化等による潜在的な絶滅リスクは高い。危険要因として、産地局限が挙げられる。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の北西向き斜面の林床から林縁付近にかけ、湿り気の保たれた立地に生育する。果実は開花翌年の夏頃に熟するため(大塚, 2002)、種子繁殖には結実個体の生育が安定的に保たれる必要がある。

【特記事項】 標本: 仮標本(田中溢1995)。文献: 高橋1989(狭山丘陵)、入間市史編さん室1984(入間市)、東京薬科大学植物研究部1977(狭山丘陵※県内に生育していた記録かは不詳)他。生育地一帯では、保全団体によって里山保全のための保全管理が行われている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			

**1138 サトイモ科**  
 (和名) **ザゼンソウ**  
 (学名) *Symplocarpus renifolius* Schott ex Tzvelev

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
 2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 生育個体数は前回の約900個体から、今回は約400個体に減少している。各地点は孤立している上に生育面積がごく狭いため、生育環境の悪化等による潜在的な絶滅リスクが高い。シカの嗜好性植物であるため食害の懸念は少ないが、シカの踏み荒らし等による悪影響が懸念される。一部の生育地では盗掘も確認されている。危険要因として、主に森林伐採が挙げられる。また、自然遷移の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】 生育地の多くは保護されており、スギ植林地の沢沿いや北向き斜面の落葉広葉樹林など、安定したやや薄暗い湿り気の多い林床に生育する。本種は自家不和合性が知られるため(Uematsu et al., 1993)、個体群が縮小すると種子繁殖が阻害される恐れがある。

【特記事項】 標本: SMNH-As22417(1980)、SMNH-As20293(1971)、岩田標本60534(2000)。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]。秩父市指定天然記念物[座禅草] 荒川日野地内)、横瀬町指定天然記念物[ザゼンソウ自生地](芦ヶ久保地内)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○					

**1139 チシマゼキショウ科**  
 (和名) **チャボゼキショウ (ハコネハナゼキショウ)**  
 (学名) *Tofieldia coccinea* Richards, var. *gracilis* (Franch. et Sav.) T.Shimizu

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
 2005 EN 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 秩父山地の石灰岩地に生育し、個体数が前回調査の10,000個体以上から今回は約2,000個体と大幅に減少した。個体数減少の原因には調査の精度も関係していると思われるが、石灰岩の採掘が行われている自生地での個体数減少が影響していると考えられる。

【県内生育状況】 石灰岩の岩上に根を張って生育する。

【特記事項】 国内分布は本州から九州(大分)の石灰岩地で限定的。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎	○						

1140 オモダカ科

(和名) **ヘラオモダカ**

(学名) *Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché var. *canaliculatum*

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

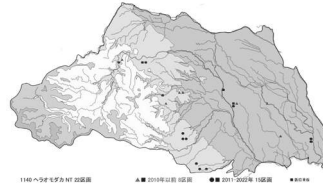
【評価所見】 生育個体数は前回とほぼ同様の約300個体、生育地点数は16地点と前回改訂時の6地点から調査精度の向上によって増加したが、新産地においても遷移進行等で過去から減少傾向にあったと考えられる。1地点はその後の開発事業によって消滅した。生育地のうち、谷戸では耕作放棄が進んでおり、今後の急激な減少・消滅も懸念される。危険要因として、主に自然遷移、湿地開発、管理放棄、農業汚染の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】 湿地や休耕田、水田脇の小水路に生育するが、農薬の影響を受けにくく、沢水や湧水により比較的貧栄養の水質で涵養される場所に限定され、立地は谷戸が多い。

【特記事項】 本種と混同され、外来種のナガバオモダカが公園等で植栽される例があり注意を要する。サジオモダカは葉がスプーン状である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	◎		○	○



1141 オモダカ科

(和名) **サジオモダカ**

(学名) *Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Sam.

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 EN  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

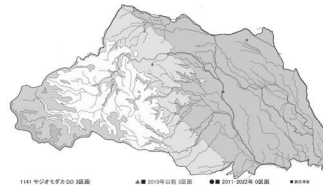
【評価所見】 過去の記録の再検討によって当時の報告は証拠標本を欠き、ヘラオモダカの誤認の可能性が高いと判断した。今回の調査でも生育が確認がされておらず、過去の判定根拠も不確かである。富栄養化・農薬汚染・開発等によって、過去の記録地では消滅した可能性が高い。

【県内生育状況】 本種は主に池沼・谷戸の湿地や浅水に生育する種であるが、比企郡を中心に現存する数多くのため池においては、護岸工事等の改修によって、本種の生育適地となる池畔の湿地環境はすでにほぼ失われている。

【特記事項】 国内分布は四国・中部以北。1925年・1955年・1956年の国立科学博物館の収蔵標本がある (TNS-VS-1060411,117707,155772,127567)。文献：荒川の自然を守る会2011 (上尾市)、岩田2001 (飯能市)、太田2000 (幸手市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1142 オモダカ科

(和名) **マルバオモダカ**

(学名) *Caldesia parnassifolia* (Bassi, ex L.) Parl.

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 本種は1962年版植物誌では記録がなく、1998年版植物誌に掲載され、比企郡・南埼玉郡の2郡市の過去の記録をもとに1998年版レッドデータブックでも評価されたが、その後前回改訂時にEXとされた。1998年版のレッドデータブックの時点で文献記録があるのみとなっており、県内での生育は確認されていなかったため、本県では少なくとも1998年以前に開発等ですでに絶滅していたと考えられる。

【県内生育状況】 本種は比較的貧栄養でやや酸性の水質の湖沼やため池の畔の浅水に生育する種であり、そのような立地環境に生育していたと考えられる。本県には比企郡を中心に数多くのため池が現存するが、本種の生育適地となる池畔の

環境はすでにほぼ失われている。

【特記事項】 証拠標本はなく文献記録のみである。文献：日高町史編集委員会・日高町教育委員会1991 (日高町)、松山1965 (武蔵野 (広域)) ※県内に生育していた記録かは不詳。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1143 オモダカ科

〔和名〕アギナシ

〔学名〕*Sagittaria aginashi* Makino

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR  
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】前回改訂時は報告がなく、今回は調査精度の向上によって6地点で確認されたが、これらの新産地においても過去から生育していたとみなされる。生育個体数は1,000個体未満と限定的で、生育環境が限定されるうえ、生育地の多くは人為管理が継続しないと遷移が進行しやすい場所であり、短期間でも生育状況が悪化する恐れがある。危険要因として、主に自然遷移、農薬汚染、湿地開発、埋め立て、管理放棄が挙げられる。

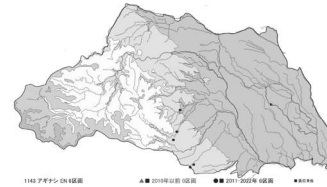
【県内生育状況】沼畔の湿地、谷戸の湿地・休耕田や水田脇に生育する。類似種のおもダカは水田・休耕田に広く生育するが、本種は沢水や湧水により比較的貧栄養の水質で涵養される場所に限定され、低地には分布しない。

【特記事項】おもダカと異なり本種の葉先は尖らず丸みを帯

び、側裂片より上裂片が長く、夏以降に葉柄基部内側にむかごが多数できる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					◎	○	○	



1144 オモダカ科

〔和名〕ウリカワ

〔学名〕*Sagittaria pygmaea* Miq.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回改訂時の報告は5地点で約1,300個体であったが、今回の調査では39地点で約4,700個体が確認された。調査精度の向上によって産地が増加したが、これらの新産地においても過去から生育していたと思われる。現在のところ絶滅が危惧される状況ではないものの、一部の生育地では開発や管理放棄、農薬散布により過去から減少傾向にあると考えられる。生育地は人為管理の停滞や管理方法の変更の影響を受けやすく、生育状況が元々不安定である。危険要因として、主に農薬汚染、管理放棄、自然遷移、湿地開発、埋め立てが挙げられる。

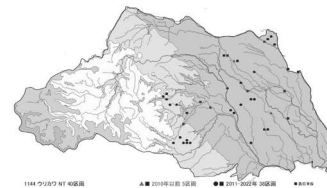
【県内生育状況】低地から丘陵地・台地に向け、水田・休耕田や水田脇の小水路内に生育するが、冬季も水深や底土の湿り気が保たれる場所に限られている。低地では乾田にも生育するが、水域に近い場所や沼の干拓地等、地下水位が高く保

たれる立地となっている。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	◎	○



1145 トチカガミ科

〔和名〕スブタ

〔学名〕*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】1973年の文献記録以降、約50年間にわたって生育確認はなく、本県ではすでに絶滅したものと考えられる。農薬汚染・圃場整備やそれに伴う営農方法の変化等によって、県内では1970年代にはすでに絶滅していたと考えられる。

【県内生育状況】かつては県内の低地の水田内や周辺の小水路、池沼に生育していたと考えられる。本種は埋土種子からの発芽事例も極めてまれであり、県内で今後再発見される可

能性も低い。

【特記事項】文献：岩槻市2005（岩槻市）、武蔵植物友の会1973（入間市）、岩田1972（東松山市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1146 トチカガミ科

〔和名〕ヤナギスブタ

〔学名〕*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EX  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】さいたま市岩槻区において1989～1992年に確認された生育地は自然遷移のため消滅し、以降生育が確認されなかったことから、前回改訂時にEXとされたが、今回の調査で新たな生育地が再発見されたことを受け、カテゴリ変更となった。現存はわずか1地点のみであり、生育個体数は70個体程度で生育面積もごく狭く、極めて危機的な状況である。県内では、農薬汚染・圃場整備やそれに伴う営農方法の変化等によって、1970年代にはほとんどの生育地が消滅したと考えられる。危険要因として、産地局限が挙げられる。

【県内生育状況】低地の水田内の区画縁辺付近の浅水中に生

育している。

【特記事項】標本:MAK197822 (1890)、MAK226798 (1931)、TI (1949, 原寛) など。文献：岩槻市2005（岩槻市）、埼玉県1993（岩槻市）、戸田市立教育研究所1982（戸田市）他。長島永幸によって再発見された。保全団体によって生育地のモニタリングが行われている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

維管束植物

蘇苔類

藻類

地衣類

菌類

菌類

菌類

## 1147 トチカガミ科

(和名) クロモ

(学名) *Hydrilla verticillata* (L.f.) Royle埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 EN  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

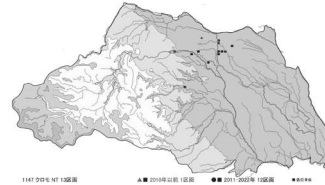
【評価所見】前回改訂時の報告は1地点のみで約500個体であったが、今回の調査では調査精度の向上により12地点で約3,000個体確認された。これらの新産地においても過去から生育していたと思われる。現在のところ絶滅が懸念される状況ではないが、生育環境の悪化やオオカナダモ等の外来種との競合により一部で減少傾向にある。

【県内生育状況】水田脇の小水路、農業用水路、小河川の止水～緩流水中に生育するが、生育地は冬季も水深や底土の湿り気が保たれるような場所に限定されている。

【特記事項】本種の輪生葉は3～6枚付くが、オオカナダモは通常4枚で節間が狭く、コカナダモは通常3枚で葉は鋸歯が不明瞭でねじれる。黒藻の名の通り、植物体がやや暗い色を呈し、しばしば植物体に藻類が付着しているため、生育していても視認しづらい場合がある。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	○	◎



## 1148 トチカガミ科

(和名) トチカガミ

(学名) *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 NT

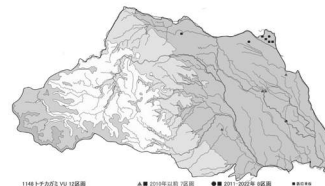
【評価所見】生育個体数は前回改訂時の約6,500個体に対し、今回の調査では約3,600個体と減少したが、生育地点数は前回の6地点に対し今回は7地点が確認され、全体として前回と同等の絶滅リスクで推移していると判断される。生育個体数は多いが、産地が限定的で各地点は孤立している上、生育面積も狭い。本種のような水草では、濁水や農業汚染等の生育環境の変化によって個体数の急激な減少を招きやすく、潜在的な絶滅リスクが元々高い。泥さらいや草取り等、水路の維持管理による減少の懸念もある。危険要因として、主に水質汚濁、農業汚染が挙げられる。また、河川改修の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】流れの緩やかな農業用水路内に生育しているが、生育地は農業等の影響を受けにくく、冬季も水深や底土の湿り気が保たれるような用水路・排水路に限られている。

【特記事項】本種はピオトープ等で利用されることがあるため、植栽・逸出した流通品なのか、自生の判断には注意を要する。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
							○	◎



## 1149 トチカガミ科

(和名) サガミトリゲモ

(学名) *Najas chinensis* N.Z.Wang埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 VU

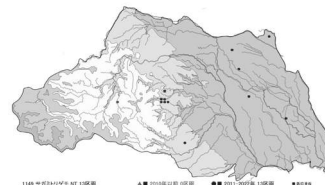
【評価所見】今回報告は15地点で約4,500個体が確認された。しかしながら、直近10年の間に3地点で畑地転換や濁水、農業汚染による減少・消滅が確認され、一部で減少傾向にある。生活史が一年草であることに加え、沈水植物であるため、農業汚染や生育期間中の濁水等、生育する水環境の変化に対して元々脆弱である。危険要因として、主に管理放棄、農業汚染、自然遷移が挙げられる。

【県内生育状況】水田や休耕田、周辺の小水路に生育するが、生育地は農業等の影響を受けにくく、夏以降の結実期にも浅水環境が保たれる場所に限定的である。生育地の多くは谷戸であり、沢水やため池からの引水で涵養された比較的貧栄養の水質が本種の生育に重要と考えられる。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○		○	◎		○	○



1150 トチカガミ科

(和名) イトトリゲモ

(学名) *Najas gracillima* (A. Braun ex Engelm.) Magnus

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 NT

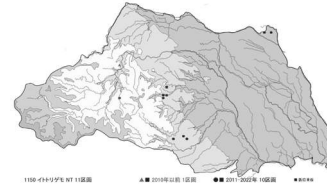
【評価所見】前回改訂時は1地点の報告のみで約500個体であったが、今回は調査精度の向上によって10地点で約2,500個体が確認された。産地はやや限定的である。生活史が一年草であることに加え、沈水植物であるため、農業汚染や生育期間中の濁水等、生育する水環境の変化に対して元々脆弱である。危険要因として、主に農業汚染、管理放棄、自然遷移、湿地開発が挙げられる。また、水質汚濁の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】水田や休耕田、周辺の小水路に生育するが、生育地は農業等の影響を受けにくく、夏以降の結実期にも浅水環境が保たれる場所に限定的である。生育地の多くは谷戸であり、沢水やため池からの引水で涵養された比較的貧栄養の水質が本種の生育に重要と考えられる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○		○	◎			○



1151 トチカガミ科

(和名) ホッスモ

(学名) *Najas graminea* Delile

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 DD  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

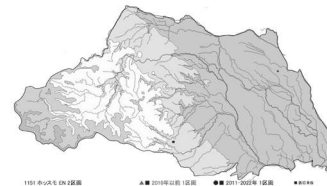
【評価所見】本種は1998年版植物誌の調査で確認され、改訂版でENと評価されたが、以降は生育が確認できず、前版ではDDと評価された。今回確実な産地が確認され、カテゴリが変更された。現存の生育地は1地点のみ、生育個体数は50個体前後と産地・個体数ともに極めて限定的であるが、県内にはまだ他に産地が存在すると考えられる。危険要因として、主に湿地開発、自然遷移が挙げられる。また、管理放棄の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】生育地は谷戸の水田で、農業等の影響がなく、沢水からの引水で比較的貧栄養の水質で涵養され、夏以降の結実期にも浅水環境が保たれる場所となっている。

【特記事項】標本：TI (1948, 船津金松：鳩ヶ谷町)。生育地は保全団体によって管理がされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			



1152 トチカガミ科

(和名) トリゲモ

(学名) *Najas minor* All.

埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 EN  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】確度の高い生育確認は荒川旧河道の自然再生事業で一時的に再生した1地点のみであるが、その標本は残されていない。また、過去の標本の再検討の結果、すべて他種の誤認であることが判明し、本種の県内産の確実な証拠標本はこれまで1点もないことが判明した。

【県内生育状況】荒川旧河道の浅水中に生育していた。自然再生事業地では現在消滅しているが、周辺には埋土種子として保存されている可能性が期待される。本県には比企郡を中心に多くのため池が現存するが、護岸改修・富栄養化・水質汚濁が進んでおり、やや貧栄養の湖沼やため池に生育する本種の生育適地はほとんどないのが現状である。

【特記事項】本種の種子表面には横長の網目模様があることで、四～六角形の網目模様があるサガミトリゲモと区別できる。オオトリゲモとの識別には、本種の雄蕊の葯室が1室であること、葉の表皮細胞の縦方向の長さがより短いことを確認する必要がある (Midorikawa et al., 2020)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地





1153 トチカガミ科

(和名) ミズオオバコ

(学名) *Ottelia alismoides* (L.) Pers.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 VU

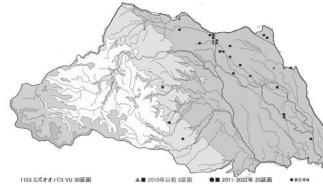
【評価所見】今回、調査精度の向上により報告は25地点約3,000個体と前回改訂時の8地点約2,000個体より増加したが、生育地である水田周辺における危険性の要因は改善されているわけではない。今回の新産地においても過去から減少傾向にあったとみなされ、絶滅リスクは前回と同程度で推移していると考えられる。生活史が一年草であり、沈水状態で生育する水草であることから、生育状況が元々不安定である上、生育環境の変化に対し脆弱である。危険要因として、主に農薬汚染、管理放棄、河川改修、土地造成、埋め立てが挙げられる。

【県内生育状況】産地は農薬の影響を受けにくい水田や休耕田、その周辺の水路に限定される。種子は水流や鳥類等に付着し散布されるため、農業用水路では一度出現しても、流水で種子が流れ、翌年には同じ場所で確認できなくなる例が多い。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	○		○	◎



1154 トチカガミ科

(和名) コウガイモ

(学名) *Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

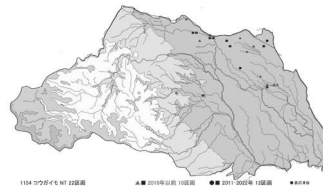
【評価所見】前回改訂時は11地点で約52,000個体が報告され、今回の調査では12地点で約20,000個体が確認された。この他に、本種かセキショウモか不確定の未報告記録もある。各生育地の生育面積は比較的広く、現在のところ絶滅が危惧される状況ではないが、草取りの対象とされたり、改修工事の影響等により一部で減少傾向にある。危険要因として、主に河川改修、農薬汚染、水質汚濁、自然遷移が挙げられる。

【県内生育状況】農業用水路や小河川の緩流水中に生育するが、生育地は冬季も水深や底土の湿り気が保たれるような場所に限られている。

【特記事項】遠目では類似種のセキショウモとの識別が困難で、葉縁の鋸歯が葉先以外にもあること、走出枝がざらつくことを手にとって確認する必要がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	○	◎



1155 トチカガミ科

(和名) セキショウモ

(学名) *Vallisneria natans* (Lour.) H.Hara var. *natans*

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

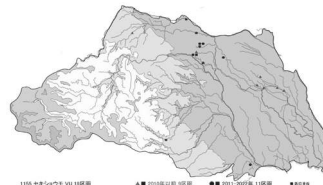
【評価所見】前回改訂時の生育地点数は6地点であったが、今回の調査では調査精度の向上によって11地点で確認された。これらの新産地においても過去から生育していたと思われるが、生育個体数は前回が約6,600個体であったのに対し、今回は約5,200個体であり、この間やや減少していると考えられる。類似種のコウガイモ (NT) に比べ、生育環境がより限定的である。危険要因として、主に河川改修、水質汚濁、農薬汚染、管理放棄、自然遷移が挙げられる。

【県内生育状況】農業用水路や小河川、池沼の止水～緩流水中に生育し、生育地は冬季も水深や底土の湿り気が保たれるような場所に限られている。また、類似種のコウガイモに比べ、生育地はより湧水に近い場所や貧栄養の水質である場合が多く、本県における生育適地はより限定的であると考えられる。

【特記事項】遠目では類似種のコウガイモとの識別が困難で、葉縁の鋸歯は葉先に限られていること、走出枝が平滑であることを手にとって確認する必要がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	○	◎





1156 ヒルムシロ科

〔和名〕イトモ

〔学名〕*Potamogeton berchtoldii* Fieber

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 VU  
2005 CR 1998 EN

全国カテゴリ 2020 NT

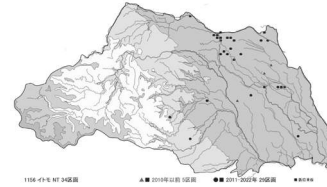
【評価所見】 前回改訂時の報告は6地点で約2,100個体であったのに対し、今回は調査精度の向上によって29地点で約4,400個体が報告された。しかしながら、本種の同定に不可欠な結実状況の確認例が少ないため、実際の産地・個体数はともにこれより少ないとみなされる。一部の生育地では、生育環境の悪化により過去から減少傾向にある。本種のような水草では、渇水や農薬汚染等の水環境の変化で個体数の急激な減少を招きやすい。危険要因として、主に水質汚濁、農薬汚染が挙げられる。また、自然遷移の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】 水路のほか小河川や池沼にみられ、しばしば群生するが、農業用の水路では冬季も水深や底土の湿り気が保たれる用排水路や排水路に限られている。

【特記事項】 雑種のアイノコイトモの開花はまれで結実しないが、本種はよく結実する。葉のみでの本種との区別は困難である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○	○	◎



1157 ヒルムシロ科

〔和名〕エビモ

〔学名〕*Potamogeton crispus* L.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

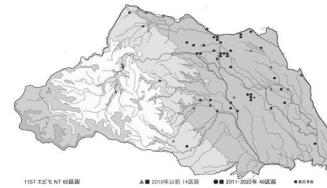
【評価所見】 前回改訂時の報告は15地点で約3,000個体前後であったが、今回は調査精度の向上によって51地点で約5,000個体前後が確認された。産地・個体数の増加もあり、現在のところ絶滅が懸念される状況ではないが、一部の生育地では生育環境の悪化により過去から減少傾向にあるため、全体として前回と同等の絶滅リスクで推移していると判断される。本種のような水草は、渇水や農薬汚染等の水環境の変化で個体数の急激な減少を招きやすい。危険要因として、主に農薬汚染が挙げられる。また、河川改修、水質汚濁の懸念も挙げられる。

【県内生育状況】 水路、小河川、池沼の止水～緩流水中に生育する。農業用の水路では、冬季も水深や底土の湿り気が保たれる用排水路・排水路に限定的である。止水域に生育する個体では、夏期に殖芽をつくり休眠する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	◎



1158 ヒルムシロ科

〔和名〕ヒルムシロ

〔学名〕*Potamogeton distinctus* A.Benn.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

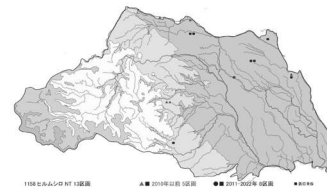
【評価所見】 前回改訂時の報告は2地点で約2,500個体前後であったが、今回は調査精度の向上によって9地点で約4,000個体前後が確認された。これらの新産地においても過去から生育していたと思われるうえ、さらに産地は存在すると考えられる。本種のような水草は、渇水や農薬汚染等の水環境の変化で個体数の急激な減少を招きやすく、潜在的な絶滅リスクが元々高い。危険要因として、主に水質汚濁や農薬汚染等が挙げられる。

【県内生育状況】 本県での生育地は水田はまれで、多くの場合農業用の用排水路・排水路である。生育地は農薬等の影響を受けにくく、冬季も水深や底土の湿り気が保たれる場所に限られている。

【特記事項】 池沼等の水深のある止水域に生育する場合、フトヒルムシロと浮葉形態が類似してくるため誤認されやすいが、本種は心皮が1～3個で地下茎に殖芽を作る。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○		○	◎



1159 ヒルムシロ科

(和名) フトヒルムシロ

(学名) *Potamogeton fryeri* A.Benn.

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

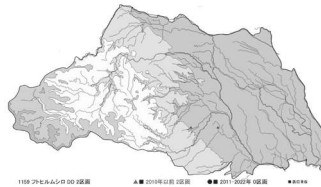
【評価所見】本種は2005年に県内でははじめて生育確認され、生育地では2006年以降確認ができなくなったことから、前版でDDとして評価されたが、その後、その生育地自体が消滅した。また、標本調査の結果、他種に同定された中に本種の古い標本が1点確認された。今回の調査では報告がなく、過去から減少していることは間違いないと考えられる。

【県内生育状況】2005～2006年には武蔵野台地と入間台地に挟まれた低地の池に生育していた。1950年代の長瀬の生育状況は不詳であるが、岩畳の小池に生育していた可能性がある。本県には比企郡を中心に数多くのため池が現存するものの、本種は貧栄養でやや酸性の水質、かつ比較的低い水温の池沼に生育する種であり、生育できる環境はすでにほぼなくなっている。

【特記事項】県内の標本は1954年の長瀬 (SMNH-As50970)、2006年の川越 (SMNH-As52017,53174) のみである。文献：桧山1965 (武蔵野 (広域)) ※県内に生育していた記録かは不詳)。池沼に生育するヒルムシロと誤認されやすいが、本種は貧栄養の水質に生育し、心皮が4個で地下茎に殖芽はできない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1160 ヒルムシロ科

(和名) センニンモ

(学名) *Potamogeton maackianus* A.Benn.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 NT 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

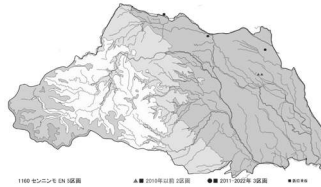
【評価所見】前回改訂時の報告は1地点のみで約2,000個体前後であったが、今回の調査では3地点で約3,000個体前後が確認された。しかし本種の県内における産地はごく限定的であり絶滅のリスクは低い。危険要因として、主に水質汚濁や農薬汚染等が挙げられる。

【県内生育状況】農業用水路の緩流水中に生育するが、本県の産地はごく限定的である。生育地は冬季も水深や底土の湿り気が保たれる場所に限られている。本種は類似種のエビモに比べよりきれいな水質を好むとされ、本県における生育適地はより限定的であると考えられる。

【特記事項】類似種のエビモの葉縁が強く波打つのにに対し、本種はほとんど波打たず、葉先は凸状で、托葉が葉鞘状となる。また、エビモの心皮は4で殖芽を作るが、本種の心皮は2で殖芽は作らない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
								○



1161 ヒルムシロ科

(和名) ホソバミズヒキモ

(学名) *Potamogeton octandrus* Poir. var. *octandrus*

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

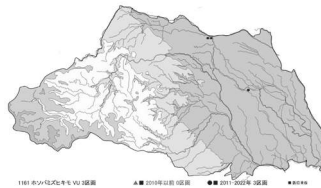
【評価所見】報告は3地点、生育個体数は約100個体と、産地・個体数ともに限定的である。県内にまだ他の産地があると思われる。本種のような水草は、濁水や農薬汚染等の水環境の変化で個体数の急激な減少を招きやすく、潜在的な絶滅リスクが元々高い。危険要因として、主に農薬汚染、管理放棄が挙げられる。

【県内生育状況】農業用水路の緩流水中に生育するが、産地は少なく生育適地は限定的である。本種は1962年版植物誌から記録があるが (表記はミズヒキモ)、その後確認記録は近年まで途絶えていた。水質環境の改善や埋土種子からの再生等によって、近年再び確認されるようになった可能性がある。

【特記事項】流水中ではほぼ沈水葉のみで生育し、イトモと混同しやすい。イトモの葉は幅0.7-1.5mmで1-3脈、殖芽の軸は肥厚するが、本種は葉幅0.3-1mmで1脈、殖芽の軸は肥厚しない。コバノヒルムシロは果実にときか状の突起がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
							○	○



## 1162 キンコウカ科

(和名) ノギラン

(学名) *Metanarthecium luteoviride* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】亜高山帯の草原に生育する。前回と今回の調査で個体数には大きな変動はない。1集団2地点で100個体程度が点在する。シカの食害が続く限り、大型化できず、種子生産の少ない状態が続く。

【県内生育状況】草原に点在する。根生葉の長さが5cm内外と、非常に小型になっているが、それでも開花している個体がある。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



## 1163 ヤマノイモ科

(和名) ニガカシュウ

(学名) *Dioscorea bulbifera* L.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

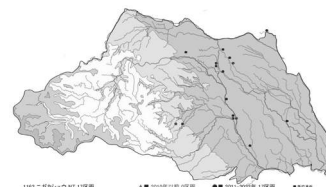
【評価所見】生育個体数は約300個体と多くはないが、16地点で確認され、生育環境はそれほど限定されないことから、今回の調査で確認された以外にも、より多くの産地が存在すると考えられる。危険要因として、主に自然遷移、河川敷開発、森林伐採が挙げられる。

【県内生育状況】河川敷や用水路脇、林縁などに生育している。

【特記事項】国内分布は関東以西。よく目立つ大きな心形の葉と、葉腋にできる突起の多いむかごが特徴である。生育地のいくつかは、保全団体によって一帯の保全管理が行われているか、開発懸念の少ない場所となっている。標本：矢島標本2021YT235 (2021)、仮標本(木口1994)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○	○	◎



## 1164 シュロソウ科

(和名) アズマシライトソウ

(学名) *Chionographis hisauchiana* (Okuyama) N.Tanaka subsp. *hisauchiana*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 VU

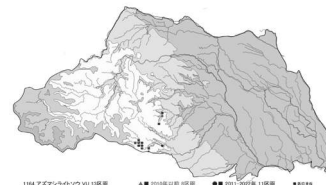
【評価所見】前回の確認個体数は10,000未満であったが、今回は10,000を大きく超えた。分布は限定的で二次メッシュの区画数は3区画であるが、一部の区画では個体数が増加傾向にある。森林伐採、園芸採取、自然遷移、道路工事が大きな危険要因となっている。また踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】二次林やスギ林などの林床や林縁に生育する。

【特記事項】国内分布は関東周辺

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎		○			



## 1165 シュロソウ科

(和名) クルマバツクバネソウ

(学名) *Paris verticillata* M.Bieb.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

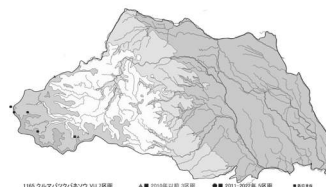
【評価所見】前回と同様に確認個体数は1,000未満である。シカによる直接的な食害が大きな危険要因であるが、立木の枯損による林床の乾燥化など環境の変化も危険要因である。

【県内生育状況】比較的動物の食害を受け難い岩場などに残存している。

【特記事項】特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



## 1166 シュロソウ科

(和名) エンレイソウ

(学名) *Trillium apetalon* Makino埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

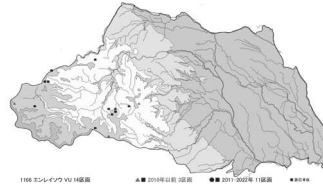
【評価所見】 前回は確認個体数が10,000未満、報告数が7地点であったのに対し、今回は確認個体数100未満、報告数11地点で個体数が急激に減少した。要因はシカの食害によるもので、その影響により更なる個体数の減少が危惧される。自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 天然林のやや湿った林床に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



## 1167 シュロソウ科

(和名) ミヤマエンレイソウ (シロバナエンレイソウ)

(学名) *Trillium tschonokii* Maxim.埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリー 2020 なし

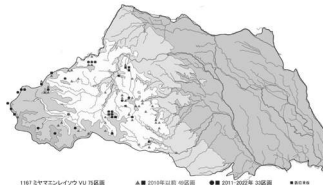
【評価所見】 前回は確認個体数が10,000以上、報告数も100地点を超えていたが、今回は確認個体数1,000未満、報告数が33地点であった。個体数はまだ確保されているものの減少傾向にあり、その要因であるシカの食害による影響が今後も危惧される。自然遷移、森林伐採、園芸採取の他、動物食害も危険要因である。

【県内生育状況】 亜高山帯～丘陵帯の広い範囲に分布し、天然林のやや湿った林床に生育している。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○		○			



## 1168 イヌサフラン科

(和名) オオチゴユリ

(学名) *Disporum viridescens* (Maxim.) Nakai埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

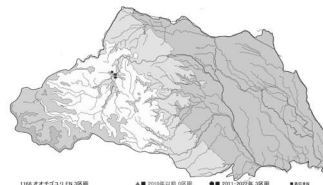
【評価所見】 確認個体数は1,000未満、報告数が3地点、二次メッシュが1区画の記録である。低山や山地に分布するが生育地の確実な情報が少ない。自然遷移、森林伐採が危険要因である。

【県内生育状況】 チゴユリの生育環境よりもやや暗く湿り気のある林床にみられる。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As20514 (1983)、岩田標本76894 (2007)、岩田標本80710 (1996) など。本種はチゴユリの枝が分岐する変種エダウチチゴユリとの誤認が多いことで知られ、同定には注意が必要である。チゴユリやエダウチチゴユリの花被片は白色で、花糸は葯の2～2.5倍、子房は倒卵形で花柱は子房の倍長くなり、ふつう浅く3裂するのに対し、オオチゴユリの花被片は白色でやや緑色を帯び、花糸は葯と同長か1.5倍程度長く、子房は近球形で花柱は子房よりわずかに長く、中程まで深裂することで区別される (田村, 2016)。エダウチチゴユリやオオチゴユリの形態形質の検討については木場 (2004)、木村 (2015)、長谷川 (2016) などがある。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				





## 1169 サルトリイバラ科

(和名) サルマメ

(学名) *Smilax biflora* Siebold ex Miq. var. *trinervula* (Miq.) Hatus, ex T.Koyama埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は7地点、二次メッシュが7区画の記録である。自然遷移が危険要因であるが、山地の生育地ではシカの食害の影響も危惧される。

【県内生育状況】 草地や林縁に自生する落葉小低木植物である。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As53330 (2006)、SMNH-As52215 (2004) など、仮標本多数。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	○		◎	○			



## 1170 サルトリイバラ科

(和名) ヤマカシュウ

(学名) *Smilax sieboldii* Miq.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

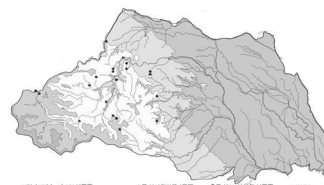
【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は20地点、二次メッシュが11区画の記録である。山地に広く分布するがシカの食害による影響が危険要因である。

【県内生育状況】 林縁や林床に生育するつる性の半低木植物である。

【特記事項】 国内分布は本州から九州の石灰岩地や蛇紋岩地に限定的。標本：SMNH-As53331 (2005)、SMNH-As20955 (1986) など、仮標本多数。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	◎	○	◎	○			



## 1171 サルトリイバラ科

(和名) マルバサンキライ

(学名) *Smilax stans* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

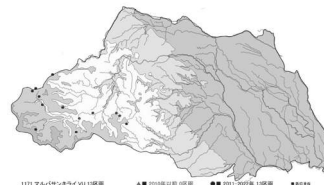
【評価所見】 確認個体数は1,000未満、報告数は13地点、二次メッシュが7区画の記録である。石灰岩地帯を中心に広く分布するがシカによる食害の影響により個体数は減少傾向にあり、シカ食害、森林伐採、自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 主に石灰岩地に分布している。

【特記事項】 標本はSMNH-As56838 (2018)、SMNH-As20972 (1983) などがある。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○					



## 1172 ユリ科

(和名) アマナ

(学名) *Amana edulis* (Miq.) Honda埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

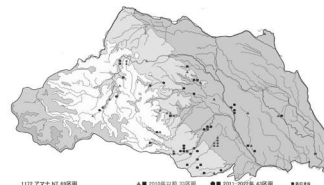
【評価所見】 前回と同様に確認個体数は10,000以上である。園芸採取により個体数の減少が危惧されるものの、二次メッシュの分布は17区画であり、低地帯を中心に広く分布している。園芸採取の他に開発による森林伐採、自然遷移、河川改修が危険要因である。

【県内生育状況】 二次林の林縁や河川敷などの日当たりの良い草地に生育している。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○	◎	○	○	○



1173 ユリ科

(和名) ヒロハノアマナ

(学名) *Amana erythronioides* (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 VU

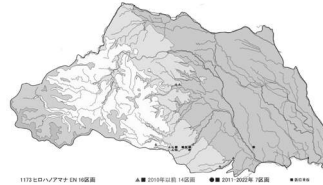
【評価所見】 前回の確認個体数は1,000未満であったが、今回は1,000を大きく超えた。要因は一部の区画で行われた保護活動である。ほとんどの区画が都市部に分布しているため、開発や販売目的の採取の危険性は常に存在する。

【県内生育状況】 二次林の林縁や畑・草原などに生育する。

【特記事項】 国内分布は本州・福島以西・香川で限定的。標本：TNS155927 (1963)、TNS1021804 (1960) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。アマナによく似るがアマナに比べ葉の幅が広く葉の中央に白っぽい線が入るのが特長である。入間市にある区画は希少植物保護地域として保護されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					◎		○	



1174 ユリ科

(和名) ツバメオモト

(学名) *Clintonia udensis* Trautv. et C.A.Mey.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

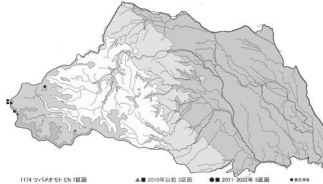
【評価所見】 前回の確認個体数は1,000未満であったが、今回100未満と急激に個体数を減らした。二次メッシュの分布も2区画のみであり、減少の要因であるシカの食害の影響により消滅の危険性が極めて高いと思われる。シカ食害のほか、自然遷移も危険要因である。

【県内生育状況】 明るい天然林の林床に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As20440 (1986)、SMNH-As20439 (1986) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								



1175 ユリ科

(和名) カタクリ

(学名) *Erythronium japonicum* Decne.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 NT

全国カテゴリー 2020 なし

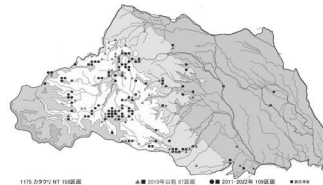
【評価所見】 前回と同様に確認個体数は10,000以上、報告数が100地点以上である。山地帯から低山帯の明るい広葉樹林内に広く分布しているが、山地帯域ではシカの食害が顕著であり、開花の割合も少なく個体数も減少している。園芸採取、自然遷移、森林伐採、管理放棄も危険要因である。

【県内生育状況】 明るい二次林や植林地の林床に生育している。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]、北本市指定天然記念物 [高尾カタクリ自生地] (高尾地内)、飯能市天然記念物 [カタクリ・イカリソウの群落] (岩淵地内)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	◎	○	○	○	○	○	



1176 ユリ科

(和名) ヒメアマナ

(学名) *Gagea japonica* Pascher

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】 1998年版植物誌以後の調査では生育が確認できず、絶滅したかと思われる。低地の湿った草地などに分布していたが今回の調査においても確認できなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 かつては、大宮台地 (戸田市・さいたま市桜区) の湿った河川敷草地に分布していた。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：TNS22687・TNS62680・TNS19554 (戸田市 1890・1900)。文献：大井町史編さん委員会 1986 (大井町)、寺崎 1977 (戸田原)、松山 1965 (武蔵野 (広域))。旧版植物誌や1998年版植物誌には記録されなかったが、古い文献によると、荒川河川敷ではサ

クラソウなどとともに多くの記録が残されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

**1177 ユリ科**

(和名) **キバナノアマナ**  
(学名) *Gagea nakaiana* Kitag.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回の確認個体数は10,000以上であったのに対し、今回は10,000未満である。比較的個体数は多いものの、園芸採取やシカによる食害のほかに、河川敷開発の影響により個体数が減少していると思われる。今後も同様な危険性は高い。

【県内生育状況】 日当たりのよい二次林の林床や林縁、河川敷などに生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○	○		○			

**1178 ユリ科**

(和名) **コオニユリ**  
(学名) *Lilium leichtlinii* Hook.f. f. *pseudotigrinum* (Carrière) H.Hara et Kitam.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 EN 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は前回と同様に1,000未満で減少傾向にある。園芸採取、石灰岩の採掘、自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。県内の石灰岩地には茎が下垂し、葉がやや細いものが生育し、この型は久内 (1940) が白川の花崗岩地から記載したホソバコオニユリ (*Lilium maximowiczii* Regel f. *tenuifolium* Hisauti : 現在のコオニユリの学名に対応した組み合わせは発表されていない) にしばしば充てられてきた。県内でホソバコオニユリとされてきた岩壁生のは、コオニユリとの形態的差異は不明確であり、現在のところコオニユリの生態型と考えられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎			○	○		○	

**1179 ユリ科**

(和名) **ミヤマスカシユリ**  
(学名) *Lilium maculatum* Thunb. var. *bukosanense* (Honda) H.Hara

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 EN

【評価所見】 前回と同様に確認個体数は100未満である。過去に報告のあった武甲山の石灰岩地において、2005年以降に記録はなかったが、今回、1地点の報告があった。シカの食害や石灰岩採掘による危険性は少ないものの個体数が限られており、絶滅の危機に瀕している状況に変化はない。園芸採取、自然遷移が大きな危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育している。現存の個体は動物からの食害を受けにくい崖上に生えている。

【特記事項】 国内では秩父 (武甲山ほか)、岩手から茨城、新潟に隔離分布。標本 : SMNH-As48874 (植栽2007)。文献 : 岩田・林2020 (秩父市大滝)、清水2005 (秩父地方)、安原1993 (武甲山) 他。県内希少野生動物植物種 [埼玉県希少種野生動物植物の種の保護に関する条例]、特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

**1180 ユリ科**

(和名) **クルマユリ**  
(学名) *Lilium medeoloides* A.Gray var. *medeoloides*

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 VU 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は1,000未満、報告数は4地点である。前回と同様の記録数であるが、動物による食害の影響により個体数は減少傾向にあると思われる。

【県内生育状況】 石灰岩地に主に分布しており、日当たりが良い木陰などの比較的涼しい場所に生育している。

【特記事項】 標本 : SMNH-As56659 (2016)、SMNH-As53637 (1988) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							



1181 ユリ科

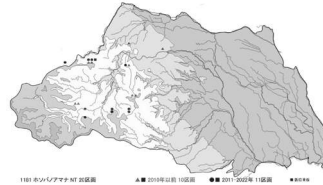
(和名) **ホソバノアマナ** (ホソバアマナ)  
 (学名) *Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
 2005 VU 1998 NT  
 全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は10,000未満、報告数は11地点で前回と同様の記録である。二次メッシュは6区画で各箇所とも個体数は多いが自然遷移、園芸採取、動物の踏みつけや食害など危険要因はある。  
 【県内生育状況】 二次林や植林地の林床に生育しており、比較的湿気の多い場所にみられる。  
 【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	◎	○					



1182 ユリ科

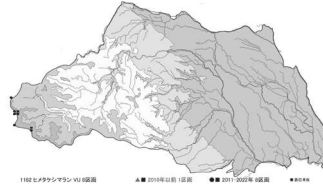
(和名) **ヒメタケシマラン**  
 (学名) *Streptopus streptopoides* (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. *streptopoides*

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
 2005 EN 1998 EN  
 全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は1,000未満で前回と同様である。報告数は前回の2地点から今回8地点に増加している。すべて標高1,700m以上の亜高山帯で確認された報告であり、調査精度の向上により報告数が増えたと思われるが、情報が不足しているため危険要因は判断できない。  
 【県内生育状況】 天然林の林床や林縁に生育する。  
 【特記事項】 国内分布は中部以北。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								



1183 ユリ科

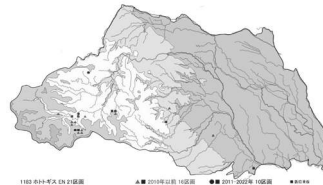
(和名) **ホトトギス**  
 (学名) *Tricyrtis hirta* (Thunb.) Hook. var. *hirta*

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 VU  
 2005 なし 1998 なし  
 全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回と同様に確認個体数は1,000未満である。報告数は前回の25地点から今回10地点に減少した。自然遷移、森林伐採、園芸採取、動物による食害などの危険要因がある。  
 【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林縁の他に、特に石灰岩地帯の岩壁などにまばらに生育する。  
 【特記事項】 国内分布は関東以西。標本:SMNH-As53332 (2007)、SMNH-As52218 (2004) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。本県の石灰岩の岩壁に生育するものは、愛鷹山・梅ヶ島から記載された茎が下垂し葉が鎌形になる岩上生の変種のイワホトトギス (Honda, 1931) に類似する。現在、イワホトトギスは母種と区別されておらず、ホトトギスの生態型と考えられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	◎	○			○		



1184 ユリ科

(和名) **ヤマホトトギス**  
 (学名) *Tricyrtis macropoda* Miq. var. *macropoda*

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 EN  
 2005 VU 1998 なし  
 全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回までは確認個体数が100未満で報告数も1地点であったが、今回、調査精度の向上により確認個体数が1,000未満、報告数4地点に増加した。ほとんどが都市部に分布しているため森林伐採などの開発が危険要因であるが、自然遷移も危惧される要因である。  
 【県内生育状況】 沢沿いの人工林や二次林の林床・林縁に生育する。  
 【特記事項】 一部の生育地は保全地として管理されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○		○			





1185 ラン科

(和名) ミスズラン

(学名) *Herminium pusillum* Ohwi et Fukuy.

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 CR

【評価所見】 前回調査では生育確認できなかったが、今回の調査では2地点において50未満の個体数を確認した。自生地の環境が安定しているため個体数の大きな増減はないと考えられるが、倒木や伐採による環境変化に加え、シカ等の動物による食害や踏み付けが危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】 針葉樹林下のコケ中に生える。

【特記事項】 国内分布は本州（東北から中部）に限定的。標本：SMNH-As52222 (2003)。文献：三上2015 (秩父市)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園] 国内希少野生動物種 [種の保存法]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1186 ラン科

(和名) シラン

(学名) *Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 荒川の上流部である長瀬を主な産地とするが、他にも2地点で生育が確認されている。個体数は前回調査では約4,000個体、今回の調査では約5,000個体と増加傾向にある。

花が美しく鑑賞用に販売されるため、園芸目的の採取や自然遷移が危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】 河原の岩上や明るく湿り気のある斜面等に生える。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As49095 (1995)、SMNH-As49093 (1995) など。本種の栽培品の逸出もしばしばみられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		◎				

1187 ラン科

(和名) ムギラン

(学名) *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 本県における自生地は1地点のみで、個体数は100個体以上確認されており、前回と大きな変化はない。自然遷移・園芸採取・森林伐採による乾燥化等が危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】 樹林内にある岩上に着生する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51111 (1994)。文献：落合2000 (寄居町)、卜沢1999 (秩父山系)、寄居町教育委員会1986 (寄居町)、皆野町誌編集委員会1984 (皆野町) 他。県内希少野生動物種 [埼玉県希少種野生動物種の保護に関する条例] 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					

1188 ラン科

(和名) エビネ

(学名) *Calanthe discolor* Lindl. var. *discolor*

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 今回の調査で確認されたのは前回調査とほぼ同数の500個体未満である。自生地は県内各地に存在するものの大きな群落はみられない。里山に生育することが多いため、園芸採取・管理放棄・自然遷移に加え、森林伐採やシカ食害等も危険要因になっている。

【県内生育状況】 雑木林やスギ林の林床に生育する。

【特記事項】 生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	○	◎	○	○	

1189 ラン科

〔和名〕キンセイラン

〔学名〕*Calanthe nipponica* Makino

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】もともと自生地や個体数が少なかったことに加え、シカの食害や自然遷移等により個体数が減少した。前回調査では数十個体確認されたが、今回は3地点で生育確認されたものの、そのうち2地点では現在確認できず、現有個体数は2個体のみである。埼玉県においては絶滅の危険性が極めて高い種である。

森林伐採・自然遷移・園芸採取・シカ食害は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】主に落葉樹林内に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As49109 (1992)。文献：五十嵐・岩田2005 (東大演習林)、岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか

2000 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						

1190 ラン科

〔和名〕サルメンエビネ

〔学名〕*Calanthe tricarinata* Lindl.

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 EX 1998 EX

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】最後に確認されてから50年以上確認されておらず、絶滅したと考えられる。

分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】落葉樹林に生育していた。

【特記事項】東京大学に津山尚採集 (1969) の白泰尾根産標本がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1191 ラン科

〔和名〕ホテイラン

〔学名〕*Calypto bulbosa* (L.) Oakes var. *speciosa* (Schltr.) Makino

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】今回の調査で新たな自生地が発見され、前回の数十個体から100個体以上に増加した。各自生地における個体数は少ないため、園芸採取・シカの食害・自然遷移や森林伐採等による環境変化によって消滅する危険がある。

【県内生育状況】針葉樹林内に生えるコケの中に生育する。

【特記事項】国内分布は本州中部の亜高山に限定的。標本：SMNH-As22107 (1957)、TNS952826 (1964)、TNS145562 (1960)。県内希少野生動物植物種 [埼玉県希少種野生動物植物の種の保護に関する条例] 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1192 ラン科

〔和名〕ギンラン

〔学名〕*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

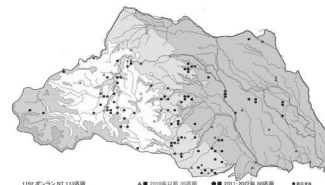
【評価所見】今回の調査で生育が確認されたのは900個体前後である。今回新たな生育地が発見されたため、前回調査の700個体前後より確認個体数はやや増加した。里山の管理放棄や自然遷移に加え、森林伐採や園芸採取等が危険要因である。

【県内生育状況】落葉広葉樹林下に生育する。特に管理された雑木林は絶好の生育環境となる。

【特記事項】生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	○	○	○	◎	○	○	○



**1193 ラン科**

(和名) **キンラン**

(学名) *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

埼玉カテゴリー **2024 VU 2005 EN 2011 EN 1998 VU**

全国カテゴリー **2020 VU**

**【評価所見】** 今回の調査で生育が確認されたのは900個体前後である。今回新たな生育地が発見されたことで前回調査の600個体前後より確認個体数は増加した。生育地は県内各地に分布するものの、里山の管理放棄や土地造成に加え、森林伐採や園芸採取等が危険要因である。

**【県内生育状況】** 落葉樹林の林床に生育する。特に管理された雑木林は絶好の生育環境となる。

**【特記事項】** 生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○	○	◎	○	○	○

**1194 ラン科**

(和名) **ササバギンラン**

(学名) *Cephalanthera longibracteata* Blume

埼玉カテゴリー **2024 NT 2005 NT 2011 NT 1998 なし**

全国カテゴリー **2020 なし**

**【評価所見】** 今回の調査で生育が確認されたのは600個体前後であり、前回調査の400個体前後より増加しているが、自生地は比較的多いものの各自生地での個体数は多くない。森林伐採、園芸採取、自然遷移、管理放棄、土地造成等が危険要因である。

**【県内生育状況】** 落葉広葉樹林下に生育する。特に管理された雑木林は絶好の生育環境となる。

**【特記事項】** 生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○	○	○	◎	○	○	

**1195 ラン科**

(和名) **クゲヌマラン**

(学名) *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch

埼玉カテゴリー **2024 VU 2005 なし 2011 なし 1998 なし**

全国カテゴリー **2020 VU**

**【評価所見】** 近年県内での生育が確認され、自生地・個体数ともに増加傾向にある。今回の調査では600個体以上が確認された。

園芸採取・森林伐採・土地造成・自然遷移・管理放棄等の危険要因により個体数の減少が危惧される。

**【県内生育状況】**

**【特記事項】** 標本: SMNH-As53599 (2015)、SMNH-As56595 (2017)、SMNH-As56600 (2017)。文献: 三上・石川2020 (加須市)、岩田・林2020 (親鼻駅～野上駅)、木山2016 (加須市・秩父市) 他。最近、クゲヌマランに似ているものの距が全くなく、唇弁が側花弁化するギンランの品種ヤビツギンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume f. *pelorica* Hiros. Hayak. et Suetsugu が発表された。今回の調査では、ヤビツギンランを誤ってクゲヌマランとした報告が含まれている可能性がある。ヤビツギンランが埼玉県に生育することは、Hayakawa et al. (2020) に記載されている。

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○			○		◎	○

**1196 ラン科**

(和名) **ユウシュンラン**

(学名) *Cephalanthera subaphylla* Miyabe et Kudô

埼玉カテゴリー **2024 EN 2005 CR 2011 CR 1998 なし**

全国カテゴリー **2020 VU**

**【評価所見】** 今回の調査で新たな自生地が発見され、約600個体前後が確認された。前回調査の100個体前後より大きく増加したが、菌従属性が高いことから年によって個体数には変動がある。危険要因としては森林伐採・石灰岩採掘・シカ食害・道路工事・園芸採取等が挙げられる。

**【県内生育状況】** 樹林下にややまに生育する。

**【特記事項】** 標本: SMNH-As53339 (2005)。文献: 平2004 (武甲山)、東京薬科大学植物研究部1977 (狭山丘陵)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○	○		○			

1197 ラン科

(和名) **モイワラン**

(学名) *Cremastra aphylla* T.Yukawa

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 CR

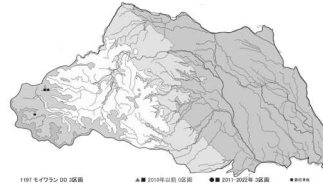
【評価所見】最近秩父山地の2地点で生育が確認された。個体数は数個体ときわめて少ないが、今後新たな自生地が発見される可能性もある。花が目立つため、園芸目的の採取が危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】樹林内にごくまれに生える。

【特記事項】文献：五十嵐・吉田2013（東大秩父演習林）。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							



1198 ラン科

(和名) **サイハイラン**

(学名) *Cremastra appendiculata* (D.Don) Makino var. *variabilis* (Blume) I.D.Lund

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回の調査で確認されたのは約400個体であり、前回と大きな変化はなかった。県内に比較的広く分布しており、個体数も少なくはないが、自生地が開発されやすい場所にあるため今後の減少が心配される。

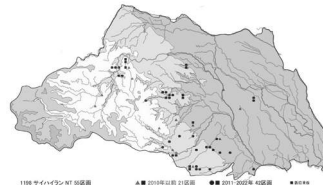
森林伐採・自然遷移・園芸採取・動物の踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】やや湿り気のある落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

【特記事項】生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○	○	◎	○	○	



1199 ラン科

(和名) **シュンラン**

(学名) *Cymbidium goeringii* (Rchb.f.) Rchb.f. var. *goeringii*

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

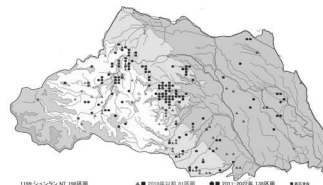
【評価所見】今回の調査では約1,800個体が確認されたが、前回調査の約2,300個体と比べやや減少した。管理された雑木林が生育に適していることから、管理放棄や園芸採取が主な危険要因と考えられる。

【県内生育状況】やや乾燥した落葉広葉樹の林床に生育し、管理された雑木林は適した生育環境である。

【特記事項】生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○	○	◎	○	○	○	○



1200 ラン科

(和名) **マヤラン**

(学名) *Cymbidium macrorhizon* Lindl.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 DD  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

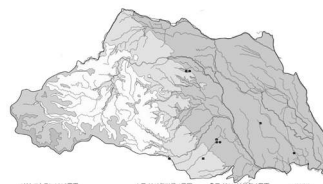
【評価所見】今回の調査において新たな自生地が発見されたこともあり、約500個体が確認された。前回は数個体の確認であり、大幅な増加が認められた。園芸採取・自然遷移・森林伐採等が危険要因である。

【県内生育状況】腐植質の多い林下に生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	○	◎	○	





1201 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 DD  
2005 CR 1998 CR

〔和名〕 **サガミラン** (サガミランモドキ)

〔学名〕 *Cymbidium nipponicum* (Franch. et Sav.) Rolfe

全国カテゴリ 2020 EN

【評価所見】 前回の調査では生育確認できなかったが、今回の調査では約20個体が確認された。自生地は開発されやすい場所にあるため保護対策が必要である。危険要因として森林伐採が考えられる。

【県内生育状況】 林下に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東周辺。標本：SMNH-As48524 (1995)。文献：市場・鐵2022 (所沢市)、木村2020 (さいたま市)、植物誌活用部会2001 (産地未記載) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
							○	

1202 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 EX

〔和名〕 **コアツモリソウ**

〔学名〕 *Cypripedium debile* Rchb.f.

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 今回の調査で新たな自生地が発見されたが、総個体数は前回調査と変わらず100個体未満である。本種は自生地が限られており、すでに消滅したところもある。森林伐採、園芸採取、シカ食害、自然遷移は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 落葉樹林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州 (中部以北)、四国、熊本と限定的。標本：SMNH-As56603 (2016)、SMNH-As52224 (2003)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

1203 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 EN

〔和名〕 **クマガイソウ** (クマガエソウ)

〔学名〕 *Cypripedium japonicum* Thunb.

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 かつては県内各地に自生地があったが、今回の調査で確認された自生地は3地点のみで、個体数は前回の1,000個体未満から100個体未満に大きく減少した。危険要因としては、園芸採取や管理放棄による自然遷移があげられる。

【県内生育状況】 落葉樹林や竹林内に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As49239 (1995)、SMNH-As49240 (1995) など。文献：木村2020 (さいたま市)、荒川の自然を守る会2011 (上尾市)、さいたま市みどり推進課2010 (さいたま市) 他。さいたま市緑区と見沼区の自生地は市の天然記念物に指定されている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○					○	

1204 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EW  
2005 EX 1998 EX

〔和名〕 **アツモリソウ**

〔学名〕 *Cypripedium macranthos* Sw. var. *speciosum* (Rolfe) Koidz.

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 県内産標本や確実な生育記録はあるものの最近では確認されておらず、十文字小屋に移植されていた個体も消滅した。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 かつて、山地帯や亜高山帯の明るい草地に生育していた。

【特記事項】 国内分布は本州 (近畿以北) 及び北海道。標本：SMNH-As22468 (1961) の横瀬武甲山標本と SMNH-As57254 (1990) の秩父三国尾根 (1990) 礪田標本がある。文献：矢島ほか2017 (大滝村)、卜沢1999 (秩父山系)、植田ほか1992 (大滝村) 他。国内希少野生動物植物種 [種の保存法]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1205 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 DD  
2005 CR 1998 CR

〔和名〕 **ツチアケビ**

〔学名〕 *Cyrtosia septentrionalis* (Rchb.f.) Garay

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回調査では生育確認できなかったが、今回の調査では4地点において50個体未満の生育を確認した。菌従属栄養植物で、毎年同所で確認できるとは限らないため情報が少ない種である。主な危険要因としては、森林伐採や自然遷移等があげられるが、道路工事や踏み付けによる影響も懸念される。

【県内生育状況】 樹林下に生える大型の菌従属栄養植物。

【特記事項】 標本：SMNH-As56886 (2015)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○			○			

## 1206 ラン科

(和名) アオチドリ (ネムロチドリ)

(学名) *Dactylorhiza viridis* (L.) R.M.Bateman, A.M.Pridgeton et M.W.Chase埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回確認できたのは奥秩父の2地点のみで、個体数は前回調査と同様50個体未満であった。近年秩父山地でもシカの増加による林床植生への影響が増大しており、シカ食害は本種の主要な危険要因としてあげられる。

【県内生育状況】

【特記事項】国内分布は四国、中部以北。標本：SMNH-As51114 (1997)、SMNH-As49171 (1995) など。文献：岩田・

林2020 (小鹿野町・秩父市)、牧野ほか2008 (三国峠)、五十嵐・岩田2005 (東大演習林) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

## 1207 ラン科

(和名) イチヨウラン

(学名) *Dactyloctenium aegyptium* Rchb.f.埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回の調査で確認された個体数は前回調査と同様約100個体で、大きな変化は認められなかった。自生地は人為的な影響を比較的受けにくい深山であるが、自然遷移・シカの食害・園芸採取等は本種の危険要因と考えられる。

【県内生育状況】

【特記事項】標本：SMNH-As49243 (1992)、SMNH-As53673

(1988) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

## 1208 ラン科

(和名) セッコク

(学名) *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回の調査で新たな生育地が発見されたものの、個体数は1,000未満で前回調査と大きな変化はなかった。古くから園芸用に採取され、手の届く場所の自生地ではほとんど消滅してしまっているなど園芸採取が主な危険要因であり、保護対策を講じる必要がある。

【県内生育状況】湿度が高く日当たりのよい樹上や岩上に着生して生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As49244 (1994)、SMNH-As21273 (1882) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		◎	○			○		

## 1209 ラン科

(和名) コクラン

(学名) *Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 EW

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回の調査で新たな自生地の発見があり、1,000個体以上の生育が確認された。前回調査では900個体ほどであり、近年増加傾向にある。暖地系のランであり、温暖化によって分布域が拡大しているものと考えられる。個体数に影響を与える危険要因としては、自然遷移・園芸採取・森林伐採・土地造成等があげられる。

【県内生育状況】樹林下のやや暗い林床に生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-

As49072 (2008)、SMNH-As49073 (2008)、SMNH-As52230 (1999)。県内希少野生動物種 [埼玉県希少種野生動物種の種の保護に関する条例]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	◎	○	○	

## 1210 ラン科

(和名) ハコネラン

(学名) *Ephippianthus sawadanus* (F.Maek.) Ohwi ex Masam. et Satomi埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】今回新たな自生地が発見されたものの、総個体数は前回調査と同様50個体未満であった。前回調査より確認個体数はやや増加したが、自生地・個体数ともに限られており絶滅の危険性は高いと考えられる。

主な危険要因としては、シカの食害や踏み付けに加え森林伐採による環境変化等が考えられる。

【県内生育状況】落葉樹林内に生える。

【特記事項】フォッサマグナ要素の植物とされ、埼玉から静岡・奈良の狭い範囲に分布する。標本：TNS170376 (1950)、岩

田標本5837 (2003)。文献：五十嵐・岩田2005 (東大秩父演習林)、岩田2004 (大滝村)、守屋1974 (大滝村)。過去に報告された亜高山帯の記録は、コイチヨウランを本種と誤認したものである。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

## 1211 ラン科

(和名) コイチヨウラン

(学名) *Ephippianthus schmidtii* Rchb.f.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では10地点以上で生育が確認され、個体数も前回同様1,000個体を超えている。国立公園内の針葉樹林内に生育し絶滅の危険性は比較的低いが、森林伐採や乾燥化に加え、シカの食害や踏み付けによる減少が危惧される。

【県内生育状況】 針葉類林内のコケ中に生える。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



## 1212 ラン科

(和名) エゾスズラン (アオスズラン)

(学名) *Epipactis papillosa* Franch. et Sav. var. *papillosa*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では秩父地方を中心に10地点で生育が確認され、個体数は約100個体と前回の60個体よりやや増加した。危険要因としては、シカの食害・石灰岩採掘・自然遷移等が挙げられる。

【県内生育状況】 山地帯や亜高山帯の林内に生えるが、県南部の雑木林からも確認された。

【特記事項】 クロマツ林に生えるハマカキランは、エゾスズランと形態・DNAの両者において区別できないため、分けられないのが最近の見解である。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○					○	



## 1213 ラン科

(和名) カキラン

(学名) *Epipactis thunbergii* A.Gray埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 過去の確実な生育記録はあるものの、自生地が開発等で失われた後は再発見されておらず、絶滅したものと思われる。

分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 かつては丘陵の湿地に生育していた。

【特記事項】 標本: MAK193798 (1942)、堀江標本2234 (1967)。文献: 磯田2006 (さいたま市)、落合2000 (寄居町)、寄居町教育委員会1997 (寄居町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1214 ラン科

(和名) トラキチラン

(学名) *Epipogium aphyllum* Sw.埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 DD  
2005 DD 1998 DD

全国カテゴリ 2020 EN

【評価所見】 今回の調査を含め近年の生育情報はないが、秩父山地の長野県側では生育が確認されており、本県でも今後再発見される可能性はある。

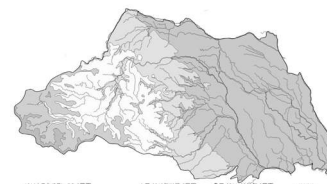
分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本: SMNH-As52225 (1991)、MAK026034 (1904)。文献: 卜沢1999 (秩父山系)、守屋1974 (大滝村)、伊藤1958 (秩父多摩国立公園) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1215 ラン科

(和名) **アオキラン**

(学名) *Epipogium japonicum* Makino

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 CR

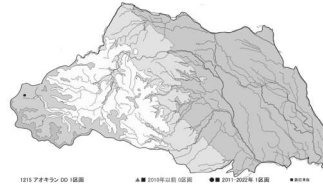
**【評価所見】** 比較的最近生育が確認されたランである。今回の調査で確認されたのは1個体であったが、菌従属栄養植物のため発生個体数が年によって1個体から約100個体と大きく変動する。自生地が1地点であるため、自然遷移や園芸採取によって絶滅する可能性がある。

**【県内生育状況】** 腐植質が多く湿り気のある落葉樹林下に生育する。

**【特記事項】** 国内分布は、東北部から中部地方と限定的でまれ。文献：田留・新井2014（秩父市）

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							



1216 ラン科

(和名) **タシロラン**

(学名) *Epipogium roseum* (D.Don) Lindl.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 DD  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリー 2020 NT

**【評価所見】** 前回調査では詳細な個体数が不明であったが、県南部を中心に近年分布範囲を拡げており、今回の調査では約2,600個体が確認された。暖地系のランであり、温暖化により分布が拡大しているものと考えられる。

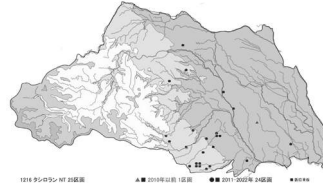
個体数に影響を与える危険要因としては、自然遷移・園芸採取・森林伐採・土地造成等が挙げられる。

**【県内生育状況】** 常緑広葉樹林の林床に生育する。

**【特記事項】** 国内分布は関東以西

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	◎	○	○	○



1217 ラン科

(和名) **カモメラン**

(学名) *Galearis cyclochila* (Franch. et Sav.) Soó

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 NT

**【評価所見】** 今回の調査で新たな自生地が発見されたが、個体数は前回調査の約300個体から半減して150個体ほどであった。

主な危険要因は、園芸採取・シカ食害・自然遷移であるが、森林伐採や動物の踏み付けも懸念される。

**【県内生育状況】** 秩父山地の湿った林内に生育する。

**【特記事項】** 国内分布は本州（中部以北）、四国。標本：SMNH-As49337（1993）、SMNH-As49338（1992）など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							



1218 ラン科

(和名) **マツラン**

(学名) *Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr.

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 VU

**【評価所見】** 県内では最近新たに発見された種である。確認されたのは1地点2個体と極めて少ないため、今後も生育状況を注意深く観察する必要がある。

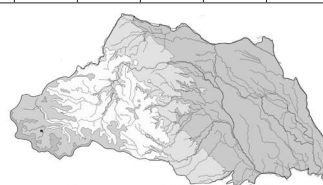
樹木の伐採や園芸採取に加え、自然遷移等が危険要因として考えられる。

**【県内生育状況】** マツや広葉樹の樹幹に着生するランである。

**【特記事項】** 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

**【県内分布状況】**

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							





## 1219 ラン科

〔和名〕アキザキヤツシロラン

〔学名〕*Gastrodia confusa* Honda et Tuyama埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の調査で確認された個体数は前回調査と同様50個体未満である。全体が暗褐色で目立たないランのため今後新たな自生地が発見される可能性がある。

自然遷移が主な危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】 低地帯のモウソウチクの林下に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。文献：清水・愛川2009（越谷市）、加藤2002（鷲宮町）、愛川2001（北葛飾郡）他。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○			◎			○

## 1220 ラン科

〔和名〕オニノヤガラ

〔学名〕*Gastrodia elata* Blume var. *elata*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

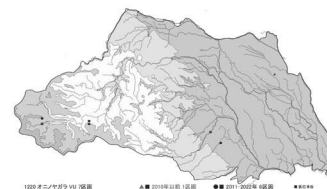
【評価所見】 今回の調査で確認された自生地は5地点で、総個体数は50個体未満と前回と同様であった。菌従属栄養のランで、毎年同所で確認できるとは限らないため情報が少ない種である。危険要因としては、森林伐採等が挙げられる。

【県内生育状況】

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○				○		



## 1221 ラン科

〔和名〕シロテンマ

〔学名〕*Gastrodia elata* Blume var. *pallens* Kitag.埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 CR

【評価所見】 2000年に1個体の生育が確認されていたが、今回の調査では確認できなかった。今後自生地以外の場所も含め再発見される可能性はある。

個体数も生育地も限られており、菌従属栄養植物で毎年同所で確認できるとは限らないため、生育確認の難しい植物である。

【県内生育状況】 落葉樹林内に生えるが、個体数は少なくごくまれである。

【特記事項】 文献：平2004（武甲山）、松山1965（武蔵野（広域））、松山1958（野火止）。オニノヤガラの変種とされているが、独立種とする見解もある。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1222 ラン科

〔和名〕クロヤツシロラン

〔学名〕*Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 最近生育が確認され、個体数は約800個体以上である。小さく目立たないランのため、今後新たな自生地が発見される可能性が高い。

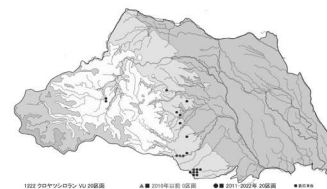
自然遷移・土地造成・踏み付けが主な危険要因と考えられる。

【県内生育状況】 腐植質の多い樹林下に生育する。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As56789（2017）、SMNH-As57001（2018）、SMNH-As57002（2019）。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○	◎	○		



1223 ラン科

〔和名〕ベニシュスラン  
〔学名〕*Goodyera biflora* (Lindl.) Hook.f.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 DD  
2005 なし 1998 なし  
全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回の調査では数十個体であったが、最近新たな自生地が発見され今回約100個体が確認された。各自生地の個体数は少なく、園芸採取・森林伐採・土地造成等が危険要因である。  
【県内生育状況】 樹林下にまれに生育する。  
【特記事項】 標本：SMNH-As49010 (2008)、SMNH-As56631 (2017)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○		○		◎			

1224 ラン科

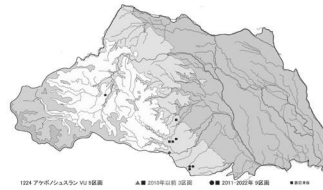
〔和名〕アケボノシュスラン  
〔学名〕*Goodyera henryi* Rolfe

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 EN  
2005 VU 1998 なし  
全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では、約200個体が確認され、前回調査の50個体より増加している。群落を形成することも多いため、森林伐採等によって生育環境が変化すれば、多数の個体が短期間で消滅してしまう可能性がある。  
森林伐採・自然遷移・園芸採取が大きな危険要因として挙げられる。  
【県内生育状況】 やや湿り気のある樹林下に生育する。  
【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○			◎			



1225 ラン科

〔和名〕ツリシュスラン  
〔学名〕*Goodyera pendula* Maxim.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 なし  
2005 なし 1998 なし  
全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 6地点で確認されたが、生育個体数は約100個体と限定的である。生育地ではシカ食害が進行し、林床の希薄化や土壌侵食が顕在化しており、2地点では既に着生木の枯死・倒木が生じているため、今後さらに着生木の生育状況の悪化をきたす恐れがある。視認しづらい着生ランであり本県には元々分布していたと考えられる。危険要因として、産地局限が挙げられる。  
【県内生育状況】 溪畔林や岩角地の落葉広葉樹林に生育するが、沢筋の水飛沫や雲霧で空中湿度が保たれる立地に限定される。  
【特記事項】 標本：SMNH-As53341 (2012)、2004年の岩田

豊太郎による採集標本 (TNS-VS-1351941) が最も古いものである。法令指定状況：特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。葉が卵状楕円形で幅12~15mm、長さ6.5-8mmのものを変種のヒロハツリシュスランとして区別する見解があるが (Maekawa, 1935)、正宗・里見 (1978) に従い品種として扱い、ここでは区別しない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
◎	◎							

1226 ラン科

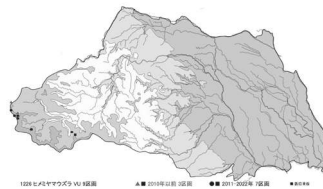
〔和名〕ヒメミヤマウズラ  
〔学名〕*Goodyera repens* (L.) R.Br.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 VU  
全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 秩父山地の亜高山帯に比較的広く分布し、今回の調査では前回と同様約200個体が確認された。シカの食害や踏み付けに加え、自然遷移や倒木による乾燥化等が危険要因として挙げられる。  
【県内生育状況】 針葉樹林内コケ中に生育する。  
【特記事項】 国内分布は中部以北。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
◎	○							



## 1227 ラン科

(和名) ミヤマウズラ

(学名) *Goodyera schlechtendaliana* Rchb.f.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では丘陵と山地の広い範囲で生育が確認された。個体数は前回調査の約200個体よりやや多い約300個体であった。

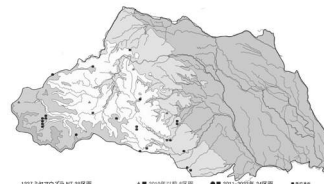
里山のような開発されやすい場所にも生育することから、森林伐採や自然遷移は本種に与える影響が大きく、園芸採取やシカ食害も危険要因である。

【県内生育状況】 樹林下に生える。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○		○			



## 1228 ラン科

(和名) シュスラン

(学名) *Goodyera velutina* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 CR  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回調査では500個体未満であったが、今回は約800個体確認された。群落を形成することが多いため、森林伐採等によって生育環境が変化すれば、多数の個体が短時間で消滅する可能性がある。

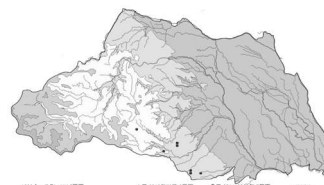
森林伐採・園芸採取・自然遷移・土地造成・踏み付けが危険要因と考えられる。

【県内生育状況】 常緑樹林内に生える。

【特記事項】 国内分布は関東以西。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		◎			



## 1229 ラン科

(和名) テガタチドリ (チドリソウ)

(学名) *Gymnadenia conopsea* (L.) R.Br.埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 かつては奥秩父の亜高山帯草原に生育していたが、1993年に雁坂峠で確認された後は生育確認がなく、絶滅したと思われる。シカの食害や自然遷移等が絶滅の要因と考えられる。

【県内生育状況】 亜高山帯草原に生育していた。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本:伊藤洋ほか1948(狼平・牛王院平・古礼山・雁坂峠)、岩田豊太郎1966(雁坂峠)など。安原修次著「秩父の花」には1991年撮影の写真が掲載されている。文献:卜沢1999(秩父山系)、高橋ほか1994(大滝村)、安原1993(秩父地方)他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1230 ラン科

(和名) ミヤマモジズリ

(学名) *Hemipilia cucullata* (L.) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 秩父地方の山地帯から亜高山帯にかけて広く分布し、個体数は前回調査と同様500個体以上が確認された。本県では石灰岩地に生育することが多いため、石灰岩の採掘は本種個体群に与える影響が大きいと考えられる。また、シカの食害や踏み付け・自然遷移等も危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】 石灰岩地、明るい樹林内、草地に生育する。

【特記事項】 国内分布は四国及び中部以北。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1231 ラン科

(和名) ウチョウラン

(学名) *Hemipilia graminifolia* (Rchb.f.) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa var. *graminifolia*

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】かつては秩父地方を中心に多くの自生地が存在したが、園芸採取によって多くの個体が失われ、現在では手の届かない岩場に生育するだけとなった。今回は秩父山地の岩場で600弱の個体を確認できたものの、前回の700個体より減少した。園芸採取が主な危険要因である。

【県内生育状況】山地の湿った岩壁に生える。

【特記事項】標本：SMNH-As56583 (2016)、SMNH-As49336 (1996) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○						

1232 ラン科

(和名) ニョホウチドリ

(学名) *Hemipilia joo-iokiana* (Makino) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 NT

【評価所見】今回の調査では1地点で確認されただけであり、個体数は約20個体で前回と大きな変化はなかった。園芸採取や自然遷移に加え、シカの食害が主な危険要因である。近年秩父の亜高山帯でもシカの増加が著しく、特に草原の植物に与える影響は大きい。このままの状態を放置すると、貴重な希少植物は近い将来絶滅すると考えられる。

【県内生育状況】秩父山地の明るい草原に生育する。

【特記事項】国内分布は関東周辺。標本：SMNH-As21361 (1969)、SMNH-As54170 (1965) など。文献：岩田2005 (秩父山地)、清水2005 (秩父地方)、岩田ほか2000 (大滝村)、ト沢1999 (秩父山系) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

斐国立公園

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

1233 ラン科

(和名) ムヨウラン

(学名) *Lecanorchis japonica* Blume

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 DD  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

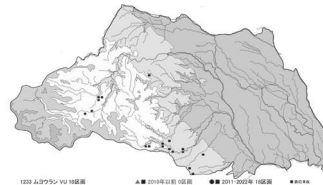
【評価所見】前回の調査では生育確認ができなかったが、今回新たに自生地が発見され300個体以上が確認された。森林伐採・自然遷移・園芸採取・踏み付け・シカ食害が危険要因になると考えられる。

【県内生育状況】腐植質の多い樹林下に生育する。

【特記事項】特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○	○	○	◎			



1234 ラン科

(和名) トサノクロムヨウラン

(学名) *Lecanorchis nigricans* Honda var. *patipetala* Y.Sawa

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

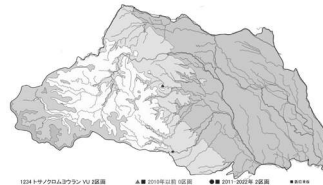
【評価所見】最近生育が確認されたランである。今回の調査では1,000未満の個体が確認されたが、年によって個体数の変動が大きい。1地点に多数個体が生育し群落を形成するため、森林伐採等の危険要因により短期間で消滅することも考えられる。

【県内生育状況】腐植質の多い常緑広葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】以前はクロムヨウランとされていたが、分類学的に最近再検討が行われ、開花するものがトサノクロムヨウラン、閉鎖花のまま花被片が落下するものがクロムヨウランとして整理された (Suetsugu et al., 2018)。本県の個体は開花するトサノクロムヨウランである。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	○			





1235 ラン科

(和名) エンシュウムヨウラン

(学名) *Lecanorchis suginoana* (Tuyama) Seriz.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】最近生育が確認された種である。今回の調査では約1,800個体が確認された。暖地に生育するランであり、温暖化に伴って分布域を拡大しているものと考えられる。

森林伐採・自然遷移・土地造成が大きな危険要因としてあげられる。また踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】腐植質の多い樹林下に生育する。

【特記事項】国内分布は関東・北陸以西。文献：設楽ほか2017（埼玉県）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		◎			



1236 ラン科

(和名) フガクスズムシソウ

(学名) *Liparis fujisanensis* F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】奥秩父の苔むした樹木や岩等に生育する。自生地は1地点のみで、個体数も50個体未満と前回調査とほぼ同数であった。着生する岩の崩落や樹木の枯死に加え、自然遷移や園芸目的による採取等により将来絶滅することが懸念される。

【県内生育状況】苔むした岩上や樹上に生える。

【特記事項】文献：須田ほか2019（県内石灰岩地 文献記録より）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1237 ラン科

(和名) セイタカスズムシソウ

(学名) *Liparis makinoana* Schltr.埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】確実な県内産標本はあるが、ここ数十年間確認されていない。絶滅した可能性が高いと考えられる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】かつて、三峯山に生育していた。

【特記事項】都立大学牧野標本館にMAK192882（秩父三峯1888）の標本が収蔵されている。文献：卜沢ほか1966（大滝村）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1238 ラン科

(和名) ジガバチソウ

(学名) *Liparis krameri* Franch. et Sav. var. *krameri*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

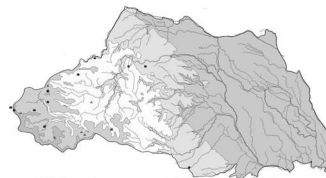
【評価所見】秩父地方やその周辺地域に比較的広く分布し、前回調査とほぼ同数の約200個体の生育が確認された。今回個体数の大きな変化はみられなかったが、標高の低い自生地では園芸採取や森林伐採による影響が危惧される。

【県内生育状況】樹林下に生える。

【特記事項】特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○	◎	○	○	○			



1239 ラン科

〔和名〕クモキリソウ

〔学名〕*Liparis kumokiri* F.Maek.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

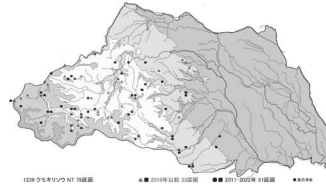
【評価所見】今回の調査では500個体以上の生育を確認したが、前回の約800個体より減少した。かつては山地の林床などで比較的よく見かけるランであったが、園芸採取に加え、自然遷移やシカ食害が危険要因と考えられる。

【県内生育状況】樹林下や林縁に生育する。

【特記事項】特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○	◎	○	○	○	○		



1240 ラン科

〔和名〕スズムシソウ

〔学名〕*Liparis suzumushi* Tsutsumi, T.Yukawa et M. Kato

埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 DD 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】確実な生育記録はあるものの、ここ数十年間確認されていない。絶滅したものと考えられる。

分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】樹林下に生育する。

【特記事項】文献：長瀬町教育委員会1997（長瀬町）、皆野町誌編集委員会1984（皆野町）、伊藤1953（秩父多摩国立公園）等。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1241 ラン科

〔和名〕ホザキイチヨウラン

〔学名〕*Malaxis monophyllos* (L.) Sw.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 VU  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回の調査における生育確認は1地点で、個体数は前回の40個体からほぼ半減して約20個体であった。近年は自生地・個体数ともに減少傾向にある。シカの食害や踏み付けのほか、園芸採取や自然遷移等が危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】

【特記事項】標本：SMNH-As49332（1995）、SMNH-As49331（1994）など。文献：岩田2005（秩父山地）、清水2005（秩父地方）、岩田2002（大滝村）他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

1242 ラン科

〔和名〕ヒメムヨウラン

〔学名〕*Neottia acuminata* Schltr.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 CR  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】今回の調査で確認できたのは50個体、前回調査と大きな変化は見られなかった。葉緑体をもたない菌従属栄養のランで、毎年同所で確認できるとは限らない。危険要因としてはシカの食害や踏み付けに加え、森林伐採や自然遷移等が挙げられる。

【県内生育状況】

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：SMNH-As48285（2002）、SMNH-As49334（1992）。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○							

1243 ラン科

〔和名〕コフタバラン (フタバラン)  
〔学名〕*Neottia cordata* (L.) Rich.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の調査では奥秩父の3地点で確認され、総個体数は前回の約300個体から100個体未満に減少した。国立公園内の針葉樹林内に生育するが、倒木による生育地の乾燥化やシカの食害・踏み付け等が危険要因として考えられる。

【県内生育状況】 針葉樹林内に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As52231 (2004)、SMNH-As49319 (1992)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1244 ラン科

〔和名〕ヒメフタバラン  
〔学名〕*Neottia japonica* (Blume) Szlach.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 本県では2010年に発見された種で、最近生育状況が明らかになりつつある。自生地は県南西部の1地点に極限されているものの、300個体以上の生育を確認した。自生地が限られていることに加え、丘陵で開発されやすい場所であることから、森林伐採や自然遷移が主な危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			

1245 ラン科

〔和名〕アオフタバラン  
〔学名〕*Neottia makinoana* (Ohwi) Szlach.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

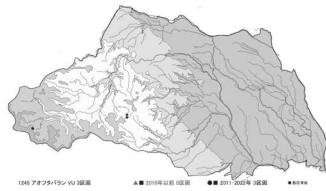
【評価所見】 最近県内での生育が明らかになった種である。今回の調査では3地点で確認され、個体数は300個体以上であった。自生地が限られており、森林伐採・自然遷移・シカの食害等が危険要因として挙げられる。

【県内生育状況】 樹林下に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○					



1246 ラン科

〔和名〕ミヤマフタバラン  
〔学名〕*Neottia nipponica* (Makino) Szlach.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

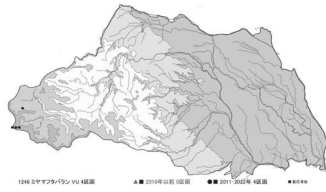
【評価所見】 前回調査では生育確認できなかったが、今回の調査では奥秩父の4地点で100個体以上が確認された。国立公園内の針葉樹林内に生育する。主な危険要因は、倒木による生育地の乾燥化やシカの食害・踏み付け等が挙げられるが、園芸採取の影響も危惧される。

【県内生育状況】 針葉樹林内に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



## 1247 ラン科

(和名) サカネラン

(学名) *Neottia papilligera* Schltr.埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 DD 1998 DD

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】武甲山で採集された標本や生育記録があるが、ここ数十年確認されていない。絶滅したものと思われる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】かつて、武甲山に生育していた。

【特記事項】国内分布は本州中北部、北海道、九州。東京大学に1949年武甲山で採集された標本がある。文献：守屋1970（武甲山）、守屋・小山1957（武甲山）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1248 ラン科

(和名) タカネフタバラン

(学名) *Neottia puberula* (Maxim.) Szlach.埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回の調査では奥秩父の10地点以上で確認され、総個体数は約350個体と前回より200個体ほど増加した。

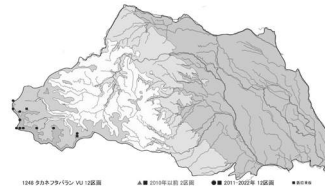
主な危険要因は、倒木による生育地の乾燥化やシカの食害・踏み付け等が挙げられるが、園芸採取も危惧される。

【県内生育状況】針葉樹林内に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



## 1249 ラン科

(和名) ムカゴサイシン

(学名) *Nervilia nipponica* Makino埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】県内では比較的最近生育が確認された種であり、個体数は50個体未満である。森林伐採や自然遷移が危険要因になるものと考えられる。

【県内生育状況】スギ林のやや湿り気のある林床に生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。文献：松山1965（武蔵野（広域））。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			

## 1250 ラン科

(和名) ヨウラクラン

(学名) *Oberonia japonica* (Maxim.) Makino埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EX  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】本種は前版では絶滅とされたが、今回の調査で報告があった。報告のうち、現存するのは4地点、生育個体数は約160個体でともに限定的である。2地点では着生木の枯死や伐採により減少・消滅した。危険要因として、自然遷移が挙げられる。

【県内生育状況】空中湿度の高い山地溪畔林内に生育するが、産地は局限している。シカ食害による林床の希薄化や土壌侵食の進行により、一部枯死するなど、着生木の生育状況が悪化している。

【特記事項】国内分布は本州（宮城以南）、四国、九州。標本：SMNH-As59293（2022）、SMNH-As59293（1978）。法令指

定状況：特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕。2014年に高杉茂により約40年ぶりに再発見された（三村ほか、2023）。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1251 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

〔和名〕 アリドオシラン  
〔学名〕 *Odontochilus japonicus* (Rchb.f.) T.Yukawa

【評価所見】 今回の調査で確認できたのは10個体ほどで、前回の約100個体から大幅に減少した。森林伐採や自然遷移に加え、シカの食害や園芸採取等が危険要因として考えられる。

【県内生育状況】 落葉樹林や針葉樹林内に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

1252 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 EX 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

〔和名〕 ハクウンラン  
〔学名〕 *Odontochilus nakaianus* (F.Maek.) T.Yukawa

【評価所見】 前回調査では分布が限られ約400個体ほどであったが、今回新たな自生地が発見され700個体以上が確認された。個体数の変動が大きい種であり、森林伐採や自然遷移は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 樹林下に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○	○	○	◎			

1253 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

〔和名〕 コケイラン  
〔学名〕 *Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.

【評価所見】 自生地が限られており、個体数もわずかである。前回の調査では確認できなかったが、今回の調査では約10個体が確認された。園芸採取や森林伐採が危険要因である。また、自生地が開発されやすい環境にあるため、今後も継続的な観察が必要と考えられる。

【県内生育状況】 やや湿り気のある樹林下に生育する植物であるが、県内では丘陵帯に生育している。

【特記事項】 標本：SMNH-As49339 (1991)、SMNH-As22201 (1948)。文献：岩田・林2020 (秩父市)、五十嵐・岩田2005 (東大秩父演習林)、岩田2005 (秩父山地) 他。自生地周辺はブナ科樹木萎凋病が多発しており、樹木管理など総合的な保護

対策が必要である。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			

1254 ラン科

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 VU

〔和名〕 ムカデラン  
〔学名〕 *Pelatantheria scolopendrifolia* (Makino) Aver.

【評価所見】 今回の調査で確認されたのは3,000個体以上であり、前回の数百個体より増加した。自生地が限られており、生育する岩盤の剥離や崩落、周囲の樹木の成長による日照不足、園芸採取が危険要因としてあげられる。

【県内生育状況】 日当たりのよい岩盤にまれに生育する。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As51123 (2004)、SMNH-As51122 (1995)。文献：岩田・林2020 (秩父市)、愛川2001 (秩父郡)、卜沢1999 (秩父山系)、皆野町誌編集委員会1984 (皆野町) 他。県内希少野生動物植物種 [埼玉県希少種野生動物植物の種の保護に関する条例]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○						

## 1255 ラン科

(和名) ジンバイソウ

(学名) *Platanthera florentii* Franch. et Sav.埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】2005年以降生育確認できなかったが、今回山地の2地点で約40個体の生育を確認した。自生地が限られ、個体数も少ないため、今後も生育状況を注視する必要がある。主な危険要因としては、園芸採取・森林伐採等が挙げられる。

【県内生育状況】主に山地帯の落葉樹林内に生育するが、過去には亜高山帯でも確認されている。

【特記事項】標本：SMNH-As49371 (1993)、SMNH-As49372

(1990)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

## 1256 ラン科

(和名) ミズチドリ (ジャコウチドリ)

(学名) *Platanthera hologlottis* Maxim.埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】過去に低地の湿地でごく少数の個体が確認されているが、2011年の生育確認以後確実な情報が得られていない。低地の湿地をくまなく調査すれば再発見される可能性がある。園芸採取や湿地開発は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】湿生草原に生育する。

【特記事項】標本は、大井次郎採集 (1951) の越谷市産標本がある。文献：荒川の自然を守る会2011 (上尾市)、岩槻市2005 (岩槻市)、愛川2003 (岩槻市) 他。特別地域指定植

物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

## 1257 ラン科

(和名) オオバナオオヤマサギソウ

(学名) *Platanthera hondoensis* (Ohwi) K.Inoue埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 DD 1998 DD

全国カテゴリー 2020 CR

【評価所見】確実な生育記録はあるものの、ここ数十年間確認されていない。絶滅したものと考えられる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】かつては、三峰山の樹林下に生育していた。

【特記事項】国内分布は本州 (東北・近畿)、四国、九州の冷温帯に限定的。標本：TNS4585 (1892)。文献：埼玉県教育委員会1962 (秩父郡)、守屋1974 (三峯山彙) 等。特別地域

指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1258 ラン科

(和名) イイヌマムカゴ

(学名) *Platanthera iinumae* (Makino) Makino埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 DD 1998 DD

全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】確実な標本や生育記録はあるものの、ここ数十年間確認されていない。絶滅したものと考えられる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

【特記事項】標本は伊藤洋ほか採集 SMNH-As22241 (1948) の秩父郡大滝村産標本がある。文献：埼玉県教育委員会1962 (武甲山)、ト沢美久ほか1966 (毛呂山町)、守屋1987 (武

甲山) 等。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1259 ラン科

(和名) ツレサギソウ

(学名) *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】2005年以後生育の確認がなかったが、今回の調査では3地点において3個体を確認した。危険要因としては、園芸採取・シカ等の食害・森林伐採による環境変化が挙げられる。

【県内生育状況】日当たりのよい草地や明るい林内に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As49374 (1990)、SMNH-As49373

(1988) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○			○					

## 1260 ラン科

(和名) ノヤマトンボ (オオバノトンボソウ)  
(学名) *Platanthera minor* (Miq.) Rchb.f. var. *minor*

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

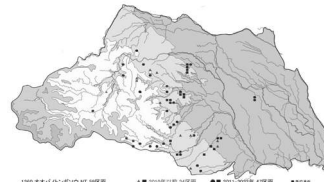
【評価所見】 今回の調査では約600個体が確認され、前回調査とほぼ同数であった。自生地数や個体数に大きな変動はないが、森林伐採・自然遷移・園芸採取・動物食害が危険要因として懸念される。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

【特記事項】 生育地の一部では里山保全管理ボランティア等により保護活動が行われている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	○	◎	○	○	



## 1261 ラン科

(和名) ヒトツバキソチドリ  
(学名) *Platanthera ophrydioides* F.Schmidt var. *monophylla* Honda

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 NT  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回調査では400個体以上の生育が確認されていたが、今回は約200個体に減少した。危険要因としてはシカ食害・自然遷移・園芸採取等に加え、動物の踏み付けも懸念される要因として挙げられる。

【県内生育状況】 針葉樹林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。キソチドリの和名は近年広義 *Platanthera ophrydioides* F.Schmidt に充てられ、本州中部～西部・四国・九州に分布するものを変種のヒトツバキソチドリ、本州中部以北の日本海側と北海道に分布する基本変種 var. *ophrydioides* にオオキソチドリの和名が充てられている (遊川, 2015)。本県の個体はヒトツバキソチドリとな

るため和名をキソチドリから変更した。標本: SMNH-As49358 (1995)、SMNH-As49364 (1994) など。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							

## 1262 ラン科

(和名) オオヤマサギソウ  
(学名) *Platanthera sachalinensis* F.Schmidt

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の調査で確認されたのは10個体未満であり、前回調査と大きな変化はなかった。自生地が3地点と少ないため、シカの食害や自然遷移等により絶滅が危惧される。

【県内生育状況】

【特記事項】 標本: SMNH-As49349 (1995)、SMNH-As49351 (1993) など。文献: 牧野ほか2019 (秩父市)、牧野ほか2008 (秩父市)、岩田2005 (秩父山地) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

## 1263 ラン科

(和名) ミヤマチドリ (ニッコウチドリ)  
(学名) *Platanthera takedae* Makino subsp. *takedae*

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 DD

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 奥秩父の亜高山帯に生育していたが、前回同様今回の調査でも確認できなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 林床や林縁に生育していた。

【特記事項】 国内分布は本州中部以北。標本: SMNH-As22232 (1948)。文献: 牧野1980 (秩父市)、新井1954 (県内山地)、伊藤ほか1950 (奥秩父)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1264 ラン科

〔和名〕 **ホソバノキソチドリ**〔学名〕 *Platanthera tipuloides* (L.f.) Lindl.埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 奥秩父の亜高山帯の草原に生育し、個体数も少ない。前回調査では確実な生育確認ができなかったが、今回の調査では3地点で50個体未満の生育が確認された。埼玉県内には亜高山帯の草原が少ないため、シカの食害や自然遷移により消滅する可能性がある。

【県内生育状況】 日当たりのよい草地に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As49377 (1992)、SMNH-As49376 (1992)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

## 1265 ラン科

〔和名〕 **トンボソウ**〔学名〕 *Platanthera ussuriensis* (Regel et Maack) Maxim.埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 CR  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

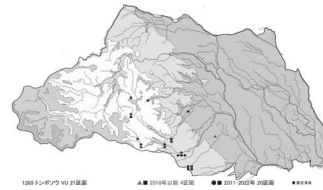
【評価所見】 前回の調査で確認された個体数は約2,300個体であったが、今回の調査では新たな自生地が発見された結果、6,000個体以上の生育が確認された。主要な危険要因としては、森林伐採・自然遷移・湿地開発・踏み付け・園芸採取が挙げられる。

【県内生育状況】 やや湿った樹林下や林縁に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○	○		◎	○		



## 1266 ラン科

〔和名〕 **トキシソウ**〔学名〕 *Pogonia japonica* Rchb.f.埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 NT

【評価所見】 県東北部にある湿地が県内唯一の自生地であり、今回確認された個体数は前回調査の600個体以上から400個体未満とやや減少した。明るい湿地に生育するため、乾燥化や自然遷移による生育環境の悪化に加え、園芸採取が危険要因として考えられる。

【県内生育状況】 日当たりのよい明るい湿地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51121 (1993)。文献：三上2022 (加須市)、加須市環境安全部2016 (加須市)、加須市教育委員会1996 (加須市) 他。自生地は埼玉県の天然記念物に指定されている。侵入樹木の伐採や外来植物の抜き取りなど、生育環境の維持・管理が今後も必要である。県内希少

野生動物植物種 [埼玉県希少種野生動物植物の種の保護に関する条例]。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
								○

## 1267 ラン科

〔和名〕 **ヤマトキシソウ**〔学名〕 *Pogonia minor* (Makino) Makino埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 「1998年版埼玉県植物誌」の記録以後は県内での生育が確認されておらず、絶滅したものと思われる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 かつては、丘陵から山地のやや湿った日当たりのよい草地に生育した。

【特記事項】 標本：堀江標本2246 (1968)。文献：落合2000 (寄居町 消失)、高橋1991 (寄居町)、桶川市1987 (桶川市)、寄居町教育委員会1986 (寄居町)、堀江ほか1982 (熊谷市) 他等。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1268 ラン科

(和名) クモラン

(学名) *Taeniophyllum glandulosum* Blume

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回調査では生育確認ができなかったが、今回の調査で約20個体を確認することができた。両自生地とも人家近くにあり、着生ランであることから樹木の伐採が最大の危険要因である。

【県内生育状況】 湿度が高く日当たりのよい樹上に放射線状に多数の根を伸ばして着生する。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As51127 (1998)。文献：卜沢1999 (秩父山系)、江森1971 (奥武蔵～秩父)、桧山1965 (武蔵野 (広域))。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			

1269 ラン科

(和名) カヤラン

(学名) *Thrixspermum japonicum* (Miq.) Rchb.f.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

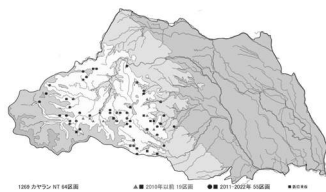
【評価所見】 木の枝等に着生するため発見しづらいランであるが、今回の調査では約450個体が確認された。前回の340個体より増加しているが、森林伐採・自然遷移・園芸採取が危険要因として懸念される。

【県内生育状況】 湿度が高く、適度に陽のあたるスギやウメ等の樹幹に長い根によりぶら下がり着生する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	◎	○	○	○			



1270 ラン科

(和名) ヒトツボクロ

(学名) *Tipularia japonica* Matsum.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の調査で確認された個体数は約30個体であり前回調査と大きな変動はなかった。森林伐採や自然遷移が主な危険要因と考えられるが、シカによる食害も懸念される。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林等の林床に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As53348 (2005)、SMNH-As21403 (1970)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○		○					

1271 ラン科

(和名) キバナノショウキラン

(学名) *Yoania amagiensis* Nakai et F.Maek.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 DD  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 EN

【評価所見】 今回の調査では約30個体が確認された。前回は10個体であったが、葉緑体のない菌従属栄養植物のため、個体数は年によって変動がある。危険要因としては、動物の踏み付けや森林伐採等が考えられる。

【県内生育状況】 落葉広葉樹内やスギ等の植林地内に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As53350 (2005)、SMNH-As56635,56636 (2017)、SMNH-As56841 (2018) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○	○					

1272 ラン科

〔和名〕 ショウキラン

〔学名〕 *Yuania japonica* Maxim.

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 DD  
2005 CR 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の調査を含め最近の生育情報はないが、今後再発見される可能性はある。菌従属栄養植物で確実な生育情報を得ることが難しいため、今後も調査を継続する必要がある。

分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

【特記事項】 標本：SMNH-As21405 (1967) 岩田豊太郎採集の武甲山産標本がある。文献：愛川ほか1989 (小鹿野町)、守屋1987 (武甲山)、奥山1974 (武甲山) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1273 アヤメ科

〔和名〕 ノハナショウブ

〔学名〕 *Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

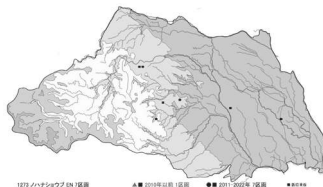
【評価所見】 前回1地点・1個体が確認され、今回6地点で90個体程度が確認された。自然遷移が大きな危険要因となっている。また湿地開発、園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 湿地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As21214 (1984)、SMNH-As25475 (1980)。文献：牧野2021 (さいたま市)、牧野・田島2019 (坂戸市)、荒川の自然を守る会2011 (上尾市) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
			○	◎	◎		◎	



1274 アヤメ科

〔和名〕 ヒメシャガ

〔学名〕 *Iris gracilipes* A.Gray

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 NT

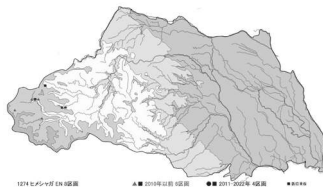
【評価所見】 前回3地点・500個体程度確認され、今回3地点で400個体程度が確認された。園芸採取、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 樹林下に生育し、石灰岩地の疎林下に生育する傾向がみられる。

【特記事項】 標本：SMNH-As56605 (2013)、SMNH-As24415 (1981)。文献：岩田2007 (秩父市大滝)、守屋1987 (武甲山) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○	○						



1275 アヤメ科

〔和名〕 カキツバタ

〔学名〕 *Iris laevigata* Fisch.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 NT

【評価所見】 前回1地点・数個体確認され、今回は2地点で個体数100未満と確認された。調査にともない前回より確認生育地点が増えているが、いくつかは園芸品栽培・逸出の可能性が高い。園芸採取は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As52438 (2005)。文献：三上2022 (加須市浮野)、内田2020 (東松山市)、長谷川2015 (入間市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
								○

**1276 アヤメ科**

埼玉カテゴリ **2024 VU 2011 NT**  
**2005 VU 1998 VU**

【和名】 **アヤメ**

【学名】 *Iris sanguinea* Hornem. var. *sanguinea*

全国カテゴリ **2020 なし**

【評価所見】 前回の確認個体数は100未満だったが、今回の確認個体数は1,000未満、1地点あたりの確認個体数は50未満だった。シカ食害や園芸採取、自然遷移などが本種の存続を脅かす危険要因と考えられる。

【県内生育状況】 やや乾いた草原などに生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○	◎	○	◎				

**1277 ススキノキ科**

埼玉カテゴリ **2024 VU 2011 VU**  
**2005 なし 1998 EN**

【和名】 **ゼンテイカ (ニッコウキスゲ)**

【学名】 *Hemerocallis middendorffii* Trautv. et C.A.Mey. var. *esculenta* (Koidz.) Ohwi

全国カテゴリ **2020 なし**

【評価所見】 確認された二次メッシュは6区画、地点数は11、個体数は10,000未満で、前回も10,000未満だった。確認された個体の多くは、岩壁の上部などだった。園芸採取、自然遷移の他、動物食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 岩場などに生育する。本県では石灰岩地や蛇紋岩地での確認個体数が多い。

【特記事項】 前版では和名をニッコウキスゲ(ゼンテイカ)としていた。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○	○				

**1278 ヒガンバナ科**

埼玉カテゴリ **2024 EN 2011 EN**  
**2005 EN 1998 VU**

【和名】 **ステゴビル**

【学名】 *Allium inutile* Makino

全国カテゴリ **2020 VU**

【評価所見】 確認された二次メッシュは3区画、個体数は10,000以上で、前回も10,000以上だった。下草刈りなどの手入れがされている生育地では個体数は多いが、そうでない生育地は減少傾向である。本種の維持には人為的な管理が重要である。自然遷移、土地造成、管理放棄、森林伐採、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 原野に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州(宮城から広島)・香川で限定的。標本: SMNH-As56806 (2017)、SMNH-As42142 (1978)、坂標本(岩田1990)など。県指定天然記念物「久那のステゴビル(秩父市)」「ステゴビル(坂戸市)」。秩父市指定天然記念物「滝坂のステゴビル」。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		◎	○	○	○	○		

**1279 ヒガンバナ科**

埼玉カテゴリ **2024 NT 2011 NT**  
**2005 NT 1998 なし**

【和名】 **ヒメニラ**

【学名】 *Allium monanthum* Maxim.

全国カテゴリ **2020 なし**

【評価所見】 前回23地点・3,000個体程度が確認され、今回は36地点で8,000個体程度が確認された。森林伐採、シカやその他の動物食害、自然遷移、土地造成が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 湿った傾斜地や湿地に生育する。

【特記事項】 文献: 岩田・林2020(牛首峠・弟富士山・白石山他)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎	○	○	○			

1280 ヒガンバナ科

(和名) **ミヤマラッキョウ**  
 (学名) *Allium splendens* Willd. ex Schult. et Schult.f.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
 2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 確認された二次メッシュは1区画、地点数は1、個体数は100未満で前回の1,000未満から減少した。前回調査時と同じ場所で確認された。生育地はシカ食害が激しく、植生の減少に伴う乾燥化が危険要因である。県内の分布は限られており、今後の動態を注視する必要がある。シカ食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 石灰岩の礫地に生育するが、県内では亜高山帯～丘陵帯の日当たりのよい石灰岩地、岩壁や草地などに生育している。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As20409 (1973)、岩田標本50099 (1997)。文献：岩田・林2020 (秩父市中津川)、須田ほか2019 (県内石灰岩地)、岩田2005 (秩父山地) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

1281 ヒガンバナ科

(和名) **ヤマラッキョウ**  
 (学名) *Allium thunbergii* G.Don

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 VU  
 2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回確認できず、今回は7地点・100個体程度が確認された。草地開発が大きな危険要因となっている。また踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 草原に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As52199 (1999)、SMNH-As42134 (1985) など。文献：山下ほか2020 (飯能市)、牧野2019 (横瀬町)、岩田2005 (秩父山地)、落合2000 (寄居町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○					◎			○

1282 ヒガンバナ科

(和名) **ギョウジャニンニク**  
 (学名) *Allium victorialis* L. subsp. *platyphyllum* Hultén

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN  
 2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回は山地帯で1ヶ所見つかっていたが今回消失していた。今回、別の1地点で数個体確認された。シカ食害、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林床に生育する。

【特記事項】 標本：仮標本 (岩田1988)。文献：平ほか2005 (神泉村)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○				

1283 ヒガンバナ科

(和名) **オオキツネノカミソリ**  
 (学名) *Lycoris sanguinea* Maxim. var. *kiushiana* T.Koyama

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 なし  
 2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回1地点・20個体程度が確認された。分類上不明な点が多く、継続して確認が必要。園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：仮標本 (犬塚1994)。文献：落合2000 (寄居町)、山下1987 (小鹿野町)、寄居町教育委員会1986 (寄居町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			



1284 クサスギカズラ科

〔和名〕キジカクシ

〔学名〕*Asparagus schoberioides* Kunth

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

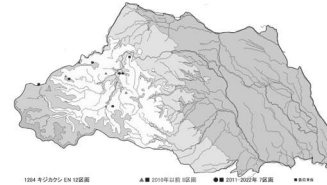
【評価所見】前回8地点で200個体程度が確認され、今回は7地点で40個体程度が確認され、減少傾向にあった。森林伐採、シカ食害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】草原に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As20424 (1986)、SMNH-As20423 (1986) など。文献：岩田・林2020 (小鹿野町白石山)、大塚ほか2014 (皆野町) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○	○				



1285 クサスギカズラ科

〔和名〕スズラン

〔学名〕*Convallaria majalis* L. var. *manshurica* Kom.

埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 なし 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回は確認できず、今回生育の可能性が示唆されたが最終的に確認できなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

【特記事項】標本：仮標本 (落合1995、1996)。文献：五十嵐ほか2016 (秩父市)、落合2000 (寄居町) 長瀬町教育委員会1997 (長瀬町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1286 クサスギカズラ科

〔和名〕コヤブラン

〔学名〕*Liriope spicata* Lour.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

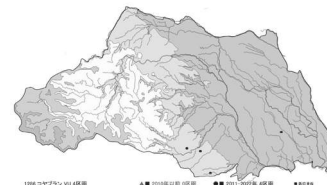
【評価所見】今回5地点で100個体程度確認された。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】林床に群生する。

【特記事項】国内分布は関東南部・北陸以西。標本：SMNH-As55651 (1995)、SMNH-As52208 (2003) など。文献：木村2020 (さいたま市)、長谷川2019 (入間市)、牧野ほか2018 (上尾市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○		○	



1287 クサスギカズラ科

〔和名〕ヒメマイヅルソウ

〔学名〕*Maianthemum bifolium* (L.) F.W.Schmidt

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 DD  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前回1地点で生育情報があったが未確認であった。今回は1地点で数個体確認された。自然遷移、踏みつけ等が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】針葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：矢島標本YT1472 (2004)。文献：岩田1987 (秩父山系)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1288 クサスギカズラ科

(和名) ワニグチソウ

(学名) *Polygonatum involucratum* (Franch. et Sav.) Maxim.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

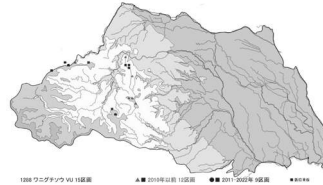
【評価所見】 前回13地点で800個体程度が確認され、今回は13地点で500個体程度が確認された。園芸採取、シカやその他の動物食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 落葉広葉樹の林床に生育する。

【特記事項】 文献：岩田2021（横瀬町）、岩田・林2020（皆野町ほか登谷山・出牛峠・城峰山・大霧山）、木村2020（さいたま市）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	◎	○	○					



1289 ミズアオイ科

(和名) ミズアオイ

(学名) *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 CR  
2005 EN 1998 CR

全国カテゴリー 2020 NT

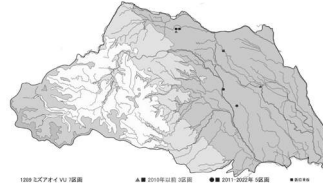
【評価所見】 前回1地点で20個体程度の報告があり、今回は新産地が見つかり4地点で300個体程度が確認された。自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地に生育する。多くの生育地では保護育成が行われており、個体数は発見当初より増加している。

【特記事項】 文献：加須市環境安全部2016（加須市）、荒川の自然を守る会2011（上尾市）、2006磯田（さいたま市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
							○	○



1290 ガマ科

(和名) ミクリ

(学名) *Sparganium erectum* L.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリー 2020 NT

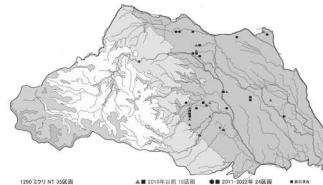
【評価所見】 今回の確認個体数は3,400以上で前回は4,500以上である。継続発見に加えて新規に確認された地点も含まれており、明らかな減少傾向は認められない。水質汚濁、河川改修及び自然遷移をはじめとするの多数の危険要因があるため、今後も注視していく必要がある。

【県内生育状況】 池沼・小河川に分布する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○	◎	○	○



1291 ガマ科

(和名) ヤマトミクリ

(学名) *Sparganium fallax* Graebn.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリー 2020 NT

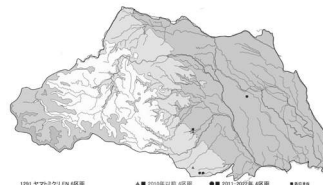
【評価所見】 前回の確認個体数は1,200未満であったが、今回の確認個体数は700未満であった。今回の調査結果でも4地点の報告があり、一定の個体数を維持していることが分かった。池沼開発、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 沼や小河川に分布する。県内ではミクリよりも生育地が限定されている状態である。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As53271（2005）、SMNH-As40664（1982）、仮標本（藤田1994）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○	○	○	



**1292 ガマ科**

(和名) **ナガエミクリ**

(学名) *Sparganium japonicum* Rothert

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 今回の確認個体数は4,800以上で前回は4,200以上である。県内では和光・鶴ヶ島・熊谷で確認されている。確認地点数はミクリより少なく、ヤマトミクリより多い。河川改修、水質汚濁が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 水質の良い、流れのある水路や河川に生育する。

【特記事項】 確認された生育地の大半は保護地以外であり、道脇水路や河川であった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						◎		○

**1293 ホシクサ科**

(和名) **ヒロハノイヌノヒゲ (ヒロハイヌノヒゲ)**

(学名) *Eriocaulon alpestre* Hook.f. et Thomson ex Körn.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は低地で3地点500株前後、今回は5地点400株の報告があった。報告地点数はわずかで個体数は少ない。同レベルを維持しているかやや減少とみることができ、危険度は同評価となった。湿地開発、農薬汚染、管理放棄は懸念される危険要因となる。土地改変による生育環境の激変で急に消滅する危険をはらんでおり、生育地によっては間近に土地造成工事が迫っており楽観を許さない。

【県内生育状況】 水田や湿地に生育する。本種は休耕田のような湿地や畔が生育地である。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○		○	

**1294 ホシクサ科**

(和名) **クロイヌノヒゲ**

(学名) *Eriocaulon atrum* Nakai

埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 DD 1998 なし

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 前回は発見できなかったが、今回調査でも発見には至らなかった。生育情報が入手できていない。1998年以降確実な生育確認がないことにより前版では絶滅EXと判定されてきたが今回も同じ結果となった。発見できないため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 水田や湿地に生育する。

【特記事項】 文献：埼玉県教育委員会編1962（北足立郡）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

**1295 ホシクサ科**

(和名) **ホシクサ**

(学名) *Eriocaulon cinereum* R.Br.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は5地点8,000株、そして今回は13地点9,000株の報告があった。報告地点数がふえ、分布域が広がりを見せている。全体としてはやや増加の傾向が認められる。農薬汚染、管理放棄、自然遷移、埋め立てが大きな危険要因となっている。また踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 湿り気の多い裸地に群落をつくる。生育地の多くは水田・休耕田である。生育確認水田では多くの個体が確認できても畝を隔てた隣接水田には全くないことがあり、分布の仕方が他種にはない特性がある。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	◎		○	○

## 1296 ホシクサ科

(和名) イトイヌノヒゲ

(学名) *Eriocaulon decemflorum* Maxim.埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回は1地点600株、そして今回も同所で300株の報告があった。個体数は減少傾向にあると推定する。湿地開発は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 休耕田の畔に沿って数メートルの範囲に生育する。長期にわたり生育環境は守られてきたが懸念される課題が浮上している。1つは周辺まで開発(土地造成)が迫っていること、もう1つは永年続いてきた休耕田を耕作しようとする動きがあることである。

【特記事項】 標本: SMNH-As52063 (2004)、SMNH-As39739 (1986) など。文献: 伊藤 編1998 (寄居町)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			

## 1297 ホシクサ科

(和名) コシガヤホシクサ

(学名) *Eriocaulon heleocharioides* Satake埼玉カテゴリー 2024 EX 2011 EX  
2005 EX 1998 EX

全国カテゴリー 2020 EW

【評価所見】 前回は未発見、今回調査でも発見には至らなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 湿地を生育適地とする。

【特記事項】 国内分布は茨城県、埼玉県越谷市(移植品)。標本: TNS59300 (越谷1938)。文献: 桧山1965 (武蔵野(広域))、埼玉県教育委員会1962 (越谷)。越谷市においてコシガヤホシクサの野生復帰に取り組む活動が知られている。EWと評価するには県内産の自生品が移植保護されていることを要件とするのでその検証が望まれる。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

## 1298 ホシクサ科

(和名) イヌノヒゲ

(学名) *Eriocaulon miquelianum* Körn. var. *miquelianum*埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

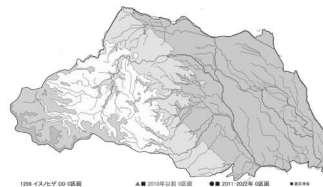
【評価所見】 今回調査では発見に至らなかった。過去の記録によれば低山西、丘陵北、荒川西台地に分布していた。現段階では生育未確認だが消滅したと判定するのは早計であり継続調査をするのが適切である。減少の要因は情報が不足して判断できない。

【県内生育状況】 田の畔など湿地が生育適地である。

【特記事項】 標本: MAK108215 (飯能1937)。文献: 埼玉県野鳥の会1991 (上尾市)、高橋・山下1989 (飯能市)、草加市史編さん委員会1988 (草加市)、寄居町教育委員会町史編さん室1986 (寄居町)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



## 1299 ホシクサ科

(和名) ニッポンイヌノヒゲ

(学名) *Eriocaulon taquetii* Lecomte埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回は発見報告がなかったが、今回調査では1地点20株の報告があった。個体数は極めて少ないといえる。絶滅の危険度は徐々に高くなっている。湿地開発は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 田の畔など湿地が生育適地である。

【特記事項】 標本: SMNH-As39745 (1985)、SMNH-As39746 (1985)、MAK108156 (1937) など。文献: 荒川の自然を守る会2011 (上尾市)、山下2003 (小川町)、岩田2002 (秩父市) 他。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			



## 1300 イグサ科

(和名) イトイ

(学名) *Juncus maximowiczii* Buchenau埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は亜高山帯で4地点1,600株、そして今回は前回とは異なる場所の亜高山帯で4地点700株の報告があった。報告地点数は少なく、個体数は減少しているといえる。森林伐採、シカ食害、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿った岩上に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州中部に限定的。標本：SMNH-As20352 (1984)、SMNH-As20351 (1983) など。文献：岩田・林20 (秩父市)、岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか2000 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

## 1301 イグサ科

(和名) アオコウガイゼキショウ

(学名) *Juncus papillosus* Franch. et Sav.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 2地点70株の報告があった。二次メッシュ区画も2区画である。個体数の少ない種といえる。生育地が隔離している。湿地開発、河川改修等は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 休耕田、河川敷や池辺の湿地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As48310 (1998)、SMNH-As24416 (1980) など多数。文献：三上2022 (浮野)。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			○



## 1302 カヤツリグサ科

(和名) ハタガヤ

(学名) *Bulbostylis barbata* (Rottb.) Kunth埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

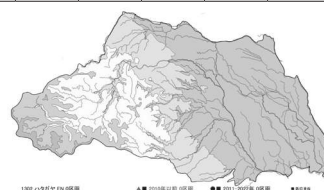
【評価所見】 前回は未発見、今回調査でも未発見であった。個体数については情報が不足しており推定できない。今回調査では発見できなかったが絶滅したとは言い切れず、評価については判断資料が不足しており、継続調査により生育の実態を明らかにする必要がある。

【県内生育状況】 休耕田や湿地の砂礫を多く含む土壌を好む傾向がある。

【特記事項】 標本：SMNH-As45777 (1994)、SMNH-As43010 (1954)。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1303 カヤツリグサ科

(和名) イトテンツキ (クロハタガヤ)

(学名) *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 NT

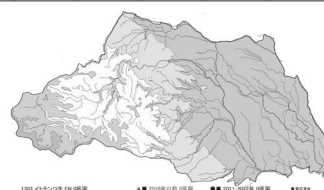
【評価所見】 前回は未発見、今回調査でも発見できなかった。個体数については判断材料が乏しく推定できない。継続調査によって生育の実態を一層明らかにする必要がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 一般的には芝地や公園・田畑に生育する。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As43924 (1993)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1304 カヤツリグサ科

〔和名〕 トダスゲ (アワスゲ)

〔学名〕 *Carex aequialta* Kük.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 CR

【評価所見】 今回の確認個体数は1,000未満であり、前回の1,200未満よりも減少した。3地点の報告があり、いずれも低地に生育するため開発圧力が強い。自然遷移、管理放棄が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 氾濫原や旧河川敷などの湿った草地に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州（関東・近畿）、九州北部で限定的。標本：SMNH-As47200（1995）、SMNH-As56133（1993）など。文献：木村2020（さいたま市）、磯田2006（さいたま市）、磯田1990（浦和市）他。生育地である、さいたま市のサクラソウ自生地は、国指定特別天然記念物である。県内希少野生

動植物種 [埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	

1305 カヤツリグサ科

〔和名〕 ザラツキシラスゲ (チチブシラスゲ)

〔学名〕 *Carex albidibasis* T.Koyama

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリー 2020 CR

【評価所見】 今回の確認個体数は400未満であり、前回は確認されなかった。3地点の報告があり、生育する標高帯が限られていた。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっており、道路工事による減少も懸念される。

【県内生育状況】 河原や林道脇などの礫地に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東周辺（埼玉・栃木・山梨・長野）に限定的。標本：SMNH-As45265（1996）、SMNH-As47196（1992）など。文献：岩田・林2020（秩父市）、須田ほか2019（県内石灰岩地）、岩田2005（秩父山地）他。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]。別名のチチブシラスゲは、本県の故ト沢美久氏の採集品に基づいてヒカゲシラスゲの変

種として発表された。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1306 カヤツリグサ科

〔和名〕 クロカワズスゲ

〔学名〕 *Carex arenicola* F.Schmidt

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

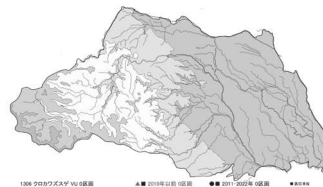
【評価所見】 もともと個体数や集団数が極端に少なく、今回、前回ともに調査では未確認だった。判断資料が不足しており、今回も前回と同評価とした。分布未確認のため危険要因は不明である。

【県内生育状況】 川岸などの日当たりのよい低茎草地や半裸地状の砂質地に生育していることが多く、植生遷移の進行や増水による生育地自体の消失などの危険性も考えられる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1307 カヤツリグサ科

〔和名〕 ヒラギシスゲ

〔学名〕 *Carex augustinowiczii* Meinsh, ex Korsh. var. *augustinowiczii*

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

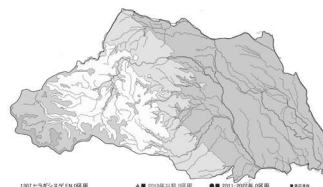
【評価所見】 もともと個体数や集団数が極端に少なく、今回、前回ともに調査では未確認だった。生育環境に変化がなく、判断資料が不足しているため、継続調査により生育の実態を明らかにする必要がある。分布未確認のため危険要因は不明である。

【県内生育状況】 溪畔に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As45748（1993）。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1308 カヤツリグサ科

(和名) マツバスゲ

(学名) *Carex biwensis* Franch.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】確認個体数は300未満で、12地点の報告があった。隣接都県で絶滅危惧種となっており、丘陵地に生育することから開発圧力が強い。自然遷移が大きな危険要因となる。

【県内生育状況】休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】比較的低茎の植物であり、休耕田では草刈りなどの定期的な管理が必要と考えられる。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	◎			



## 1309 カヤツリグサ科

(和名) アワボスゲ

(学名) *Carex brownii* Tuck.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

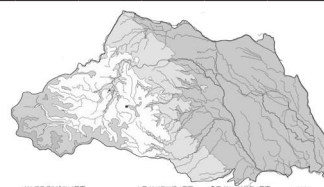
【評価所見】今回、前回ともに現地調査では未確認だったが、聞き取りにより1地点の生育が報告された。生育環境から、自然遷移、管理放棄が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】丘陵地の谷戸や湿った土手草地などに生育する。土手草地などに生育する場合は、草刈りなどの植生管理が必要となる。

【特記事項】標本：SMNH-As43703 (1995)、SMNH-As43702 (1995) など。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



## 1310 カヤツリグサ科

(和名) ジョウロウスゲ

(学名) *Carex capricornis* Meish. ex Maxim.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 CR  
2005 CR 1998 EN

全国カテゴリ 2020 VU

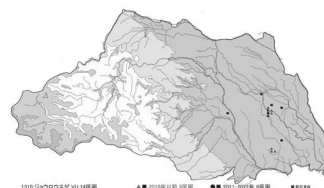
【評価所見】今回の確認個体数は4,500未満であり、前回の8,000未満よりも減少、8地点の報告があった。生育地がいずれも低地のため、開発圧力が強い。湿地開発、農薬汚染、園芸採取、池沼開発、埋め立てが大きな危険要因となる。

【県内生育状況】川岸や池畔などの湿地に生育する。増水や造成により出現した半裸地状の湿地にも生育する先駆的な植物でもあり、自然遷移により消失も考えられる。

【特記事項】国内分布は関東以北

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	◎	



## 1311 カヤツリグサ科

(和名) チャシバスゲ

(学名) *Carex caryophylla* Latour. var. *microtricha* (Franch.) Kük.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

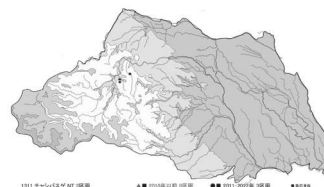
【評価所見】確認個体数は800未満で、3地点の報告があった。鐵ほか (2021b) により、本県での分布が初めて認識された植物であり、懸念される危険要因は不明である。

【県内生育状況】草地や明るい疎林内に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。文献：鐵ほか (2021b)。鐵ほか (2021b) では、本種の生育と採草や放牧などの人的管理の関係を考察しており、自然遷移や管理放棄が危険要因となる可能性が考えられる。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



1312 カヤツリグサ科

(和名) ヌマアゼスゲ

(学名) *Carex cinerascens* Kük.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 CR  
2005 EN 1998 EN

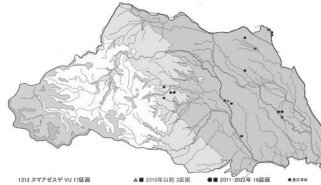
全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 今回の確認個体数は17,000未満であり、前回の6,000未満から大きく増加し、16地点の報告があった。群生するために個体数は多く、集団数もある程度みられるが、生育地が低地に限定されるため、開発圧力が強い。自然遷移、管理放棄が大きな危険要因となるほか、河川敷開発、産地極限、池沼開発による減少も懸念される。

【県内生育状況】 河川低水敷や池畔、浅い池沼などに生育する。  
【特記事項】 国内分布は本州（関東・宮城）で限定的。個体数や集団数の増加は、本種に対する認識の広まりが影響したと考えられる。生育地には、トネハナヤスリやエキサイゼリなど、他の絶滅危惧植物もみられるため、注意が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	◎



1313 カヤツリグサ科

(和名) コタヌキラン

(学名) *Carex doenitzii* Boeck.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は350未満で前回と同じであり、2地点の報告があった。特異な環境に生育しており、今回の調査でも個体数、集団数ともに少なかった。また、開発圧力が比較的強い地点でも確認された。確認報告が少なく情報が不足しており、危険要因は不明である。

【県内生育状況】 岩場に生育する。  
【特記事項】 国内分布は中部以北、奈良、屋久島。生育地が岩場であることから、シカ食害の影響は低いと考えられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1314 カヤツリグサ科

(和名) サナギスゲ

(学名) *Carex grallatoria* Maxim. var. *heteroclita* (Franch.) Kük. ex Matsum.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

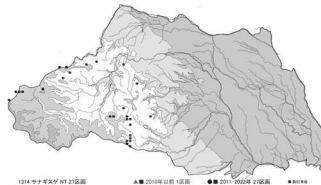
全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は1,000未満であり、前回の100未満から大きく増加し、27地点の報告があった。特異な環境に生育しており、懸念される危険要因は確認できなかった。

【県内生育状況】 表土の薄い尾根や乾燥した岩場などに生育する。  
【特記事項】 国内分布は岩手以南。根茎が伸びてマット状に生えるヒナスゲと異なり、本変種は根茎が短くて緩く叢生し、葉もやや広いなどの違いがある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	○	◎					



1315 カヤツリグサ科

(和名) ヤマアゼスゲ

(学名) *Carex heterolepis* Bunge

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

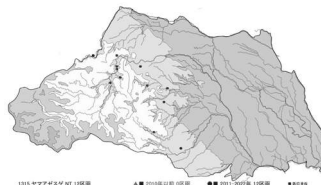
全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回は確認されなかったが、今回の確認個体数は700未満であり、12地点の報告があった。スゲ属植物の中でも、比較的果胞が落ちやすく、確認時期が限られる植物である。河川改修、自然遷移が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 河川の上・中流域の川岸や池沼の岸辺に生育する。  
【特記事項】 全草がよく似たタニガワスゲとは、果胞の嘴が短くて、その縁がざらつかないことで見分けられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		◎	○			





**1316 カヤツリグサ科**

(和名) **ツクバスゲ**  
(学名) *Carex hirtifructus* Kük.

埼玉カテゴリ **2024 NT 2011 NT**  
**2005 EN 1998 なし**

全国カテゴリ **2020 なし**

【評価所見】今回の確認個体数は2,000未満であり、前回の2,500前後よりも減少し、15地点の報告があった。今回の調査では集団数・増減比に不確定部分があり、評価が確定できないため、継続して確認が必要。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となる。また石灰岩採掘による減少も懸念される。

【県内生育状況】岩場に生育する。

【特記事項】本県では、尾根部の岩場以外に石灰岩地に生育していることも多い。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	◎	○						

**1317 カヤツリグサ科**

(和名) **ウマスゲ**  
(学名) *Carex idzuroei* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ **2024 NT 2011 NT**  
**2005 NT 1998 なし**

全国カテゴリ **2020 なし**

【評価所見】今回の確認個体数は3,000未満であり、前回の800未満よりも増加し、19地点の報告があった。集団数は増えたものの、個体数や増減比の把握に不確定部分があり、評価が確定できないため、継続して確認が必要。自然遷移、河川敷開発が大きな危険要因となる。また池沼開発、河川改修、土地造成による減少も懸念された。

【県内生育状況】川岸や池沼の水際などに生育する。

【特記事項】国内分布は関東以西。匍枝を伸ばして群生することから個体数は多いが、分布は開発圧力が強い低地に限られていた。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	◎	○

**1318 カヤツリグサ科**

(和名) **クジュウツリスゲ**  
(学名) *Carex kujuzana* Ohwi

埼玉カテゴリ **2024 VU 2011 なし**  
**2005 なし 1998 なし**

全国カテゴリ **2020 NT**

【評価所見】確認個体数は3,500前後で、3地点の報告があった。鐵ほか(2021a)により、本県での分布が初めて認識された植物である。自然遷移、管理放棄が危険要因となり、開花・結実集団の減少も懸念される。

【県内生育状況】草地や明るい落葉樹林内に生育する。

【特記事項】国内分布は本州中北部・九州山地の草原。文献：鐵ほか(2021a)。花期や果期には全体が緑白色だが、その後は徐々に葉の色が変化し、有花茎も倒伏して確認しづらくなり、花茎をつけない個体も多い。鐵ほか(2021a)では、本種の生育に植生管理が不可欠であると指摘している。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
		○						

**1319 カヤツリグサ科**

(和名) **オオアオスゲ**  
(学名) *Carex lonchophora* Ohwi

埼玉カテゴリ **2024 VU 2011 なし**  
**2005 なし 1998 なし**

全国カテゴリ **2020 なし**

【評価所見】確認個体数は350未満で、2地点の報告があった。比較的近年になり一般に認識されるようになった植物であり、個体数、集団数ともに少ない。低地に生育することから開発圧力が強く、土地造成、道路工事が危険要因となる。

【県内生育状況】疎林内、林縁部に生育する。

【特記事項】国内分布は北陸・関東以西。土砂を搬入した造成地や道路脇などに生えることもあり、自生を疑うような個体もみられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			

1320 カヤツリグサ科

(和名) ヒエスゲ

(学名) *Carex longirostrata* C.A.Mey. var. *longirostrata*

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

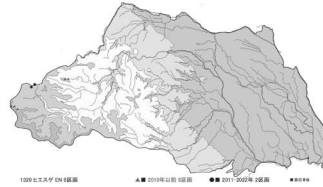
【評価所見】 今回の確認個体数は50未満であり、前回の150前後よりも減少し、報告も2地点だった。もともと個体数と集団数が極端に少ないが、今回の調査では個体数の把握に不確定部分があり、評価が確定できないため、継続して確認が必要。シカ食害および産地極限が危険要因となる。

【県内生育状況】 草地や石灰岩地の岩場、やせた尾根部などに生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As56585 (2016)、SMNH-As52730 (2004) など。長い匍枝を出して疎生する変種をチュウゼンジスゲという。本県には短い匍枝を出しチュウゼンジスゲに類似するものがあるが、今回はヒエスゲに含めて扱った。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							



1321 カヤツリグサ科

(和名) タチスゲ

(学名) *Carex maculata* Boott var. *maculata*

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

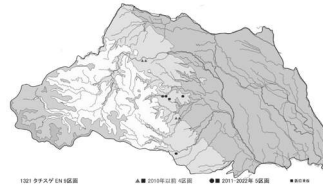
【評価所見】 今回の確認個体数は前回同様に110未満であり、5地点の報告があった。個体数や集団数などに変化はないが、開発圧力や採食圧が強まった。自然遷移、管理放棄、産地極限が危険要因となる。

【県内生育状況】 丘陵地や谷津田周辺の湿った草地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As47188 (1995)。丘陵地や谷津田周辺に生育する本種の採食圧の高まりは、動物による食害の影響が人里により近づいたことを示していると考えられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			



1322 カヤツリグサ科

(和名) ヌカスゲ

(学名) *Carex mitrata* Franch. var. *mitrata*

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 VU  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 前回は2地点で確認されたが、今回は文献により1地点の生育が報告されたのみであった。個体数・集団数が極端に少ないと考えられ、道路工事や管理放棄、自然遷移が危険要因となる。

【県内生育状況】 道路脇の石垣や法面草地などに生育する。

【特記事項】 国内分布は関東・北陸以西。標本：SMNH-As52733 (2003)、SMNH-As47007 (1995) など。文献：オリックス資源循環株式会社2022(寄居町)、牧野2021(さいたま市)、岩田2006(秩父市) 他。花期が特に早く、調査適期が他の

スゲ属植物と異なることが、個体数などの少なさに影響している可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
							○	



1323 カヤツリグサ科

(和名) ヒメシラスゲ

(学名) *Carex mollicula* Boott

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

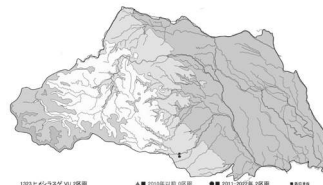
【評価所見】 前回は未確認だったが、今回の確認個体数は30未満であり、2地点の報告があった。個体数・集団数が極端に少なく、生育地が丘陵地であり、開発圧力が強い。土地造成や道路工事、自然遷移が危険要因となる。

【県内生育状況】 やや湿った沢沿いの林内などに生育する。

【特記事項】 花序をつけない稈も多いが、果胞が比較的遅くまで残っているため、同定が可能な時期は長い。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			



## 1324 カヤツリグサ科

(和名) ヤチカワズスゲ

(学名) *Carex omiana* Franch. et Sav. var. *omiana*埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】既存標本の採集地や同様の環境を複数回にわたり調査したがみつからず、今回も未確認であった。

【県内生育状況】本来は比較的貧栄養でミズゴケが生えるような湿地に生育するが、県内ではそうした湿地がすでに失われた可能性が高い。

【特記事項】標本：SMNH-As30062（寄居1994）、SMNH-As46625（寄居1995）、SMNH-As46714（嵐山1985）。文献：落合2000（寄居町）、寄居町教育委員会1997（寄居町）、寄居町教育委員会町史編さん委員会1986（寄居町）、堀江ほか1982（熊谷市）他。1998年以降は確実な生育確認がなく、絶滅したものと考えられる。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

## 1325 カヤツリグサ科

(和名) ヒメゴウソ（アオゴウソ）

(学名) *Carex phacota* Spreng.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

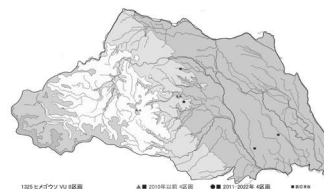
【評価所見】今回の確認個体数は100未満であり、前回の110前後よりも若干減少した。4地点の報告があった。集団数は増加したが、個体数は相変わらず少なく、開発圧力が強い低地に生育していた。自然遷移、管理放棄が危険要因となる。

【県内生育状況】池畔や休耕田などの湿地に生育する。造成地の湿地などに一時的に生育する場合もある。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○		○	



## 1326 カヤツリグサ科

(和名) タカネマスクサ

(学名) *Carex planata* Franch. et Sav.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

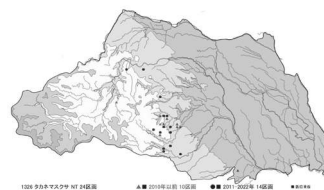
【評価所見】今回の確認個体数は800未満であり、前回の900未満から若干減少した。14地点の報告があった。個体数は減少したが、集団数は増加した。生育地が低地や丘陵地のために開発圧力が強い。自然遷移、森林伐採、道路工事が大きな危険要因となる。また踏み付けによる減少も懸念される。

【県内生育状況】湿った林内や湿地に生育する。マスクサよりも「高嶺」に生えるわけではなく、むしろ低地の植物である。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○	◎			



## 1327 カヤツリグサ科

(和名) タヌキラン

(学名) *Carex podogyna* Franch. et Sav.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

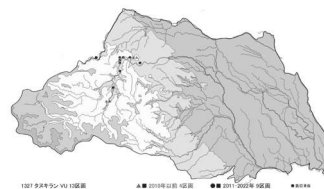
【評価所見】今回の確認個体数は1,200未満であり、前回の700未満から増加し、9地点の報告があった。群生して集団内の個体数は多いが、集団数は限られている。河川改修、園芸採取、自然遷移が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】川沿いの湿った崖などに生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。本種を片親とする雑種も報告されている。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		◎				





1328 カヤツリグサ科

〔和名〕 アブラシバ

〔学名〕 *Carex satsumensis* Franch, et Sav.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

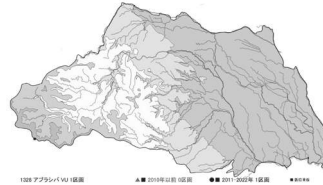
【評価所見】聞き取りにより1地点の生育が報告された。個体数、集団数ともに極端に少なく、道路工事、自然遷移が危険要因となる。

【県内生育状況】崩れた斜面や河原の砂礫地に生育する。

【特記事項】国内分布は関東以西。標本：SMNH-As43822 (1994)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								



1329 カヤツリグサ科

〔和名〕 オニナルコスゲ

〔学名〕 *Carex vesicaria* L.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】今回の確認個体数は120未満であり、前回の150未満よりも減少した。4地点の報告があった。個体数や集団数が少なく、低地に生育することから開発圧力が強い。自然遷移が危険要因となる。

【県内生育状況】低地の湿地に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As51472 (2005)、SMNH-As44210 (1995)、SMNH-As44209 (1993)。北半球に広く分布する冷温帯の植物だが、本県では低地に分布する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	○	○



1330 カヤツリグサ科

〔和名〕 カンエンガヤツリ

〔学名〕 *Cyperus exaltatus* Retz. var. *iwasakii* (Makino) T.Koyama

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 VU

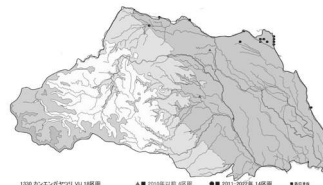
【評価所見】前回は3地点200株の報告であったが、今回調査では14地点400株の報告があった。個体数は多いと言えないが、やや増加傾向あるいは依然として平衡状態にあると考える。自然遷移、産地極限が大きな危険要因となっている。また河川敷開発、水質汚濁も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】河川敷の砂泥地に生育する。大きな群落は作らない。表土の攪乱や刈り取りなどの管理が本種の生育環境として必要である。最近では洪水等、激しい流れが頻発しており攪乱は本種の増加を促す要素となっている。

【特記事項】国内分布は本州に限定的でまれ。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
								○



1331 カヤツリグサ科

〔和名〕 アオガヤツリ

〔学名〕 *Cyperus nipponicus* Franch, et Sav. var. *nipponicus*

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

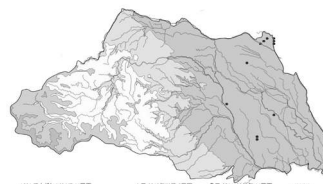
【評価所見】11地点400株の報告があった。二次メッシュも5区画になり広範囲に分布している。自然遷移が大きな危険要因となっている。また農業汚染も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】湿地や河川敷にみられる。表土の攪乱や刈り取りなどの管理が本種の生育環境として必要である。最近では洪水等、激しい流れが頻発しており攪乱は本種の増加を促す要素となっている。

【特記事項】標本：SMNH-As55755 (1997)、SMNH-As51481 (2003) など。文献：川口市2021 (川口市戸塚)、木村2020 (さいたま市岩槻区) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
							○	◎





## 1332 カヤツリグサ科

(和名) シロガヤツリ

(学名) *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi var. *pacificus*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は2地点600株であったが、今回調査では8地点900株の報告があった。やや増加傾向は認められるものの特性から見て増加であると明確に判断しにくい要素があり、引き続き確認が必要。河川改修は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地に分布し、生育地では急に大きな群落をつくる傾向がある。安定して群落が維持できるかどうか不確定要素があり継続調査の必要を認める。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○		◎	○	○



## 1333 カヤツリグサ科

(和名) ヒメガヤツリ (ミズハナビ)

(学名) *Cyperus tenuispica* Steud.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

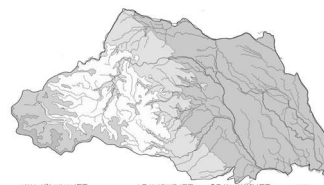
【評価所見】 前回は未発見、今回調査でも発見できなかった。発見できない状況が続いており、目視による非公式記録がある程度である。絶滅したとは言い切れない。継続調査によって発見される確率は高いと判断する。個体数については判断材料が不足し想定できない。

【県内生育状況】 水田や畔・溝または池辺などの過湿土壌に生育する。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1334 カヤツリグサ科

(和名) ミツカドシカクイ

(学名) *Eleocharis petasata* (Maxim.) Zinsserl.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

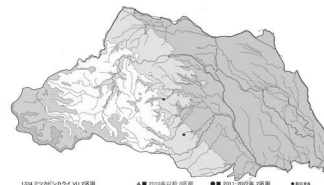
【評価所見】 本書掲載種及び関連種（スジヌマハリイ・ヌマハリイ・コツプヌマハリイ）にきわめて類似する希少種であり報告は2地点40株あった。個体数は多くても50株前後と考えられる。二次メッシュは2区画であった。湿地開発、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地や池辺に抽水する。

【特記事項】 文献：三上2022（加須市浮野）。本種をシカクイの品種とする見方もあるが、形態の違い、分布の違いなどから別種として取り扱う見解もあり後者を採用している。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



## 1335 カヤツリグサ科

(和名) セイタカハリイ

(学名) *Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.) Palla埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

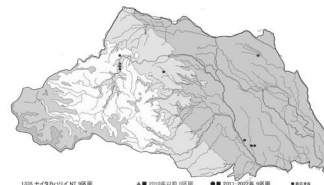
【評価所見】 複数の隣接県で確認されており、県内でも確認を行った。今回報告地点数は9地点4,000株を超えるものと推定される。管理放棄、河川敷開発、農業汚染は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 休耕田や湿地に生育する。

【特記事項】 標本はSMNH-As52754（2005）、SMNH-As47902（1996）など多数ある。文献：木村2020（さいたま市）、大塚ほか2019（長瀬町）他。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		◎			○	○



1336 カヤツリグサ科

(和名) スジヌマハリイ

(学名) *Eleocharis equisetiformis* (Meinsh.) B.Fedtsch.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 VU

【評価所見】 前回は未発見、今回調査でも発見報告はない。情報がほとんどなく個体数については現時点では想定しがたい。前回及び今回調査ともに発見できていないが絶滅したとは言い難い。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 湿地や浅水域に生育し、地下茎を伸ばし群落を形成する。大きな群落を形成する植物なので生育地が1か所みつつかれば個体数1,000を超えることは容易に予想できる。

【特記事項】 国内分布は本州・九州で限定的。文献：伊藤編1998（桶川地区）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1337 カヤツリグサ科

(和名) オオヌマハリイ（ヌマハリイ）

(学名) *Eleocharis mamillata* H.Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 EN  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

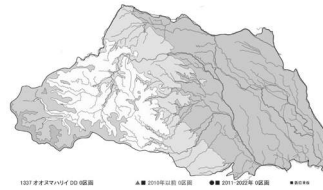
【評価所見】 前回は未発見、今回調査でも発見できなかった。2回続けて未発見のため、個体数については100株に満たないものと考え、推定根拠が乏しい。生存している可能性は否定できず、最近の生育実態は不明のままなので継続調査をして実態を明らかにする必要がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 池辺などの浅水域に比較的大きな群落をつくる。

【特記事項】 標本：SMNH-As50637（1995）、SMNH-As47909（1994）など。文献：木村2020（さいたま市）、岩槻市2005（岩槻市）、戸田市立教育研究所1982（戸田市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1338 カヤツリグサ科

(和名) コツブヌマハリイ

(学名) *Eleocharis parvinux* Ohwi

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 CR  
2005 EN 1998 VU

全国カテゴリー 2020 VU

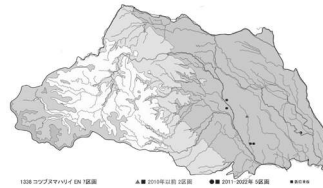
【評価所見】 前回は2地点1,000株と見積もられた。今回調査では5地点となりやや多めの報告となったが個体数は1,000株程度と見積もられた。大宮台地を中心に生育範囲は広く、個体数は少ないながら現状を維持している。

【県内生育状況】 過湿の休耕田や湿地に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東、宮城。標本：SMNH-As44546（1996）、SMNH-As44905（1994）など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	○	○



1339 カヤツリグサ科

(和名) シカクイ

(学名) *Eleocharis wichurae* Boeck.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

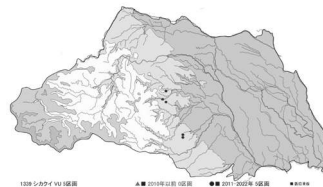
【評価所見】 本書掲載種及び関連種（スジヌマハリイ・ヌマハリイ・コツブヌマハリイ）にきわめて類似する希少種であり5地点500株の報告があった。二次メッシュは3区画であった。管理放棄、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 湿地や休耕田に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As56305（1996）、SMNH-As47900（1994）など。文献：オリックス資源循環株式会社2022（寄居町三ヶ山）等。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	○			



## 1340 カヤツリグサ科

(和名) コアゼテンツキ

(学名) *Fimbristylis aestivalis* (Retz.) Vahl埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は2地点であったが、今回調査では1地点であった。減少傾向がみられる。個体数は極めて少なく100株未満と推定する。個体数が極少であると見込まれるため継続的な観察が必要とされる。

【県内生育状況】 日当たりのよい湿地や休耕田に生育する。

【特記事項】 標本: SMNH-52756 (2006)、SMNH-52755 (2005) など。文献: 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会2018 (荒川太郎右衛門地区)、久喜市2017 (久喜市)、加須市環境安全部2016 (加須市) 他

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

## 1341 カヤツリグサ科

(和名) ノテンツキ (ヒラテンツキ)

(学名) *Fimbristylis complanata* (Retz.) Link f. *exaltata* T.Koyama埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は報告が2地点であり、その後未発見が続いており、個体数は判断する情報に乏しく推定困難である。消滅に近い状況にあるのではないかと考える。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 湿地や谷津田にごくまれに生育する。

【特記事項】 標本: SMNH-As30655 (1990)、SMNH-As45360 (1987) など。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



## 1342 カヤツリグサ科

(和名) アゼテンツキ

(学名) *Fimbristylis squarrosa* Vahl埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

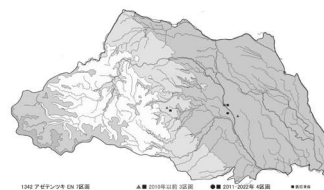
【評価所見】 前回は3地点6,000株であったが、今回調査では4地点3,500株となった。やや減少に転じていると考えられ継続調査の必要性を認める。湿地開発、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地や休耕田、畦、溝に生育する。

【特記事項】 標本: SMNH-As30655 (2006)、SMNH-As45360 (2005) など。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○	○	



## 1343 カヤツリグサ科

(和名) ハタケテンツキ

(学名) *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 EN

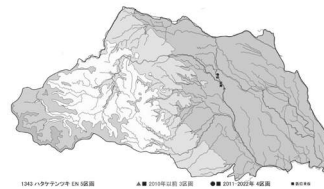
【評価所見】 前回は3地点で確認されており、いずれも50株以下であった。今回は前回確認のされた2地点に加え新知見2地点の計4地点で確認された。ほとんどの地点で確認は50株に満たない。地点は増えたが全体的にはやや減少傾向にあると考えられる。

【県内生育状況】 生育地は堤外水田地帯の畔である。生育地は公道(農道)の際に位置し道路改修により埋められる危険がある。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本: SMNH-As52757 (2007)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	



1344 カヤツリグサ科

(和名) イトイヌノハナヒゲ

(学名) *Rhynchospora faberi* C.B.Clarke

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 EN  
2005 DD 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

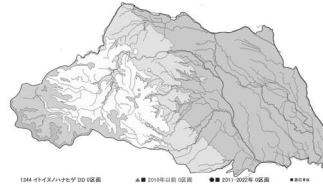
【評価所見】前々回は3地点の報告があり、その後未発見が2度続いているが消滅したとは思えない。個体数は情報が不足しており想定しにくい。過去の分布を踏まえると、極めて少なく100株には届かないものと推定する。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】平地の湿地に生える多年草。叢生して群落をつくっていた。

【特記事項】文献：伊藤 編1998（杉戸町・白岡町）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1345 カヤツリグサ科

(和名) オオイヌノハナヒゲ

(学名) *Rhynchospora fauriei* Franch.

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 DD  
2005 DD 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

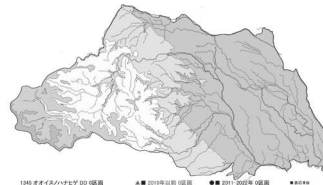
【評価所見】前回は未発見、今回調査でも発見できなかった。個体数は情報が不足しており想定しにくい。しかし消滅に近い状況まで減少している可能性がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】山中の湿地に生える多年草。叢生して群落をつくっていた。

【特記事項】標本：SMNH-As30748（1981）、SMNH-As30749（1981）。文献：中澤・小川1982（都幾川村）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1346 カヤツリグサ科

(和名) コイヌノハナヒゲ

(学名) *Rhynchospora fujiana* Makino

埼玉カテゴリー 2024 DD 2011 DD  
2005 DD 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

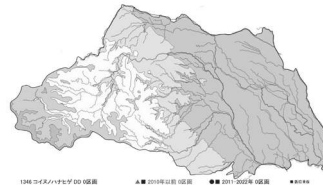
【評価所見】前回は未発見、今回調査でも発見できなかった。個体数に関しては極めて情報が乏しい。前々回は3地点で報告があるが、その後未発見で推移していることを踏まえると、個体数は100株をかなり下回るものと推定される。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】湿地に叢生していた。

【特記事項】主な標本にSMNH-As44663～44665, 45192（寄居三ヶ山1987-1992）。標本：SMNH-As44663（1987）、SMNH-As45192（1992）。文献：落合2000（寄居町）、高橋1989（寄居町）、寄居町教育委員会町史編さん室1986（寄居町）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1347 カヤツリグサ科

(和名) ヒメホタルイ

(学名) *Schoenoplectiella lineolata* (Franch. et Sav.) J.Jung et H.K.Choi

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

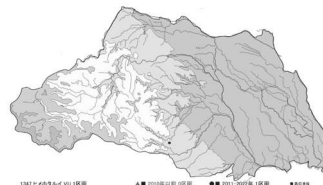
【評価所見】今回調査では目視1地点であった。情報が少なく個体数について確実なことは言えないが、100株を下回るものと推定する。前回は多くの分布が確認された結果の判定となったが、今回は報告が皆無に近く、減少が続いているものと考えられ継続して確認が必要。自然遷移、湿地開発は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】浅水域や水田・湿地に群生する抽水植物。

【特記事項】文献：三上2022（加須市浮野）、山下ほか2020（飯能市）、岩槻市2005（岩槻市）等。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			





**1348 カヤツリグサ科**  
 (和名) **タタラカンガレイ**  
 (学名) *Schoenoplectiella mucronata* (L.) J.Jung et H.K.Choi var. *tatarana* (Honda) Yashiro

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 CR  
 2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は1地点であったが、今回調査では報告9地点となり広く分布が確認された。個体数は400株前後と推定する。増加の傾向がみられる。自然遷移、湿地開発は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地や池辺の浅水域に叢生する。

【特記事項】 国内分布は本州・九州にまれで限定的。文献：三郷市2022（三郷市）、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会生態系モニタリング専門委員会2018（荒川太郎右衛門地区）、吉川市2017（吉川市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
						○	○	◎

**1349 カヤツリグサ科**  
 (和名) **タイワンヤマイ**  
 (学名) *Schoenoplectiella wallichii* (Nees) Lye

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
 2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前々回は3地点の報告があり、前回は未発見であったが、今回調査では報告2地点であった。調査を継続すれば生育情報がさらに集めることができると思われるが、個体数はおよそ300株と推定する。湿地開発、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地や池辺の浅水域に抽水する。

【特記事項】 標本：SMNH-As48093（1994）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○			

**1350 カヤツリグサ科**  
 (和名) **ノグサ**  
 (学名) *Schoenus apogon* Roem. et Schult.

埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 DD  
 2005 DD 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前々回、前回、今回とも未発見であった。未発見が続いており、個体数は情報不足で想定できない。引き続き調査が必要である。

【県内生育状況】 日当たりのよい湿地や湿った草地に生育していた。

【特記事項】 標本：SMNH-As43067（1957）。文献：太田2000（幸手市）、新座市教育委員会市史編さん室1984（新座市）、入間市市史編さん室1984（入間市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

**1351 カヤツリグサ科**  
 (和名) **コマツカサススキ**  
 (学名) *Scirpus fuirenoides* Maxim.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
 2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は未発見、今回調査では報告2地点40株であった。情報不足は否めないが、個体数はごく少なく50株前後であろうと推定する。引き続き調査を継続して情報を収集する必要がある。湿地開発、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 日当たりの良い池辺や湿地に生育する多年草である。

【特記事項】 標本：SMNH-As44436（1992）、SMNH-As30792（1985）など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
					○		○	

1352 カヤツリグサ科

〔和名〕コシンジュガヤ  
〔学名〕*Scleria parvula* Steud.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】前々回は2地点、前回は未発見、今回は1地点300株の報告があった。湿地開発、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】湿地や池辺など、日当たりのよい過湿土壤に叢生する。

【特記事項】標本：SMNH-As48809（1995）、SMNH-As20174（1985）。文献：三上2022（加須市）、落合2000（寄居町）、

加須市教育委員会1996（加須市）他。最近の文献として三上2022（加須市浮野）があり、生育の実態が明らかになった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

1353 イネ科

〔和名〕ハネガヤ  
〔学名〕*Achnatherum pekinense* (Hance) Ohwi

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

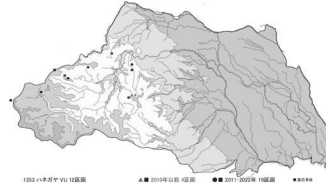
【評価所見】今回、前回ともに確認個体数は30未満であった。前回の二次メッシュによる分布では過去に13区画の生育が確認されているが、今回は7メッシュの報告にとどまった。また、個体数及び採集圧などからも絶滅の危険性が高まった。確認報告が少なく情報が不足しているため危険要因は判断できない。

【県内生育状況】山中の湿潤な草地に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎	○					



1354 イネ科

〔和名〕ミヤマヌカボ  
〔学名〕*Agrostis flaccida* Hack.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

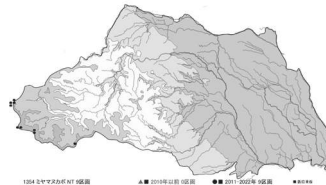
【評価所見】今回調査では9地点3,000株の報告が集められた。二次メッシュ区画は4区画となり、ほぼ亜高山帯を網羅した。産地極限が大きな危険要因となっている。またシカ食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】尾根上斜面で確認されている。本県に限れば亜高山帯を特徴づける種といえよう。

【特記事項】特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1355 イネ科

〔和名〕コミヤマヌカボ  
〔学名〕*Agrostis mertensii* Trin.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】主に高山帯に分布する種であり、本県のものについて真にコミヤマヌカボとしてよいかは分類学的な精査がさらに必要であるが、長田（1993）に示された形態に近いものを充てて評価を行った。前回は3地点150株であったが、今回調査では2地点40株の報告となった。個体数はごくわずかで、減少傾向は大きいと見る。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】尾根の斜面に点在する。

【特記事項】標本：SMNH-As53861（1986）、SMNH-As53861（1998）、岩田標本72713（2004）。長田（1993）に従い、コミヤマヌカボの芒は長さ2.3-3.5mmで護穎の中央部よりやや下部から突き出すのに対し、ミヤマヌカボでは芒は3-5.5mmと長く護穎の基部近くから突き出すものとしたが、区別のはっきりしないものもあり、正確には染色体を確認する必要がある（Tateoka, 1975）。ミヤマヌカボと生育環境はほとんど同じだがコミヤマ

ヌカボの個体数はミヤマヌカボより少ない。しかしコミヤマヌカボの生育地はまだ多くあるものと推定され継続調査が求められる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1356 イネ科

(和名) エゾヌカボ

(学名) *Agrostis scabra* Willd.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回は未発見、今回の調査では目視による生育確認4地点があった。個体数はきわめてわずかと推定され、コミヤマヌカボの個体数よりもさらに下回るものとする。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 斜面に小さな株をつくる。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As50493 (1998)、岩田標本59557 (1999)、岩田標本58771 (1999)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○					



1357 イネ科

(和名) ヒメコヌカグサ

(学名) *Agrostis valvata* Steud.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU  
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 NT

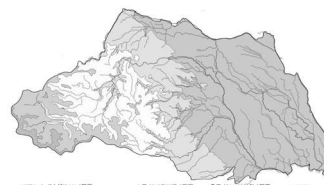
【評価所見】 前回は未発見、今回もまた発見できなかった。過去において亜高山帯、低地帯、丘陵帯に広く分布が確認されており、ここ2回続けて未発見の事実を考え合わせると相当に減少している実態が浮かんでくる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 生育環境は半日蔭、やや湿った土壌の林床となる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1358 イネ科

(和名) セトガヤ

(学名) *Alopecurus japonicus* Steud.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

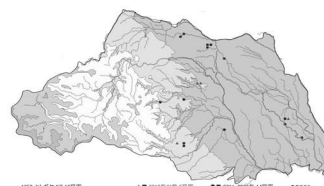
【評価所見】 前回は2地点900株の報告があった。今回の調査では14地点2,500株の報告があった。やや増加の傾向があると考えられる。管理放棄、自然遷移、水質汚濁、農業汚染は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 休耕田・畔・溝に小さな群落をつくる。

【特記事項】 国内分布は関東以西

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○	○	◎



1359 イネ科

(和名) タカネコウボウ

(学名) *Anthoxanthum horsfieldii* (Kunth ex Benn.) Mez ex Reeder var. *japonicum* (Maxim.) Veldkamp埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

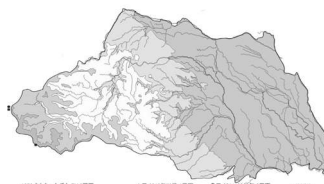
【評価所見】 前回は三国尾根1地点80株の報告であった。今回調査では、三国尾根に加えて雁峠周辺でも確認され報告3地点100株前後となった。分布は大きく2か所となるが両者は連続性に乏しく増加した結果とは言いがたい。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 尾根に点在し、林床または草地を特徴づけるものである。

【特記事項】 標本：SMNH-As21734 (1953)、岩田標本72598 (2004)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1360 イネ科

〔和名〕 コウボウ

〔学名〕 *Anthoxanthum nitens* (Weber) Y.Schouten et Veldkamp var. *sachalinense* (Printz) Yonek.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

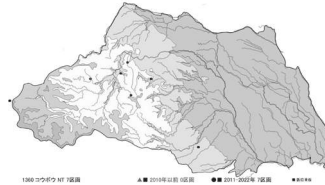
【評価所見】 減少の著しい希少種として調査を行い、報告は7地点200株であった。報告地点数が多いことから分布は広範におよぶことが想定される。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 日当たりのよい草地に生える。

【特記事項】 標本：SMNH-As26552 (1985)、SMNH-As57015 (2015) など、仮標本多数。文献：岩田・林2020 (牛首峠・三国尾根)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○	○	◎	○	○	○			



1361 イネ科

〔和名〕 コウヤザサ

〔学名〕 *Brachyelytrum japonicum* (Hack.) Hack, ex Honda

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

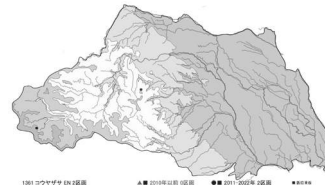
【評価所見】 前回は未発見、今回調査では目視による報告が2地点である。個体数は極めて少ないと推定する。増加の兆しはない。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 湿った林床に出現する。

【特記事項】 標本：SMNH-As19369 (1970)、岩田標本66917 (2002)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							



1362 イネ科

〔和名〕 ヒメアブラスキ

〔学名〕 *Capillipedium parviflorum* (R.Br.) Stapf

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

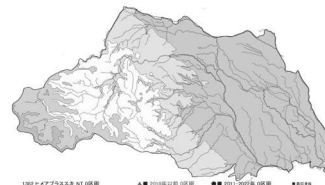
【評価所見】 前回は未発見、今回調査でも発見できなかった。個体数は情報が不足しており推定できない。継続調査によって生育の実態を明らかにする必要がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 二次林の林床・林縁、または草地・路傍に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1363 イネ科

〔和名〕 フサガヤ

〔学名〕 *Cinna latifolia* (Trevir.) Griseb.

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

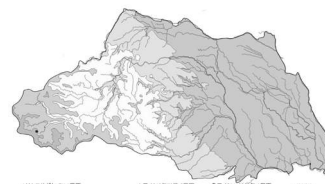
【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は0である。今回は1地点のみの報告であった。県内の生育範囲は限られているが、第1種特別地域内であるため、現在の生育環境は維持されると思われる。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 山林の日陰で生育する多年草。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As19191 (1986)、岩田標本61084 (1986)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							





## 1364 イネ科

(和名) オガルカヤ

(学名) *Cymbopogon tortilis* (J.Presl) A.Camus var. *goeringii* (Steud.) Hand.-Mazz.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】4地点90株の報告があった。二次メッシュ区画では3区画に分布していることが分かった。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】日当たりのよい草地に点在する。

【特記事項】標本: SMNH-As52493 (2007)、SMNH-As22490 (1983) など多数。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				○



## 1365 イネ科

(和名) カリマタガヤ

(学名) *Dimeria ornithopoda* Trin. var. *tenera* (Trin.) Hack.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

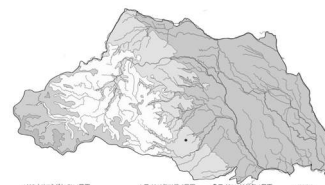
【評価所見】今回の確認個体数は50未満で前回は0である。今回の調査では開発圧力の強い日高市女影で生育報告があったのみであり、減少傾向が明らかとなった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】県内では平地の二次林で記録された。

【特記事項】標本: SMNH-As26276 (1982)

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



## 1366 イネ科

(和名) ミズタカモジ

(学名) *Elymus humidus* (Ohwi et Sakam.) A.Löve埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 VU

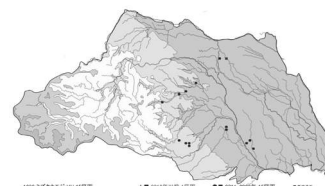
【評価所見】前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は700未満であった。飯能市・日高市・川越市・ときがわ町・東松山市・行田市の広範囲で確認され、明らかな増加傾向が認められた。管理放棄、湿地開発が大きな危険要因となっている。加えて農業汚染も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】休耕田の畦など日当たりの良い湿気のあるところに生育する。

【特記事項】今回の報告地点の大半は市街化調整区域内である。

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					◎	◎	○	○



## 1367 イネ科

(和名) エゾカモジグサ

(学名) *Elymus pendulinus* (Nevski) Tzvelev var. *yezoensis* (Honda) Tzvelev埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

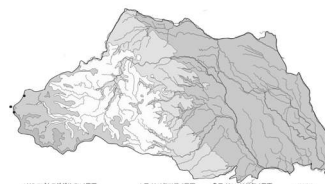
【評価所見】前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は70未満であった。三国峠・梓白岩・滝谷山の3地点で確認されたものの、個体数はごくわずかであり、危機的な状況は変わらない。シカ食害、産地極限は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】日当たりの良い環境に生育する。

【特記事項】国内分布は埼玉、岩手、長野に限定的。標本: SMNH-As54158 (1986)、岩田標本72516 (2004)、岩田標本66121 (2002) など。文献: 三村ほか2023 (三国峠付近)、五十嵐・岩田2005 (東大秩父演習林) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1368 イネ科

(和名) エゾムギ

(学名) *Elymus sibiricus* L.

埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 DD  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 CR

【評価所見】 前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は10未満であった。三国峠で生育の確認ができた。危険要因としてシカによる食害及び踏み荒らしなどによる生育環境の悪化が懸念される。

【県内生育状況】 草原や沢沿いの草地などに生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As59296 (2022)、SMNH-As53884 (1997) など。文献：三村ほか2023 (三国峠付近)、岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか2000 (大滝村) 他

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

1369 イネ科

(和名) ムツオレグサ

(学名) *Glyceria acutiflora* Torr. subsp. *japonica* (Steud.) T.Koyama et Kawano

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 NT  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

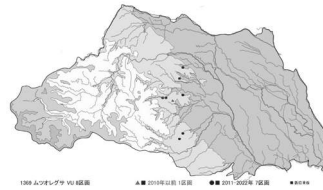
【評価所見】 今回の確認個体数は400以上で前回は100以上である。地点数では、前回では1地点の報告であり、今回は7地点であった。しかし、二次メッシュによる分布では過去に16区画の生育が確認されているが、今回は4区画の報告にとどまった。また、集団数評価などからも絶滅の危険性が高くなったと考えられる。産地極限、管理放棄、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 休耕田、湿地などに生える多年草。

【特記事項】 今回生育が確認されたのは休耕田や谷戸が多く、今後の管理次第では生育地が減少する可能性はある。また、生育地の大半が市街化調整区域に含まれていることもあり、土地利用の変更に影響される可能性もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	◎			



1370 イネ科

(和名) ウキガヤ

(学名) *Glyceria depauperata* Ohwi

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

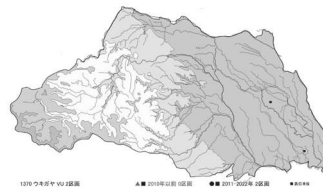
【評価所見】 前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は320未満であった。今回は、2メッシュより報告されたものの、2003年に記録された地点では確認できなかった。なお、ヒメウキガヤは本種に含めて評価した。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 水辺に生え、葉は水に浮く。

【特記事項】 護穎の長さ3mm内外のものをヒメウキガヤ var. *depauperata*、護穎が長さ5mm内外になるものをウキガヤ var. *infirmata* (Ohwi) Ohwiとして区別することもあるが、差異は不明確であるため、今回は茨城ほか (2016) に従い広義ウキガヤとして扱った。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
							○	○



1371 イネ科

(和名) ミサヤマチャヒキ

(学名) *Helictotrichon hideoi* (Honda) Ohwi

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

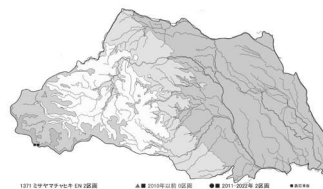
【評価所見】 前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は10,000以上であった。今回調査では雁峠や笠取山周辺で群生地が確認されたものの、調査不足で、さらに実態を明らかにする必要ある。自然遷移、踏み付け、シカ食害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州中部の山地で限定的。標本：仮標本 (ト沢1996)、岩田標本62961 (2001)。文献：鐵ほか2021 (秩父市大滝)、岩田・林2020 (雁坂峠～雁峠)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								



## 1372 イネ科

(和名) アズマガヤ

(学名) *Leymus duthiei* (Stapf) Y.H.Zhou et H.Q.Zhang ex C.Yen, J.L.Yang et B.R.Baum subsp. *longearistatus* (Hack.) Y.H.Zhou et H.Q.Zhang var. *longearistatus* (Hack.) Y.H.Zhou et H.Q.Zhang ex C.Yen, J.L.Yang et B.R.Baum埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

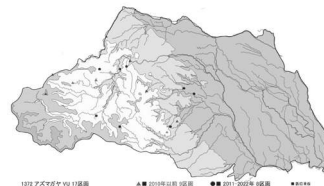
【評価所見】 今回の確認個体数は200以上で前回は450以上である。毛呂山町・ときがわ町・秩父市・小鹿野町で確認された。前回に比べ報告件数が少なく、減少傾向が認められた。生育地の多くで開発圧力が強いことを踏まえると絶滅の危険性が高くなったと考えられる。自然遷移、シカ食害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 林床、林縁及び沢沿いに生育する。

【特記事項】

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○	○	○	◎		



## 1373 イネ科

(和名) ハイチゴザサ

(学名) *Isachne nipponensis* Ohwi埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

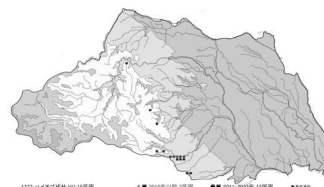
【評価所見】 今回の確認個体数は16,000以上で前回は5,000以上である。確認地点の大部分が入間市・飯能市・越生町ではあるものの、多くの地点で確認が報告された。また、群生するため個体数は大きくなる。減少懸念はないと考え、絶滅の危険性は低くなったと考える。森林伐採、自然遷移、踏み付け、道路工事が大きな危険要因となっている。また土地造成も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林道沿いや林内特に沢沿いに生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		◎			



## 1374 イネ科

(和名) ミノボロ

(学名) *Koeleria macrantha* (Ledeb.) Schult. et Schult.f.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

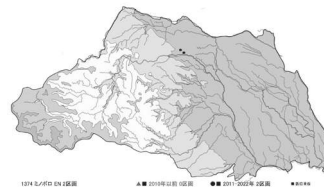
【評価所見】 複数の隣接県で確認されており、県内でも確認を行った。結果は報告2地点300株となった。二次メッシュ1区画での確認となる。草地開発、自然遷移は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりのよい草地に生える。

【特記事項】 国内分布は本州中北部に限定的。標本：SMNH-As48322 (2004) ほか、仮標本9点がある

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



## 1375 イネ科

(和名) カリヤスモドキ

(学名) *Miscanthus oligostachyus* Stapf埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN  
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

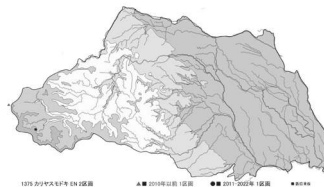
【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数は100未満であった。生育地からみても現状に変化はないものと推定する。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 石灰岩地ではない岩場の隙間に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As53845 (1986)、岩田標本61608 (2002)、岩田標本66160 (1999) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

## 【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1376 イネ科

(和名) ヌマガヤ

(学名) *Moliniopsis japonica* (Hack.) Hayata

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 EN  
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

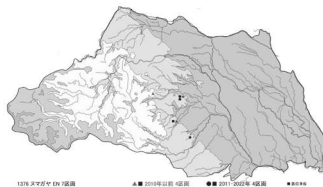
【評価所見】 今回の確認個体数は120未満で前回は150未満である。個体数は極めて少なく、また減少傾向は顕著になっている。精査の結果、個体数・集団数などに不確定要素があり、さらに実態を明らかにする必要がある。自然遷移、湿地開発は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 主に休耕田や湿地に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



1377 イネ科

(和名) キダチノネズミガヤ

(学名) *Muhlenbergia ramosa* (Hack.) Makino

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

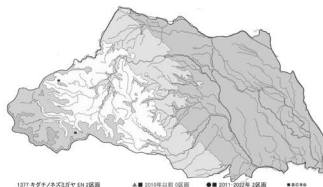
【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数1,000未満であった。前回の調査では二次メッシュで6区画確認されたが、今回は2区画であった。個体数、集団数などからも減少傾向にあると考えられる。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 林床や林道沿いに生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As26721 (1985)、SMNH-As26719 (1981)、SMNH-As19490 (1981)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1378 イネ科

(和名) ヒロハノハネガヤ

(学名) *Patis coreana* (Honda) Ohwi

埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 NT  
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

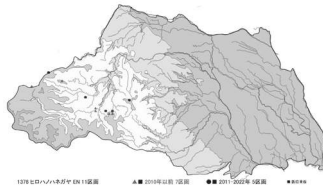
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000未満で前回は2,300未満である。二子山・武甲山・県民の森などで確認されたが個体数は多くない。前回調査よりも減少傾向が認められる。森林伐採が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林内や林縁などに生育する多年草。

【特記事項】 標本：SMNH-As19526 (1984)、SMNH-As27316 (1979)。文献：岩田2021野外調査研究5武甲山、東京、神奈川、山梨、長野では絶滅危惧種の扱いである。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1379 イネ科

(和名) セイタカヨシ (セイコノヨシ)

(学名) *Phragmites karka* (Retz.) Trin. ex Steud.

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU  
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 なし

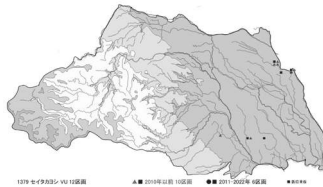
【評価所見】 今回の確認個体数は13,000以上で前回は26,000以上である。本種は群生するため個体数は非常に大きくなっている。不確定要素があるため調査の継続が必要とされる。河川改修、土地造成、管理放棄は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 河川または池沼などの水辺の岸に群落をつくる。

【特記事項】 今回確認された全ての地点が市街化調整区域または市街化区域内にあった。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	◎



維管束植物

蘇苔類

藻類

地衣類

菌類



**1380 イネ科** 埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR  
2005 CR 1998 CR

(和名) **タカネタチイチゴツナギ**  
(学名) *Poa glauca* Vahl var. *glauca* 全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は50未満であった。2地点の報告は、二次メッシュによる分布において1区画であり、分布は限定的である。個体数もごくわずかである。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 石灰岩地の草地、尾根上に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州中部の高山岩地に限定的。文献：愛川2003（大滝村）、植物誌活用部会2001（十文字地区）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

**1381 イネ科** 埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN  
2005 EN 1998 EN

(和名) **イトイチゴツナギ**  
(学名) *Poa matsumurae* Hack. 全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は100未満で前回は0であった。二次メッシュによる分布において前回同様1区画の報告である。現状に変化はないものの、個体数はごくわずかと推定する。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 風衝ササ草地や林縁、尾根上でみられる。

【特記事項】 国内分布は本州中北部山地に限定的。標本：SMNH-As53882（1986）岩田標本72601（2004）など。文献：鐵ほか2021（秩父市）、岩田2005（秩父山地）、岩田ほか2000（大滝村）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

**1382 イネ科** 埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

(和名) **ムカゴツツリ**  
(学名) *Poa tuberifera* Faurie ex Hack. 全国カテゴリ 2020 なし

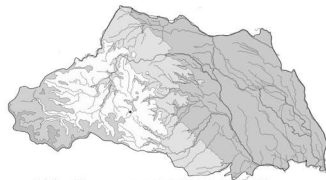
【評価所見】 前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は10未満であった。今回調査では旧正丸峠周辺の生育が確認できた。個体数は極めてわずかである。シカ食害は懸念される危険要因となる。旧正丸峠周辺で確認されたものはシカによる食害がみられた。

【県内生育状況】 沢沿いなどの湿潤な林床に生育する。

【特記事項】 標本：岩田標本49148（1997）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



**1383 イネ科** 埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 VU  
2005 EN 1998 なし

(和名) **ウキシバ**  
(学名) *Pseudoraphis sordida* (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen 全国カテゴリ 2020 なし

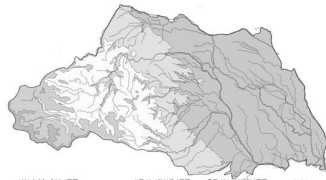
【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数0であった。1944年、吉見八丁湖で確認されているが、今回の調査では発見することができなかった。生育未確認だが生存の可能性は否定できない。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 河川や池沼の浅水中に生育する。

【特記事項】 文献：伊藤 編1998（大宮市）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1384 イネ科

〔和名〕ウシクサ

〔学名〕*Schizachyrium brevifolium* (Sw.) Nees ex Büse

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

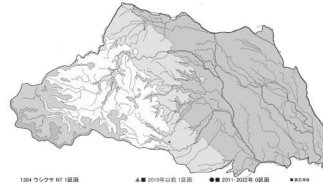
【評価所見】今回、前回ともに確認個体数0であった。2005年に飯能で確認されているが、今回調査では発見することができなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】日当たりの良い半裸地的な湿り気のある草地に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1385 イネ科

〔和名〕ヒゲシバ

〔学名〕*Sporobolus japonicus* (Steud.) Maxim. ex Rendle

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 NT  
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】前回個体数1,000未満、二次メッシュによる分布において3区画で記録がある。今回の調査では発見することができなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】湿り気のある半裸地的な草地や田畑に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地



1386 イネ科

〔和名〕メガルカヤ

〔学名〕*Themeda barbata* (Desf.) Veldkamp

埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 なし  
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

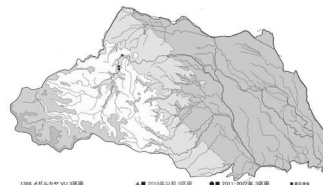
【評価所見】3地点90株の報告があった。二次メッシュ区画では2区画である。分布に広がりはあるが個体数はきわめて少なくなっている。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】日当たりのよい草地に点在する。

【特記事項】標本：SMNH-As48324 (2005)、SMNH-As52601 (2005) など多数。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○				



1387 マツモ科

〔和名〕マツモ

〔学名〕*Ceratophyllum demersum* L.

埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU  
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】前回は中川の東側流域に多く9,000株が確認されていた。今回もおよそ9,000株、ほぼ現状維持の状況にある。分布は中川の西側流域から大宮台地に広がっており絶滅の危険性は徐々に低くなっている。

【県内生育状況】池沼湿地を中心に広範に分布する。生育環境は清水域のみならずそれ以外の水域にも多く確認されている。水草として流通しており一般家庭で魚類飼育の必需品として広範囲に利用されているのではないかと推測される。

【特記事項】自生品と逸出品の識別が困難な種といえる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
				○	○	○	○	◎

